

【主催】

明治大学危機管理研究センター

特定非営利活動法人日本危機管理士機構・日本自治体危機管理学会

【文部科学省私立大学戦略的研究基盤形成支援事業（平成25年～平成29年）】

特定非営利活動法人日本危機管理士機構 会長特別講演 日本自治体危機管理学会 第29回定例研究会

2015年5月23日(土) 14:15～17:00

明治大学 駿河台キャンパス アカデミーコモン9階
【309E教室】

東京都千代田区神田駿河台1-1

●第1部 第29回定例研究会

14時15分～15時45分

「東京オリンピック継続計画OCPと
緊急事態初動対応マニュアルの提案」

講師：中林一樹(明治大学大学院特任教授)



●第2部 会長特別講演

16時00分～17時00分

「東日本大震災と復興」

講師：伊藤滋(早稲田大学特命教授)

お問い合わせ

明治大学危機管理研究センター

TEL:03-3296-4421/4422 FAX:03-3296-4425

E-mail:crisishp@meiji.ac.jp/info@jiem.jp



写真・東京都建設局提供



映像・国土交通省荒川下流河川事務所/NHK提供

・・・シンポジウム・・・

水災害時の避難のあり方について

～首都東京に起こりうる大規模水害、高潮に備えて～

大規模な水災害の発生リスクが高まるなか、国や地方自治体等が緊密に連携し、円滑かつ迅速な避難体制を整備することが不可欠となっています。災害発生の高まりを理解し、避難の考え方の明確化、避難準備情報、避難勧告・避難指示の実効性の向上から、確実な安全確保のための情報提供体制の構築、広域避難時の体制構築をめざしたシンポジウムを開催します。ぜひ、ご参加ください。



写真・東京都建設局提供



写真・中野区提供

2015 **6/30** (火) **14:00~17:00**
(開場 13:30~) **事前申込不要です**

新宿NSビル 30階
ホールA・B

開催内容：開催挨拶(明治大学 中邨章 名誉教授)
基調講演(明治大学 青山侑 教授)
パネラーによる提言及び事例紹介
パネルディスカッション 等

参加対象者 行政職員に限ります。当日、お名刺を受付にて頂戴致します。

参加無料
定員 **400名**



|主催| 日本自治体危機管理学会 |後援| 東京都

|協力| 株式会社オリエンタルコンサルタンツ

お問い合わせ：株式会社オリエンタルコンサルタンツ(防災事業推進室 中尾・木村) **03-6311-7863**

講演者・パネラーの紹介

開会挨拶

中邨 章
なかむら あきら

明治大学 名誉教授
政治学博士

カリフォルニア州立大学講師、ブルッキングス研究所研究員、カナダ・ビクトリア大学講師などを経て、明治大学名誉教授、日本自治体危機管理学会会長。明治大学副学長・大学院長、国際行政学会副会長、国際連合行政委員会委員等を歴任。

基調講演



**災害発生リスクの高まり、
避難体制の構築の必要性**

青山 侑

あおやま やすし

明治大学公共政策大学院 教授
政治学博士

東京都庁に入庁。中央市場・目黒区・政策室・衛生局・都立短大・都市計画局・生活文化局等を経て、高齢福祉部長、計画部長、政策報道室理事等を歴任。1999年から2003年までは、石原慎太郎知事のもとで東京都副知事(危機管理、防災、都市構造、財政等を担当)を歴任。

パネラーと提言および事例の紹介



**国土強靱化も踏まえた
広域連携の必要性**

中林 一樹

なかばやし いつき

明治大学危機管理研究センター 特任教授
首都大学東京 名誉教授
工学博士

東京都立大学大学院都市科学研究科教授を経て、2011年4月から明治大学危機管理研究センター特任教授。阪神・淡路大震災や東日本大震災、台湾・集集地震、トルコ・イズミット地震など国内外の災害復興プロジェクトに携わる。中央防災会議首都直下地震避難対策等専門調査会座長(内閣府)、ナショナルレジリエンス(防災・減災)懇親会防災担当委員(内閣官房)等を歴任。

パネラーと提言および事例の紹介



**大規模水害に対する区や
NPOとの取り組み、
避難シミュレーション技術の活用**

加藤 孝明

かとう たかあき

東京大学生産技術研究所 准教授
工学博士

東京大学大学院工学系研究科都市工学専攻助教を経て、2010年4月から東京大学大学院生産技術研究所准教授。災害シミュレーション技術をはじめとする防災性評価技術、それを社会に結びつける「まちづくり支援技術」の開発を行う一方で、市民協働の防災まちづくりに実践的に取り組む。民間と市場の力を活かした防災力向上に関する専門調査会委員(内閣府)、密集市街地の整備基準のあり方検討委員会委員(国土交通省)等を歴任。

パネラーと提言および事例の紹介



**各自治体の
避難情報提供のあり方**

大原 美保

おおはら みほ

国立研究開発法人 土木研究所 主任研究員
工学博士

東京大学大学院生産技術研究所准教授を経て、2014年から土木研究所水災害・リスクマネジメント国際センター水災害研究グループ主任研究員。国内外の災害常襲地帯の現場ニーズを踏まえた被害軽減策の提案やリスクアセスメント手法の体系化に取り組んでいる。東日本大震災における災害応急対策に関する検討会委員(内閣府)、交通政策審議会陸上交通分科会専門委員(国土交通省)等を歴任。

パネラーと提言および事例の紹介

東京都長期ビジョンや東京都の防災プラン等、防災対策について

裏田 勝己
うらた かつみ

東京都総務局 防災計画担当部長

カスリーン台風等での被害事例、東京東部低地帯の発生リスクについて

中島 高志
なかじま たかし

東京都建設局 河川部長

江戸川区における大規模水害への備えについて

浅川 賢次
あさかわ けんじ

江戸川区 危機管理室 室長

荒川下流域における大規模水害時の垂直避難について

中尾 毅
なかお たけし

(株)オリエンタルコンサルタンツ
防災事業推進室長 兼 河川港湾部長

日本自治体危機管理学会

〒101-8301 東京都千代田区神田駿河台1-1 明治大学駿河台校舎グローバルフロント10階410G Tel.03-3296-4421

株式会社オリエンタルコンサルタンツ

〒151-0071 東京都渋谷区本町3-12-1 住友不動産西新宿ビル6号館 Tel.03-6311-7863

第30回

明治大学危機管理研究センター
日本自治体危機管理学会
定例研究会

【文部科学省私立大学戦略的研究基盤形成支援事業（平成25年～平成29年）】

2015年

7月15日 水 18:30-20:00

明治大学駿河台キャンパス アカデミーコモン9階【309J教室】
東京都千代田区神田駿河台1-1

「口蹄疫による牛酪農家への
対応を含む行政対応」(仮)

講師：永松 伸吾

(関西大学社会安全学部・教授)

参加申込
お問い合わせ

日本自治体危機管理学会事務局

TEL: 03-3296-4421

E-mail: crisishp@meiji.ac.jp

平成27年度 日本危機管理士機構

危機管理士 2級試験 社会リスク編

講座プログラム

2015年8月6日（木）

- 10:15-10:30 開講式・オリエンテーション 明治大学 市川 宏雄
10:30-12:00 危機管理概論 明治大学 市川 宏雄
13:00-14:30 国民保護 神奈川大学 幸田 雅治
14:40-16:10 感染症 国立保健医療科学院 大山 卓昭
16:20-17:50 大規模事故と広域医療対応 日本DMAT 近藤 久禎

※ 18:00～ 意見交換・交流会 開催予定

2015年8月7日（金）

- 09:20-10:50 業務継続計画(BCP) 東京海上日動リスクコンサルティング(株) 指田 朝久
11:00-12:30 情報セキュリティ (株)日立製作所 相羽 律子
13:30-15:00 人為災害・事故とリスク・保険 損保ジャパン日本興亜リスクマネジメント(株) 高橋 孝一
15:10-18:20 危機管理演習・報告会（地域の安全、防犯）立正大学 小宮 信夫

2015年8月8日（土）

- 10:30-12:00 危機管理士総論 関西大学 河田 恵昭
13:00-14:30 危機管理士 2級(社会リスク)試験
14:40-14:55 閉講式・修了証認定 明治大学 市川 宏雄

※ なお、講座プログラムが変更となる場合がございます。



市川 宏雄 氏



幸田 雅治 氏



大山 卓昭 氏



近藤 久禎 氏



指田 朝久 氏



相羽 律子 氏



高橋 孝一 氏



小宮 信夫 氏



河田 恵昭 氏

会場 明治大学 駿河台校舎内 リバティタワー

JR中央線・総武線、東京メトロ丸ノ内線：御茶ノ水駅

東京メトロ千代田線：新御茶ノ水駅

受講料・受験料 5万円（内訳：受講料4万円及び受験料1万円）

お申込み先 東京都千代田区神田駿河台1-1 明治大学危機管理研究センター内
日本危機管理士機構

tel : 03(3296)4422 fax : 03(3296)4425 URL : <http://jiem.jp> E-mail : info@jiem.jp

●「日本危機管理士機構」は、「危機管理士制度」の運用・資格管理を行う団体で、平成23年9月1日に発足しました。詳細は、講座お申込み先までお問い合わせ下さい。

【会長】早稲田大学特命教授 伊藤 滋 【理事長】明治大学教授 市川 宏雄

●危機管理士®は、日本自治体危機管理学会の登録商標です。

【主催】日本危機管理士機構・日本自治体危機管理学会

明治大学危機管理研究センター（文部科学省私立大学戦略的研究基盤形成支援事業〈平成25年～平成29年〉）

受験者
募集中

第9回

文部科学省私立大学戦略的研究基盤形成支援事業
(平成25年度～平成29年度)

日本自治体危機管理学会 2015年度研究大会

【共催】明治大学危機管理研究センター・NPO法人日本危機管理士機構

日時

2015年

10月24日 土 10:00-18:00

明治大学駿河台キャンパス リバティータワー13階
東京都千代田区神田駿河台1-1

共通
論題

10:10～12:30

「危機管理と法整備」

コーディネーター 鈴木 潔(専修大学法学部)

分科会
I・II

13:30～15:30

・「地方自治体にとっての「食品安全問題」

…求められる適切なリスク管理」

コーディネーター 遠藤保雄(仙台大学)

・「空家・老朽家屋の危機管理」

コーディネーター 平修久(聖学院大学政治経済学部)

分科会
III・IV

15:45～17:30

・「危機管理士1級セッション」

コーディネーター 市川宏雄(明治大学専門職大学院長)

・「災害時の広域連携における関係機関の連携」

コーディネーター 幸田雅治(神奈川大学法学部)

ご予約
お問い合わせ

日本自治体危機管理学会事務局

TEL:03-3296-4421 E-MAIL:crisishp@meiji.ac.jp

URL:<http://www.jemaweb.org/index.html>

大会プログラム

- ◆開会挨拶 10:00～10:10(受付開始は9:30)
 - ◆共通論題 10:10～12:30(会場:リバティータワー1134教室)
共通論題「危機管理と法整備」
 - 報告者 横川寧伴(国土交通省航空局)
小牧兼太郎(総務省自治行政局)
渡辺大介(東京都保健福祉局)
 - 討論者 砂金祐年(常磐大学)
 - 司会者 鈴木 潔(専修大学)
 - ◆休憩 12:30～13:15
 - ◆臨時総会 13:20～13:25(会場:リバティータワー1134教室)
 - ◆分科会Ⅰ・Ⅱ 13:30～15:30(会場:リバティータワー13階1134・1135教室)
分科会Ⅰ「地方自治体にとっての「食品安全問題」...求められる適切なリスク管理」
 - 報告者 唐木英明(食の安全安心財団理事長・東京大学名誉教授)
栗本まさ子(日本乳業技術協会代表・前食品安全委員会事務局長)
 - 司会者 遠藤保雄(仙台大学)
 - 分科会Ⅱ「空家・老朽家屋の危機管理」
 - 報告者 行武憲史(公益財団法人日本住宅総合センター)
寺澤昌人(京都府京都市)
木村幸樹(秋田県鹿角市)
 - 司会者 平 修久(聖学院大学)
 - ◆分科会Ⅲ・Ⅳ 15:45～17:45(会場:リバティータワー13階1134・1135教室)
分科会Ⅲ「危機管理士1級セッション」
 - 報告者 後藤武志(長野県飯田市)
鵜飼 進(神奈川県横須賀市)
納田里織(東京都西東京市議会)
 - 司会者 市川宏雄(明治大学)
 - 分科会Ⅳ「災害時の広域応援における関係機関の連携」
 - 報告者 小林栄樹(防衛省・自衛隊栃木地方協力本部)
外岡達朗(静岡県危機管理監)
中井幹晴(総務省消防庁)
 - 討論者 牛山久仁彦(明治大学)
 - 司会者 幸田雅治(神奈川大学)
 - ◆懇親会 18:00～19:30(会場:アカデミーコモン1階カフェパンセ)
- ※プログラム・報告者・教室等が変更となる場合があります。その際はメール、ホームページ等でお知らせいたします。

明治大学危機管理研究センター・日本自治体危機管理学会
【文部科学省私立大学戦略的研究基盤形成支援事業（平成25～29年度）】

第31回定例研究会

聴講
無料

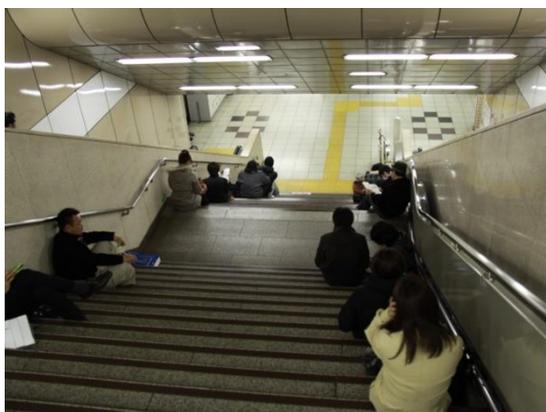
日時：2015年12月16日（水） 18:30～20:00

場所：明治大学駿河台キャンパス アカデミーコモン8階308E教室

発表者：柴田 高広 氏

（株式会社三菱総合研究所 科学・安全政策研究本部）

テーマ：「防災における民間企業の役割」（仮）



東日本大震災時の帰宅困難者
(2011年3月11日 神保町駅にて撮影)



帰宅困難者受け入れの様子
(2011年3月11日 明治大学にて撮影)

どなたでもお気軽にご参加頂けます。

聴講希望の方は、お名前とご所属先を明記の上、
下記メールアドレスもしくはホームページからお申込み下さい

明治大学危機管理研究センター・日本自治体危機管理学会事務局

E-mail: crisishp@meiji.ac.jp TEL:03-3296-4421 Fax:03-3296-4425

URL: <http://www.kisc.meiji.ac.jp/~crisishp/ja/index.html>

自治体危機管理研究 第16号

日本自治体危機管理学会誌

特集：2015年度研究大会

目次

大会プログラム	1
■共通論題「危機管理と法整備」■	
無人航空機に関するルール整備の状況について	横川 寧伴 ●
東日本大震災における対応～原発避難者特例法を中心に～	小牧兼太郎 ●
東京都の危険ドラッグ対策について	渡辺 大介 ●
■分科会Ⅰ「地方自治体にとっての「食品安全問題」…求められるリスク管理」■	
リスクを判断する方法—本能と理性の接点を探る—	唐木 英明 ●
食品の安全を守るためのしくみ～安心へ	
「食品の安全」…その確保のための制度・役割分担とその変遷	栗本まさ子 ●
■分科会Ⅱ「空家・老朽家屋の危機管理」■	
空き家の実態と危険性	行武 憲史 ●
管理不全空き家に係る建築基準法に基づく代執行	寺澤 昌人 ●
鹿角市における危険老朽空き家対策の取り組み	木村 幸樹 ●
■分科会Ⅲ「危機管理士1級セッション」■	
防災・減災の普及啓発—飯田市の挑戦！—	後藤 武志 ●
マルチハザードへの行政の対応（横須賀市の取り組み）	鵜飼 進 ●
災害時における自治体議会の果たす役割	納田 里織 ●
■分科会Ⅳ「災害時の広域応援における関係機関の連携」■	
東日本大震災々害派遣活動における自衛隊と関係機関との連携	小林 栄樹 ●
大規模災害時の広域応援部隊の運用に関する考察	外岡 達朗 ●
消防の広域応援と関係機関連携	中井 幹晴 ●

学会誌『自治体危機管理研究』原稿募集	●
学会誌『自治体危機管理研究』投稿規程	●
学会誌『自治体危機管理研究』執筆要綱	●
日本自治体危機管理学会 学会規約	●

危機管理士1級試験

講座プログラム

2016年1月8日（金）

- 09:30 - 10:00 開講式・オリエンテーション 明治大学 市川 宏雄
 10:00 - 11:30 意思決定(社会リスク) 明治大学 市川 宏雄
 12:30 - 14:00 同上
 14:15 - 19:15 図上訓練企画 岩手大学 越野 修三
 ※19:30～ 意見交換・交流会 開催予定

2016年1月9日（土）

- 10:00 - 11:30 計画策定 工学院大学 村上 正浩
 12:30 - 17:30 同上

2016年1月10日（日）

- 10:00 - 11:30 リスク評価と計画・評価 京都大学 牧 紀男
 12:30 - 15:45 同上
 16:00 - 19:15 意思決定(自然災害) 明治大学 青山 侑

2016年1月11日（月・祝）

- 10:00 - 12:30 危機管理士1級試験（レポート）
 13:30 - 15:00 危機管理士1級試験（ディスカッション・口頭試問）
 15:10 - 15:30 閉講式 明治大学 市川 宏雄

※講座プログラムは予告なく変更となる場合がございます。



市川 宏雄氏



越野 修三氏



村上 正浩氏



牧 紀男氏



青山 侑氏

申込
受付中

会場

明治大学 大学会館 3階 第1会議室

JR中央・総武線、東京メトロ丸の内線：御茶ノ水駅 東京メトロ千代田線：新御茶ノ水駅

受講料・受験料

150,000円（内訳：受講料12万円及び受験料3万円）

お問い合わせ先

日本危機管理士機構事務局

〒101-8301 東京都千代田区神田駿河台1-1 明治大学危機管理研究センター内

TEL：03-3296-4422 FAX：03-3296-4425 URL：http://jiem.jp E-mail：info@jiem.jp

※日本危機管理士機構は、平成23年9月1日に発足した危機管理士制度の運用・資格管理を行う団体です。詳細は、日本危機管理士機構事務局までお問い合わせください。【会長】早稲田大学特命教授 伊藤 滋【理事長】明治大学教授 市川 宏雄

【主催】日本危機管理士機構・日本自治体危機管理学会
 明治大学危機管理研究センター（文部科学省私立大学戦略的研究基盤形成支援事業〈平成25年～平成29年〉）

平成27年度 日本危機管理士機構

危機管理士2級（自然災害）試験のご案内

1月28日（木）

受講者募集中！

10：15-10：30	開講式・オリエンテーション	明治大学	市川 宏雄
10：30-12：00	危機管理概論	明治大学	中邨 章
13：00-14：30	火山災害	NPO法人 火山防災推進機構	新堀 賢志
14：40-16：10	復旧復興対策	明治大学	中林 一樹
16：20-17：50	震災応急対応	京都大学	牧 紀男

1月29日（金）

10：30-12：00	風水害	元国土交通省	安田 実
13：00-14：30	業務継続計画（BCP）	東北大学	丸谷 浩明
14：40-17：50	危機管理演習・報告会	首都大学東京	市古 太郎

1月30日（土）

10：30-12：00	危機管理士総論	関西大学	河田 惠昭
13：00-14：30	危機管理士2級（自然災害）試験		
14：30-14：45	閉講式・修了証認定	明治大学	市川 宏雄



市川 宏雄氏 中邨 章氏 新堀 賢志氏 中林 一樹氏 牧 紀男氏 安田 実氏 丸谷 浩明氏 市古 太郎氏 河田 惠昭氏

会場 明治大学 駿河台キャンパス 紫紺館

JR中央・総武線、東京メトロ丸の内線：御茶ノ水駅 東京メトロ千代田線：新御茶ノ水駅

受講料・受験料 50,000円（受講料40,000円・受験料10,000円）

お申し込み先 日本危機管理士機構事務局

【会長】早稲田大学特命教授 伊藤 滋 【理事長】明治大学教授 市川 宏雄

〒101-8301 東京都千代田区神田駿河台1-1 明治大学危機管理研究センター内
TEL：03-3296-4422 FAX：03-3296-4425 URL：http://jiem.jp E-mail：info@jiem.jp

日本危機管理士機構は、平成23年9月1日に発足した危機管理士制度の運用・資格管理を行う団体です。
詳細は、日本危機管理士機構事務局までお問い合わせください。

【主催】日本危機管理士機構・日本自治体危機管理学会

明治大学危機管理研究センター（文部科学省私立大学戦略的研究基盤形成支援事業〈平成25年～平成29年〉）

「危機管理士®」は日本自治体危機管理学会の登録商標です。

日本危機管理士機構へのご入会

日本危機管理士機構へのご入会は、日本危機管理士機構ホームページ(<http://jiem.jp>)より、入会申込書をダウンロードして必要事項をご記入の上、事務局(FAX:03-3296-4422 E-mail:info@jiem.jp)まで送信ください。その後、下記の振込先へ、年会費をお振り込みください。

【年会費(年度)】

- (1)個人正会員:10,000円
- (2)団体正会員: 1口 200,000円
- (3)団体賛助会員:1口 100,000円

*個人正会員と団体正会員は、弊機構入会と同時に日本自治体危機管理学会の会員となります。

危機管理士2級(自然災害)試験へのお申込み

【受付 2015年10月6日(火)～2016年1月14日(木)】

※ 定員に達し次第締切

①日本危機管理士機構へのご入会

受験にあたり、日本危機管理士機構へご入会ください。ご入会方法は上記をご参考にしてください。

②危機管理士2級(自然災害)試験へのお申込み

日本危機管理士機構ホームページ(<http://jiem.jp>)より、申込用紙をダウンロードし、必要事項をご記入の上、事務局(FAX:03-3296-4422 E-mail : info@jiem.jp)まで送信ください。その後、下記の振込先へ、受講料・受験料計50,000円をお振り込みください。

*①日本危機管理士機構へのご入会及び②危機管理士2級(自然災害)試験へのお申し込み及びご入金は、同時に手続き可能です。

【振込先】

みずほ銀行 九段支店(普) 1525360 特定非営利活動法人 日本危機管理士機構
三井住友銀行 神田支店(普) 2936463 日本危機管理士機構

2015年度共催シンポジウム参加者募集

どなたでもお気軽に聴講いただけます

2月21日(日)開催

参加無料!



「危機管理実務セミナー」とは国や自治体で
実際の危機管理業務を担当された実務家との
協働を通じて危機管理に造詣の深い研究者を
招聘し、受講生による実務内容の理解促進に
主眼を置いたセミナーです。

ご興味のある部のみのお受講も可能です。お気軽にご参加下さい。

第1部

第5回 危機管理実務セミナー

日時：2016年2月21日(日) 10時10分~11時40分

場所：明治大学駿河台キャンパス アカデミーコモン309F

講師：徳島県防災・危機管理担当者

テーマ：徳島県の防災・危機管理対策(仮)

第2部

共催シンポジウム

日時：2016年2月21日(日) 13時~14時45分

場所：明治大学駿河台キャンパス アカデミーコモン309F

講師：ジョン・ドウシッチ カリフォルニア州立大学フレズノ校名誉教授

テーマ：災害被災者への介入(仮)

第3部

日本自治体危機管理学会 第32回定例研究会

日時：2016年2月21日(日) 15時~16時30分

場所：明治大学駿河台キャンパス アカデミーコモン309F

講師：松井 豊 筑波大学大学院人間総合科学研究科 教授

テーマ：自治体職員の惨事ストレス(仮)

お問い合わせ先：明治大学危機管理教育GP推進室

TEL:03-3296-4564

メールアドレス：em@meiji.ac.jp

自治体危機管理研究 第17号

日本自治体危機管理学会誌

特集：交通と危機管理

目次

■特集「交通と危機管理」■

- 鉄道と危機管理—運輸安全マネジメントの観点から— …………… 石川 敏行 ●
- 交通インフラと降雨に対する防災・減災対策 …………… 杉山 友康 ●
- 安全はタダではない …………… 中村 昌允 ●
- 国際海上交通におけるリスクマネジメント
—リスクの定義及び海上交通の安全確保を中心に— …………… 町田 一兵 ●
- 航空における安全の取組み …………… 阿部 泰典 ●
- 感染症に対する交通事業者の危機管理
新型インフルエンザ等対策特別措置法を踏まえて …………… 本田 茂樹 ●

■研究報告■

- 台湾・921大震災の復興と現状—15年後の現地報告—
……………中林 一樹・久島 祐介・鉢呂 浩之 ●
- 一般住民における感染症及び食品安全に関する危機意識に関する調査
……………市川 宏雄・野上 達也・鈴木 愛美・佐々木 研一朗・吉澤 佑葵・黒石 啓太 ●
- 民間企業（小売・運輸）における防災・危機管理意識に関する調査
……………市川 宏雄・野上 達也・鈴木 愛美・佐々木 研一朗・吉澤 佑葵・黒石 啓太 ●
- 学会誌『自治体危機管理研究』投稿規程 …………… ●
- 学会誌『自治体危機管理研究』執筆要綱 …………… ●
- 日本自治体危機管理学会 学会規約 …………… ●

学術・編集委員長：谷藤 悦史

発行日：2016年3月31日

編集発行：日本自治体危機管理学会

〒101-8301 東京都千代田区神田駿河台 1-1
明治大学グローバルフロント 410G
危機管理研究センター内

TEL 03(3296)4422

FAX 03(3296)4425

印刷：株式会社 外為印刷

〒111-0032 東京都台東区浅草 2-29-6

TEL 03(3844)3855

表紙デザイン：中村 貴久

第 4 年度【2016 年度】:

1. 危機管理特別講演会 (2016 年 5 月 14 日)
2. 第 33 回定例研究会 (2016 年 5 月 18 日)
3. 第 34 回定例研究会 (2016 年 7 月 13 日)
4. シンポジウム (2016 年 9 月 16 日)
5. 平成 28 年度 危機管理士 2 級養成講座 社会リスク編 (2016 年 8 月 4 日～6 日)
6. 第 10 回研究大会 (2016 年 10 月 29 日)
7. 第 35 回定例研究会 (2016 年 12 月 14 日)
8. 『自治体危機管理学会』第 18 号 (2016 年 12 月 26 日)
9. 平成 28 年度 危機管理士 1 級養成講座 (2017 年 1 月 6 日～9 日)
10. 平成 27 年度 危機管理士 2 級養成講座 自然災害編 (2017 年 1 月 26 日～28 日)
11. 第 36 回定例研究会・シンポジウム (2017 年 2 月 19 日)

第33回定例研究会を開催しました

当学会は、明治大学危機管理研究センターと共催にて、第33回定例研究会を開催致しました。

第33回定例研究会では、「災害後に、現場で求められる心理的応急処置(PFA)とは？」

」をテーマに、種市康太郎先生（桜美林大学心理・教育学系教授）よりご報告いただきました。

当日は、約30名の方々にご参加いただき、大盛況のうちに終了しました。ご参加、ご協力下さいました皆様には、厚く御礼申し上げます。

第33回定例研究会

報 告：「災害後に、現場で求められる心理的応急処置(PFA)とは？」

日 時：2016年5月18日（水）

18:30～20:00

場 所：明治大学 駿河台キャンパス

アカデミーコモン8階 308E教室

報告者：種市 康太郎

（桜美林大学心理・教育学系教授）



講演会を開催しました

当学会は、NPO法人日本危機管理士機構及び明治大学危機管理研究センターと共催にて、特別講演会を開催しました。

「熊本地震速報。益城町について」をテーマに、伊藤滋先生（早稲田大学特命教授・NPO法人日本危機管理士機構会長）と三船康道氏（ジェネスプランニング株式会社代表取締役）

にお話しいただきました。約40名の方々にご参加いただき、大盛況のうちに終了しました。ご参加、ご協力下さいました皆様に厚く御礼申し上げます。

約40名の方々にご参加いただき、大盛況のうちに終了しました。ご参加、ご協力下さいました皆様に厚く御礼申し上げます。

題 目：「熊本地震速報。益城町について」

日 時：2016年5月14日（土）14:00～15:00

場 所：明治大学 駿河台キャンパス

アカデミーコモン8階 308E教室

講演者：伊藤 滋（早稲田大学特命教授・

NPO法人日本危機管理士機構会長）

三船康道（ジェネスプランニング株式会社

代表取締役）



第34回定例研究会を開催します

当学会では、明治大学危機管理研究センターと共催で、第34回定例研究会を7月13日（水）に開催いたします。

第34回定例研究会では、浅野富美枝 特任教授（宮城学院女子大学生活科学部）に、「災害時の女性のニーズへの対応 一東日本大震災の経験から」について、お話しいただく予定となっております。

ふるってご参加下さい。

第34回定例研究会

■日 時：2016年 7月13日（水）

18:30～20:00

■場 所：明治大学駿河台キャンパス

アカデミーコモン8階 308E教室

日本自治体危機管理学会 第33回定例研究会

2016. 5/18(wed.) 18:30~

明治大学駿河台キャンパス アカデミーコモン308E

参加
無料

講演テーマ

災害後に現場で
求められる心理的応急処置
(PFA)とは？

種市康太郎氏(桜美林大学心理・
教育学系教授)

お申
込先

明治大学危機管理研究センター・日本自治体危機管理学会事務局
Mail: crisishp@meiji.ac.jp
URL: www.kisc.meiji.ac.jp/~crisishp

2016年7月13日(水) 18:30~20:00

参加
無料

明治大学駿河台キャンパス
アカデミーコモン8階308E教室



日本自治体危機管理学会

2016年度 第34回定例研究会

研究テーマ：災害時の女性のニーズへの対応
—東日本大震災の経験から

講師：浅野富美枝 氏

宮城学院女子大学 生活科学部 生活文化デザイン学科特任教授

お申し込み先

明治大学危機管理研究センター・日本自治体危機管理学会事務局

TEL:03-3296-4422 FAX:03-3296-4425

Mail: crisishp@meiji.ac.jp

<http://www.kisc.meiji.ac.jp/~crisishp>

シンポジウム「自然災害に対する避難のあり方について」を開催しました

2016年9月16日（金）、当学会主催、東京都、河川財団、全国治水砂防協会後援、オリエンタルコンサルタンツ事務局のシンポジウム「自然災害に対する避難のあり方について」が開催されました。

当学会会長の中邨章・明治大学名誉教授による開会挨拶の後、Ⅰ部では、災害別の避難の考え方について、学識経験者（中林一樹・明治大学政治経済学研究科特任教授、田中淳・東京大学総合防災情報研究センター教授、加藤孝明・東京大学生産技術研究所准教授）から提言がありました。

その後Ⅱ部では、行政経験者である関克己・河川財団理事長、大久保駿・全国治水砂防協会副会長、田邊揮司良・東京都危機管理監から話題提供があった後、コーディネーターに中林一樹・明治大学政治経済学研究科特任教授を迎え、ディスカッションが行われました。ディスカッションでは、自然災害に対する避難のあり方等について活発な議論が行われました。

シンポジウム「自然災害に対する避難のあり方について」

- ・日時：2016年9月16日（金）13：30～17：30
- ・会場：砂防会館別館 シェーンバッハ・サポー1F 利根 大会議室（木曽・淀・信濃）

<開催内容>

開会挨拶 中邨 章 日本自治体危機管理学会会長

Ⅰ部：災害別の避難の考え方 ～学識経験者からの提言～

中林一樹 明治大学政治経済学研究科特任教授
田中 淳 東京大学総合防災情報研究センター教授
加藤孝明 東京大学生産技術研究所准教授

Ⅱ部：パネルディスカッション（コーディネーター：中林一樹）

- ①話題提供 関 克己 河川財団理事長
大久保駿 全国治水砂防協会副会長
田邊揮司良 東京都危機管理監
- ②学識経験者と上記3名によるパネルディスカッション

閉会挨拶 野崎秀則 株式会社オリエンタルコンサルタンツ代表取締役社長



平成28年度 日本危機管理士機構

危機管理士2級試験 社会リスク編

講座プログラム

2016年8月4日（木）

10:15-10:30 開講式・オリエンテーション 明治大学 市川 宏雄

10:30-12:00 危機管理概論 明治大学 市川 宏雄

13:00-14:30 人為災害・事故とリスク・保険 SOMPOリスクアマネジメント(株) 高橋 孝一

14:40-16:10 国民保護 神奈川大学 幸田 雅治

16:20-17:50 大規模事故と広域医療対応 日本DMAT 近藤 久禎

※ 18:00～ 意見交換・交流会 開催予定

2016年8月5日（金）

09:20-10:50 業務継続計画(BCP) 東京海上日動リスクコンサルティング(株) 指田 朝久

11:00-12:30 情報セキュリティ (株)セキュリティパートナー 浅野 環

13:30-15:00 感染症危機管理 国立保健医療科学院 金谷 泰宏

15:10-18:20 危機管理演習・報告会 (地域の安全、防犯) 立正大学 小宮 信夫

2016年8月6日（土）

10:30-12:00 危機管理士総論 明治大学 中林 一樹

13:00-14:30 危機管理士2級(社会リスク) 試験

14:40-14:55 閉講式・修了証認定 明治大学 市川 宏雄

※なお、講座プログラムは変更となる場合がございます。

受験者
募集中



市川 宏雄氏



高橋 孝一氏



幸田 雅治氏



近藤 久禎氏



指田 朝久氏



浅野 環氏



金谷 泰宏氏



小宮 信夫氏



中林 一樹氏

会場 明治大学 駿河台キャンパス

最寄駅 ■ JR中央線・総武線、東京メトロ丸ノ内線：御茶ノ水駅 ■ 東京メトロ千代田線：新御茶ノ水駅

受講料・受験料 5万円（内訳：受講料4万円及び受験料1万円）

お申込み先 東京都千代田区神田駿河台1-1 明治大学危機管理研究センター内 日本危機管理士機構
【TEL】 03(3296)4422 【FAX】 03(3296)4425
【URL】 <http://jiem.jp> 【E-mail】 info@jiem.jp

●「日本危機管理士機構」は、「危機管理士制度」の運用・資格管理を行う団体で、平成23年9月1日に発足しました。詳細は、講座お申込み先までお問い合わせ下さい。

【会長】早稲田大学特命教授 伊藤 滋 【理事長】明治大学教授 市川 宏雄

●危機管理士[®]は、日本自治体危機管理学会の登録商標です。

【主催】日本危機管理士機構・日本自治体危機管理学会

明治大学危機管理研究センター（文部科学省私立大学戦略的研究基盤形成支援事業〈平成25年～平成29年〉）

2016年度臨時総会・研究大会プログラム

日時：2016年10月29日（土）

会場：明治大学 駿河台キャンパス リバティータワー11階

日程：

◆開会挨拶 10:00~10:10（受付開始は9:30）

◆共通論題 10:10~12:30（会場：1113教室）

「大規模災害時の障害者対応の課題」

報告者：小澤 温（筑波大学人間系教授）

川嶋 賢治（国立障害者リハビリテーションセンター研究所流動研究員）

古山 周太郎（東北工業大学ライフデザイン学部准教授）

相馬 大祐（福井県立大学看護福祉学部講師）

鍵屋 一（跡見学園女子大学観光コミュニティ学部教授）

コーディネーター：北村 弥生（国立障害者リハビリテーションセンター研究所障害福祉研究部室長）

◆休憩 12:30~13:20

◆臨時総会 13:20~13:25（会場：1113教室）

◆分科会Ⅰ・Ⅱ 13:30~15:30（会場：1113教室・1114教室）

分科会Ⅰ「災害・被災者対応における自治体職員の課題とメンタルストレス」

報告者：工藤 陽久（浦安市総務部総務課主幹）

小山 雄士（大槌町総務部震災検証室長）

村上 典子（神戸赤十字病院心療内科部長）

コーディネーター兼報告者：松井 豊（筑波大学人間系教授）

分科会Ⅱ 総務省消防庁セッション

「大規模災害における国と自治体の役割分担 -熊本地震を題材として-」

報告者：室崎 益輝（神戸大学名誉教授・兵庫県立大学防災教育研究センター長）

佐々木 晶二（国土交通省国土交通政策研究所長）

白石 暢彦（静岡県危機管理監代理）

討論者：横田 真二（内閣官房内閣審議官）

コーディネーター：幸田 雅治（神奈川大学法学部・日本自治体危機管理学会副会長）

◆分科会Ⅲ・Ⅳ 15:45~17:45（会場：1113教室・1114教室）

分科会Ⅲ「危機管理士1級セッション」

報告者：村上 智哉（大船渡市商工港湾部商工課主任）

塚原 信孝（いわき市都市建設部都市復興推進課主任専門技術員）

藤倉 忠光（一関市役所千厩支所産業経済課長）

コーディネーター：市川 宏雄（明治大学専門職大学院ガバナンス研究科教授）

分科会Ⅳ「大規模災害時の女性・男性の困難とニーズ」

報告者：佐藤 咲恵（陸前高田市民生部保健課副主幹兼包括支援係長）

納田 里織（西東京市議会議員）

中野 宏美（特定非営利活動法人しあわせなみだ代表）

羽白 淳（内閣府男女共同参画局推進課・総務課積極措置政策調整官・企画官）

相楽 俊洋（千葉市総務局防災対策課長）

コーディネーター兼報告者：浅野 幸子（減災と男女共同参画研修推進センター共同代表）

◆懇親会 18:00~19:30（会場：ナポリの下町食堂 お茶の水店）

開催関係者連絡先

学会事務局

市川 宏雄（明治大学）

〒101-8301

東京都千代田区神田駿河台 1-1 グローバルフロント 10 階 410G

明治大学危機管理研究センター内

電 話 03-3296-4421

F A X 03-3296-4425

E-mail crisishp@meiji.ac.jp

U R L <http://www.jemaweb.org/>

※研究大会開催中は、090-4840-4422（担当：清水・吉澤）までご連絡下さい。

文部科学省私立大学戦略的研究基盤形成支援事業(平成25年度~29年度)

日本自治体危機管理学会 第35回定例研究会

聴講
無料

講師 西條剛央氏

早稲田大学大学院(MBA)客員准教授



1974年宮城県仙台市出身。早稲田大学大学院人間科学研究科博士号(人間科学)取得。早稲田大学大学院(MBA)客員准教授。専門は組織心理学、哲学、質的研究法。東日本大震災後、構造構成主義をもとに「ふんぱろう東日本支援プロジェクト」を設立。2014年、「Prix Arts Electronica」コミュニティ部門でゴールデン・ニカ賞を受賞。ベストチームオブザイヤー2014受賞。

日時・場所

2016年12月14日
18時30分~20時(予定)

明治大学駿河台キャンパス
アカデミーコモン
8階 308F教室

研究テーマ

災害時における
新しい物資支援
システムと
自治体との連携

お申込み

明治大学危機管理研究センター・
日本自治体危機管理学会事務局

TEL:03-3296-4422 FAX:03-3296-4425
Mail: crisishp@meiji.ac.jp
<http://www.kisc.meiji.ac.jp/~crisishp>



自治体危機管理研究 第18号

日本自治体危機管理学会誌

特集：2016年度研究大会

目次

大会プログラム・・・1

■共通論題「大規模災害時の障害者対応の課題」■

障害者支援施設における施設職員の困難およびピアサポートに関する研究

- ー東日本大震災の被災施設職員調査の結果から・・・・・・・・・・・・・・・・小澤 温 ●
- 東日本大震災で被災した神経発達障害児・者の母親の
心的変化の構造に関する検討・・・・・・・・・・・・・・・・川嶋 賢治 ●
- ハリケーンサンディの被災における障害者等への復旧・復興期への対応・・・・・・・・古山周太郎 ●
- 障害児者の相談支援事業から見えてくる災害時の障害児者支援のあり方・・・・・・・・相馬 大祐 ●
- 福祉施設の事業継続計画（BCP）作成研修手法の考察・・・・・・・・鍵屋 一 ●
- 防災枠組の中での障害者・障害者の種別・障害者の日中活動場所居住場所・・・・・・・・北村 弥生 ●

■分科会Ⅰ「災害・被災者対応における自治体職員の課題とメンタルストレス」■

- 東日本大震災における浦安市の取り組み・・・・・・・・・・・・・・・・工藤 陽久 ●
- 災害・被災者対応における自治体職員の課題とメンタルヘルス
ー3. 1 1における災害対応からー・・・・・・・・小山 雄士 ●
- 災害時の遺体・遺族対応における、自治体職員の課題とメンタルストレス
～日本 DMORT（災害死亡者家族支援チーム）研究会の活動を通して～・・・・・・・・村上 典子 ●
- 被災した自治体職員のメンタルヘルスについてー惨事ストレスを中心に・・・・・・・・松井 豊 ●

■分科会Ⅱ「大規模災害における国と自治体の役割分担 -熊本地震を題材として-」■

- 国と自治体の役割分担の視点から熊本地震を考える・・・・・・・・室崎 益輝 ●
- 最近の災害を踏まえた民間との連携をより重視した災害対策の提案について・・佐々木晶二 ●
- 応援に入った自治体の立場から熊本地震を考える
(静岡県による熊本県嘉島町支援を振り返って)・・・・・・・・白石 暢彦 ●

■分科会Ⅲ「危機管理士1級セッション」■

- 時系列で振り返る東日本大震災の被害と対応・・・・・・・・・・村上 智哉 ●
- 東日本大震災からの復興の取組ーいわき市に係る事例報告・・・・・・・・塚原 信孝 ●
- 台風に備えたタイムラインの一考察・・・・・・・・・・藤倉 忠光 ●

■分科会Ⅳ「大規模災害時の女性・男性の困難とニーズ」■

- 大震災時の女性・男性の困難とニーズ・・・・・・・・・・佐藤 咲恵 ●
- 女性防災
 - ～東日本大震災から熊本地震に至る災害時女性対応の変遷とこれから～・・・納田さおり ●
 - 災害時の性暴力とは～見えないリスクを可視化する～・・・・・・・・中野 宏美 ●
 - 男女共同参画の視点からの防災対策の現状と政府の取組・・・・・・・・羽白 淳 ●
- 防災活動における男女共同参画の取り組み
 - ～千葉市防災会議男女共同参画の視点を取り入れる部会～・・・・・・・・相楽 俊洋 ●
 - 男被災時の女性／男性の困難から考える災害対策の意義と重要性・・・・・・・・浅野 幸子 ●

- 学会誌『自治体危機管理研究』原稿募集・・・・・・・・・・・・・・・・●
- 学会誌『自治体危機管理研究』投稿規程・・・・・・・・・・・・・・・・●
- 学会誌『自治体危機管理研究』執筆要綱・・・・・・・・・・・・・・・・●
- 日本自治体危機管理学会 学会規約・・・・・・・・・・・・・・・・●

学術・編集委員長：谷藤 悦史

発行日：2016年12月26日

編集発行：日本自治体危機管理学会

〒101-8301 東京都千代田区神田駿河台 1-1
明治大学グローバルフロント 410G
危機管理研究センター内

TEL 03(3296)4422

FAX 03(3296)4425

印刷：株式会社 外為印刷

〒111-0032 東京都台東区浅草 2-29-6

TEL 03(3844)3855

表紙デザイン：中村 貴久

講座プログラム

2017年1月6日（金）

- 10:00 - 10:15 開講式・オリエンテーション 明治大学／市川 宏雄
10:15 - 11:45 意思決定(社会リスク) 明治大学／市川 宏雄
12:45 - 14:15 同上
14:25 - 19:15 図上訓練企画 岩手大学／越野 修三
※19:30～意見交換・交流会 開催予定

2017年1月7日（土）

- 10:30 - 12:00 計画策定 工学院大学／村上 正浩
13:00 - 17:50 同上

2017年1月8日（日）

- 9:30 - 12:40 意思決定（自然災害） 明治大学／青山 侂
13:40 - 18:30 リスク評価と計画・評価 京都大学／牧 紀男

2017年1月9日（月・祝）

- 10:50 - 13:20 危機管理士1級試験（レポート）
14:20 - 15:50 危機管理士1級試験（ディスカッション・口頭試問）
16:00 - 16:30 閉講式 明治大学／市川 宏雄

※講座プログラムは予告なく変更となる場合がございます



市川 宏雄氏



越野 修三氏



村上 正浩氏



牧 紀男氏



青山 侂氏

お申込期間

2016年9月26日～
2016年12月1日

会場

ちよだプラットフォームスクウェア
〒101-0054 東京都千代田区神田錦町3 - 21

最寄り駅

竹橋駅(東西線)徒歩2分／神保町駅(三田線・新宿線・半蔵門線)徒歩7分／小川町駅(新宿線・千代田線)徒歩8分
大手町駅(三田線・千代田線・半蔵門線・丸の内線)徒歩8分／JR神田駅12分

受講料・受験料

150,000円（内訳：受講料12万円及び受験料3万円）

お問い合わせ先

日本危機管理士機構事務局

〒101-8301 東京都千代田区神田駿河台1-1 明治大学危機管理研究センター内
TEL：03-3296-4422 FAX：03-3296-4425 URL：http://jiem.jp E-mail：info@jiem.jp

※日本危機管理士機構は、平成23年9月1日に発足した危機管理士制度の運用・資格管理を行う団体です。詳細は、日本危機管理士機構事務局までお問い合わせください。【会長】早稲田大学特命教授 伊藤 滋 【理事長】明治大学教授 市川 宏雄

【主催】日本危機管理士機構・日本自治体危機管理学会
明治大学危機管理研究センター（文部科学省私立大学戦略的研究基盤形成支援事業〈平成25年～平成29年〉）

「危機管理士®」は日本自治体危機管理学会の登録商標です。

日本危機管理士機構 危機管理士1級試験

平成28年度 日本危機管理士機構

危機管理士2級〔自然災害〕試験

講座プログラム

2017年1月26日（木）

10:15～10:30	開講式・オリエンテーション	明治大学／市川 宏雄
10:30～12:00	危機管理概論	明治大学／中邨 章
13:00～14:30	火山災害	NPO法人火山防災推進機構／新堀 賢志
14:40～16:10	復旧復興対策	明治大学／中林 一樹
16:20～17:50	業務継続計画（BCP）	東北大学／丸谷 浩明
※18:00～意見交換・交流会 開催予定		

2017年1月27日（金）

9:00～10:30	震災応急対応	京都大学／牧 紀男
10:40～12:10	風水害	元国土交通省／安田 実
13:10～16:20	危機管理演習・報告会	首都大学東京／市古 太郎

2017年1月28日（土）

10:30～12:00	危機管理総論	関西大学／河田 惠昭
13:00～14:30	危機管理士2級（自然災害）試験	
14:30～14:45	閉講式・修了証授与式	明治大学／市川 宏雄

お申し込み受付中



市川 宏雄 氏



中邨 章 氏



安田 実 氏



牧 紀男 氏



新堀 賢志 氏



丸谷 浩明 氏



中林 一樹 氏



市古 太郎 氏



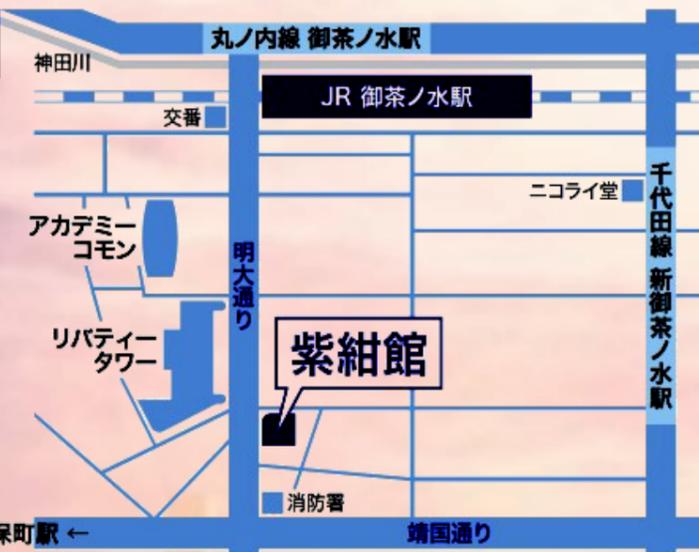
河田 惠昭 氏

会場 明治大学 紫紺館

受講料・受験料 50,000円

案内図

JR 御茶ノ水駅より
徒歩5分
千代田線
新御茶ノ水駅より
徒歩5分
都営線／半蔵門線
神保町駅より
徒歩5分



お問い合わせ先

日本危機管理士機構事務局
東京都千代田区神田駿河台1-1
明治大学 危機管理研究センター内
TEL：03(3296)4422
FAX：03(3296)4425
URL：http://jiem.jp
E-mail：info@jiem.jp

●なお、講座プログラム・会場につきましては、予告なく変更となる場合がございます。

●日本危機管理士機構は、平成23年9月1日に発足した危機管理士制度の運用・資格管理を行う団体です。詳細は、日本危機管理士機構事務局までお問い合わせください。【会長】早稲田大学特命教授 伊藤 滋 【理事長】明治大学教授 市川 宏雄

●危機管理士®は、日本自治体危機管理学会の登録商標です。

【主催】日本危機管理士機構・日本自治体危機管理学会

明治大学危機管理研究センター（文部科学省私立大学戦略的研究基盤形成支援事業〈平成25年～平成29年〉）

第36回定例研究会・シンポジウム

2017年2月19日（日）開催

聴講無料

10:00～16:30

@明治大学駿河台キャンパス アカデミーコモン8階308F教室

第1部

公開シンポジウム
10:10～11:40

平成28年度 明治大学大学院政治経済学研究科
「危機管理行政の研究・実務を担う人材の育成」プログラム
大学院生発表セッション

- ・発表者1：鈴木 翼（北海道庁派遣）
「積雪寒冷地域における冬期の地震・津波を想定した複合災害対策のあり方に関する研究
—冬期地震・津波対策立案のためのチェックリストの提案—」
- ・発表者2：高橋政宏（徳島県庁派遣）
「『公助の限界』を乗り越える『新たな防災』と行政課題
—今改めて「自助・共助・公助」を考える—」
- ・発表者3：酒井佑介（茨城県庁派遣）
「都道府県総合防災訓練の多面的機能に関する考察
—住民意識醸成と地域防災力向上—」

第2部

共催シンポジウム
13:00～14:45

「大都市の地震火災と広域避難問題をめぐって（仮）」

- ・基調講演：関澤 愛（東京理科大学大学院国際火災科学研究科教授）
「首都直下地震時の火災シミュレーションと
その活用の可能性（仮）」
- ・論題報告：中林一樹（明治大学大学院政治経済学研究科特任教授）
「東京における地震火災からの広域避難システムの
現状と課題（仮）」

第3部

定例研究会
15:00～16:30

日本自治体危機管理学会 第36回定例研究会

- ・講演者：佐々木晶二（国土交通省国土交通政策研究所長）
「防災復興法制を知る：巨大災害発生時に、
すぐ実践できる措置と改善が求められる措置」



第 5 年度【2017 年度】:

1. 第 37 回定例研究会 (2017 年 5 月 17 日)
2. 第 38 回定例研究会 (2017 年 7 月 12 日)
3. 平成 29 年度 危機管理士 2 級養成講座 社会リスク編 (2017 年 8 月 25 日～27 日)
4. 平成 29 年度 危機管理士 2 級養成講座 自然災害編 (2016 年 8 月 25 日～27 日)
5. シンポジウム (2017 年 9 月 29 日)
6. 第 11 回研究大会 (2017 年 10 月 28 日)
7. 平成 29 年度 危機管理士 1 級養成講座 (2017 年 12 月 9 日～10 日、16 日～17 日)
8. 第 39 回定例研究会 (2017 年 12 月 13 日)
9. 『自治体危機管理学会』第 19 号 (2017 年 12 月 26 日)
10. 平成 29 年度 危機管理士 2 級養成講座 社会リスク編 (2018 年 1 月 19 日～21 日)
11. 平成 29 年度 危機管理士 2 級養成講座 自然災害編 (2018 年 1 月 19 日～21 日)
12. 第 40 回定例研究会・シンポジウムシンポジウム (2018 年 2 月 18 日)

日本自治体危機管理学会 第37回定例研究会

日時
場所

2017年5月17日(水) 18:30～20:00
明治大学駿河台キャンパス
アカデミーコモン8階 308E教室

講演
テーマ

「熊本地震」、地域コミュニティから
考える防災力と地域力、その課題

講師

小池洋恵(熊本市議会議員)

校区防犯協会長、主任児童委員、PTA会長、
学校評議員から、熊本県・安全安心まちづくり
アドバイザー等、数々の地域内外活動の経験、
20数年間子ども達へのバスケットボール指導、
補導員などを続け「熊本県青少年健全育成県
民賞」を受賞、熊本地震の際は、初動から、災



害ボランティアとともに、避難所開設運営、避難所周辺の防犯活動
から、日本防災士会議員連絡会へ呼びかけ、行政の災害対応支援、
救援物資の要請を行い行政と現場との重要なパイプ役として昼夜
活動した。災害時、避難所における、子ども達、女性、高齢者を支え
る身近な福祉避難所仕組みや、地域防災計画と地区防災計画間の
情報共有、活動連携の重要性を訴え活動を進めている。

聴講は無料です。
お気軽にお越しください。

お申込み・お問い合わせ

明治大学危機管理研究センター・日本自治体危機管理学会事務局

TEL: 03-3296-4422 FAX: 03-3296-4425

Mail: crisishp@meiji.ac.jp <http://www.kisc.meiji.ac.jp/~crisishp>

文部科学省私立大学戦略的研究基盤形成支援事業（平成25年度～29年度）

日本自治体危機管理学会

第38回定例研究会

大規模災害後の復興プロセスにおける課題：
報道の視点から

日時
場所

2017年7月12日（水）

18:30～20:00

明治大学駿河台キャンパス アカデミーコモン9階309A教室

テーマ

被災地に『寄り添う』とは－取材経験から（五十嵐和大）

現地取材からみた被災地の経験と復興（仮）（堀潤）

講師

五十嵐和大（毎日新聞社 科学環境部）

堀潤（元NHKアナウンサー・NPO法人「8bitNews」代表）

聴講は無料です。お気軽にお越しください。

お申込み・お問い合わせ

明治大学危機管理研究センター・日本自治体危機管理学会事務局

TEL : 03-3296-4422 FAX:03-3296-4425

Mail: crisis@meiji.ac.jp

<http://www.kisc.meiji.ac.jp/~crisis>

社会リスク

2017.8.25 fri / 26 sat / 27 sun

講座プログラム (※なお、講座プログラムは変更となる場合がございます)

2017年8月25日(金)

- 10:15~10:30 開講式・オリエンテーション
- 10:30~12:00 危機管理概論
- 13:00~14:30 感染症危機管理
- 14:40~17:50 危機管理演習・報告会(地域の安全・防犯)
- ※18:00~意見交換・交流会(予定)

- 明治大学 / 市川 宏雄
- 明治大学 / 市川 宏雄
- 国立保健医療科学院 / 金谷 泰宏
- 立正大学 / 小宮 信夫

2017年8月26日(土)

- 9:20~10:50 大規模事故(人為災害)と広域医療対応
- 11:00~12:30 情報セキュリティ
- 13:30~15:00 国民保護
- 15:10~16:40 業務継続計画(BCP)
- 16:50~18:20 人為災害・事故とリスク・保険

- 日本DMAT / 河嶋 讓
- ㈱セキュリティパートナー / 浅野 環
- 神奈川大学 / 幸田 雅治
- 東京海上日動リスクコンサルティング(株) / 指田 朝久
- SOMPOリスクアマネジメント(株) / 高橋 孝一

2017年8月27日(日)

- 10:30~12:00 危機管理総論
- 13:00~14:30 危機管理士2級(社会リスク)試験
- 14:45~15:00 閉講式・修了証認定

- 関西大学 / 河田 惠昭
- 明治大学 / 市川 宏雄



市川 宏雄 氏



金谷 泰宏 氏



小宮 信夫 氏



河嶋 讓 氏



浅野 環 氏



幸田 雅治 氏



指田 朝久 氏



高橋 孝一 氏



河田 惠昭 氏

講師

平成29年度 **危機管理士2級試験** **社会リスク**
日本危機管理士機構

会場・受講料

- 【会場】 明治大学 駿河台キャンパス アカデミーコモン (東京都千代田区神田駿河台1-1) 最寄駅 ■JR中央線・総武線/東京外丸ノ内線=御茶ノ水駅 ■東京外丸ノ内線=新御茶ノ水駅 ■都営地下鉄三田線・新宿線/東京外丸ノ内線=神保町駅
- 【受講料】 受講料40,000円+受験料10,000円(計50,000円)税込

お問い合わせ先

日本危機管理士機構事務局
 〒101-0064 東京都千代田区神田駿河台1-1

明治大学 危機管理研究センター内
 【TEL】03-3296-4422
 【FAX】03-3296-4425
 【E-mail】info@jiem.jp

【主催】 日本危機管理士機構・日本自治体危機管理学会
 明治大学危機管理研究センター (文部科学省私立大学
 戦略的研究基盤形成支援事業 平成25~29年)

自然災害

2017.8.25 fri / 26 sat / 27 sun

講座プログラム

(※なお、講座プログラムは変更となる場合がございます)

2017年8月25日(金)

10:15~10:30 開講式・オリエンテーション
 10:30~12:00 危機管理概論
 13:00~14:30 震災応急対応
 14:40~17:50 危機管理演習・報告会
 ※18:00~意見交換・交流会(予定)

明治大学 / 市川 宏雄
 明治大学 / 佐々木 一如
 京都大学 / 牧 紀男
 減災アトリエ / 鈴木 光・京都大学 / 牧 紀男

2017年8月26日(土)

9:20~10:50 火山災害
 11:00~12:30 復旧復興対策
 13:30~15:00 業務継続計画(BCP)
 15:10~16:40 風水害

NPO法人火山防災推進機構 / 新堀 賢志
 明治大学 / 中林 一樹
 東北大学 / 丸谷 浩明
 元国土交通省 / 安田 実

2017年8月27日(日)

10:30~12:00 危機管理総論
 13:00~14:30 危機管理士2級(自然災害)試験
 14:45~15:00 閉講式・修了証認定

関西大学 / 河田 恵昭
 明治大学 / 市川 宏雄

講師



市川 宏雄 氏



佐々木 一如 氏



牧 紀男 氏



鈴木 光 氏



新堀 賢志 氏



中林 一樹 氏



丸谷 浩明 氏



安田 実 氏



河田 恵昭 氏

会場・受講料

【会場】明治大学 駿河台キャンパス アカデミーコモン (東京都千代田区神田駿河台1-1) 最寄駅 ■JR中央線・総武線/東京外丸ノ内線=御茶ノ水駅 ■東京外口千代田線=新御茶ノ水駅 ■JR中央線・総武線/東京外丸ノ内線=御茶ノ水駅 ■都営地下鉄三田線・新宿線/東京外口半蔵門線=神保町駅
 【受講料】受講料40,000円+受験料10,000円(計50,000円)税込

お問い合わせ先

日本危機管理士機構事務局
 〒101-0064 東京都千代田区神田駿河台1-1
 【TEL】03-3296-4422
 【URL】http://jiem.jp

明治大学 危機管理研究センター内
 【FAX】03-3296-4425
 【E-mail】info@jiem.jp

【主催】日本危機管理士機構・日本自治体危機管理学会
 明治大学危機管理研究センター (文部科学省私立大学
 戦略的研究基盤形成支援事業 平成25~29年)

平成29年度
危機管理士2級試験
自然災害

日本危機管理士機構

シンポジウム



次の時代の 防災対策のあり方について

都市における防災課題を多面的に考える

主催 日本自治体危機管理学会
後援 東京都・(公財)河川財団
協力 株式会社オリエンタルコンサルタンツ

自然災害の頻発化、激甚化によって、よりいっそう防災対策が必要になっている中、今後、高齢化や国際化などに配慮した新たな防災対策が喫緊の課題になっています。そこで本シンポジウムでは、「次の時代」にスポットを当て、都市における防災課題について、多面的に話題提供を行い、知識を高めることを目的としています。



日時 2017年 9月29日(金) 13:30~17:00 (開場13:00~)

場所 新宿NSビル 30階 NSスカイカンファレンスホールA・B

メール又はFAXでお申込みください
※お申込み先は裏面をご参照ください

申込締切：9月25日(月)

お問合せ
株式会社オリエンタルコンサルタンツ(事業本部 防災事業部 中尾・木村)
TEL:03-6311-7863



プログラム

開会挨拶

中邨 章 日本自治体危機管理学会会長

趣旨説明

中林 一樹 明治大学政治経済学研究科特任教授

I部 話題提供

加藤 孝明 東京大学生産技術研究所准教授
藤山 秀章 公益財団法人 河川財団理事

垣内 俊哉 株式会社ミライロ代表取締役社長
大西 康弘 株式会社オリエンタルコンサルタンツ

II部 パネルディスカッション(コーディネーター:中林一樹)

パネリスト: 話題提供者全員

閉会挨拶

野崎 秀則 オリエンタルコンサルタンツ代表取締役社長

登壇者の紹介



コーディネーター

なかばやし いつき
中林 一樹
明治大学政治経済学研究科
危機管理研究センター特任教授
首都大学東京名誉教授
工学博士

東京都立大学・首都大学東京教授を経て、2011年4月から明治大学大学院特任教授。中央防災会議首都直下地震避難対策等専門調査会座長(内閣府)、ナショナルレジリエンス(防災・減災)懇親会防災担当委員(内閣官房)、東京都火災予防審議会会長等を歴任。



かとう たかあき
加藤 孝明
東京大学生産技術研究所
准教授
工学博士

2010年4月から東京大学大学院生産技術研究所准教授。専門は、地域安全システム学、都市計画。中央防災会議「洪水・高潮氾濫からの大規模・広域避難検討WG」委員、東京都火災予防審議会委員、東京都都市計画審議会都市づくり調査特別委員会、国、自治体の都市計画・防災関連委員会の委員を歴任。



ふじやま ひであき
藤山 秀章
公益財団法人河川財団 理事

国土交通省北陸地方整備局局長を経て、2017年1月から公益財団法人河川財団理事。



かきうち としや
垣内 俊哉
株式会社ミライロ
代表取締役社長

2010年6月、大学在学中に株式会社ミライロを立上げ、現在に至る。一般社団法人日本ユニバーサルマナー協会代表理事、日本財団パラリンピックサポートセンター顧問等を歴任。



おおにし やすひろ
大西 康弘
株式会社オリエンタルコンサルタンツ
事業本部 地方創生事業部 兼
関東支店 地域活性化推進部次長

1994年4月株式会社オリエンタルコンサルタンツ入社。専門分野は交通や観光分野であり、子会社の株式会社トータルフリートサービスでは代表取締役社長も務める。



開会挨拶

なかむら あきら
中邨 章

日本自治体危機管理学会会長
明治大学名誉教授
政治学博士



閉会挨拶

のざき ひでのり
野崎 秀則

株式会社オリエンタルコンサルタンツ
代表取締役社長
技術士(総合技術監理部門・建設部門)

参加お申込み

参加のお申込みは下記申込書をFAXで、または同じ内容を記載したメールをお送りください。

宛先: シンポジウム事務局 株式会社オリエンタルコンサルタンツ 事業本部 防災事業部

FAX 03-6311-8035 **E-mail** bosai_sympo2017@oriconsul.com

参加申込書

申込締切: 9月25日(月)

2017年9月29日開催のシンポジウム「次の時代の防災対策のあり方について」に参加します。	
ふりがな(必須)	団体名(必須)
氏名(必須)	
連絡先(必須)	FAX
	Eメール

いただいた個人情報は個人情報保護法及び関係法令に基づき、適正に管理・保護いたします。本シンポジウムの出席状況を把握、管理する目的以外の利用や、第三者への提供を行うことはありません。定員に達し、お申し込みの受付ができない場合を除き、事務局からお申込みに対する返信はいたしません。また、受付票の発行は行いませんのでご了承ください。

日本自治体危機管理学会

〒101-8301 東京都千代田区神田駿河台1-1 明治大学駿河台校舎グローバルフロント 10階 410G
TEL 03-3296-4421

株式会社 オリエンタルコンサルタンツ

〒151-0071 東京都渋谷区本町3-12-1 住友不動産西新宿ビル6号館
TEL 03-6311-7863

2017年度臨時総会・研究大会プログラム

日時：2017年10月28日（土）

会場：明治大学 駿河台キャンパス リバティタワー11階

日程：

◆開会挨拶 10:00~10:10（受付開始は9:30）

◆共通論題 10:10~12:30（会場：1113教室）

「危機における人、組織、行動」

パネリスト：中村 昭雄（大東文化大学法学部教授）

鍵屋 一（跡見学園女子大学観光コミュニティ学部教授）

佐々木 晶二（国土交通省 前国土交通政策研究所長）

加藤 孝明（東京大学生産技術研究所准教授）

コーディネーター：市川 宏雄（明治大学公共政策大学院教授）

◆休憩 12:30~13:20

◆臨時総会 13:20~13:25（会場：1113教室）

◆分科会Ⅰ・Ⅱ 13:30~15:30（会場：1113教室・1114教室）

分科会Ⅰ 総務省消防庁セッション

「大規模災害におけるマスコミ報道のあり方」

パネリスト：野本 祐二（総務省消防庁救急企画室長（災害対策本部広報班班長））

玉應 雅史（河北新報社編集局報道部次長）

磯辺 康子（フリーライター、元神戸新聞専門編集委員）

小多 崇（熊本日日新聞編集委員兼論説委員）

討論者：田中 淳（東京大学大学院情報学環附属総合防災情報研究センター教授）

コーディネーター：幸田 雅治（神奈川大学法学部教授）

分科会Ⅱ「危機管理士1級セッション」

パネリスト：村上 智哉（大船渡市商工港湾部商工課主任）

山崎 淳一郎（北海道大学研究推進部長）

後藤 武志（飯田市危機管理室防災係長）

コーディネーター：市川 宏雄（明治大学公共政策大学院教授）

◆分科会Ⅲ・Ⅳ 15:45~17:45（会場：1113教室・1114教室）

分科会Ⅲ「小規模自治体の震災後の復興プロセス」

パネリスト：青木 勝（旧山古志村復興担当課長（現（株）山古志アルパカ村代表取締役））

八巻 仁志（新地町企画振興課）

樋口 正幸（小滝プラス代表社員）

佐々木 康彦（西原村役場震災復興推進課）

討論者：小林 秀行（明治大学情報コミュニケーション学部専任講師）

コーディネーター：中林 一樹（明治大学大学院政治経済学研究科特任教授）

分科会Ⅳ「自治体による犯罪被害者支援」

パネリスト：沢柳 和彦（国分寺市市民生活部文化と人権課長）

川名 壮志（毎日新聞社会部記者）

菅原 直志（東京都議会議員（日野市選挙区））

犬井 勇司（京都府府民生活部安心・安全まちづくり推進課長）

討論者：諸澤 英道（元常磐大学学長）

コーディネーター：青山 侑（明治大学公共政策大学院特任教授）

◆懇親会 18:00~20:00（会場：ナボリの下町食堂 お茶の水店）

開催関係者連絡先

学会事務局

市川 宏雄（明治大学）

〒101-8301

東京都千代田区神田駿河台 1-1 グローバルフロント 10階 410G

明治大学危機管理研究センター内

電 話 03-3296-4421

F A X 03-3296-4425

E-mail crisishp@meiji.ac.jp

U R L <http://www.jemaweb.org/>

※研究大会開催中は、090-4840-4422（担当：小林・吉澤）までご連絡下さい。

講座概要

2017年12月9日（土）

10:00 - 10:15 開講式・オリエンテーション

10:15 - 15:55 図上訓練企画 岩手大学／越野 修三

16:05 - 19:15 意思決定（自然災害）明治大学／青山 侑

※19:30～交流会（参加希望の方は、別途参加費を当日受付にてお支払いください）

2017年12月10日（日）

10:30 - 17:50 計画策定 工学院大学／村上 正浩

2017年12月16日（土）

9:30 - 12:40 意思決定（社会リスク） 明治大学／市川 宏雄

13:40 - 18:30 リスク評価と計画・評価 京都大学／牧 紀男

2017年12月17日（日）

10:40 - 10:50 試験説明

10:50 - 13:20 試験（レポート）

14:20 - 15:50 試験（ディスカッション・口頭試問）

16:00 - 16:30 閉講式

※講座プログラムは予告なく変更となる場合がございます



市川 宏雄氏



越野 修三氏



村上 正浩氏



牧 紀男氏



青山 侑氏

お申込期間

2017年11月30日まで

会場

明治大学 駿河台キャンパス リバティータワー
〒101-8301 東京都千代田区神田駿河台1丁目1

最寄り駅

■JR中央線・総武線、東京メトロ丸ノ内線／御茶ノ水駅 下車徒歩約3分

■東京メトロ千代田線／新御茶ノ水駅 下車徒歩約5分

■都営地下鉄三田線・新宿線、東京メトロ半蔵門線／神保町駅 下車徒歩約5分

受講料・受験料

150,000円（内訳：講座料120,000円、試験料30,000円）

お問い合わせ先

日本危機管理士機構事務局

〒101-8301 東京都千代田区神田駿河台1-1 明治大学危機管理研究センター内

TEL：03-3296-4422 FAX：03-3296-4425 URL：http://jiem.jp E-mail：info@jiem.jp

【主催】日本危機管理士機構・日本自治体危機管理学会
明治大学危機管理研究センター（文部科学省私立大学戦略的研究基盤形成支援事業〈平成25年～平成29年〉）

日本危機管理士機構 危機管理士1級試験

日本自治体**危機**管理学会

第39回定例研究会

文部科学省私立大学戦略的研究基盤形成支援事業（平成25～29年度）

日時・場所

2017年12月13日（水）18:30～20:00

明治大学駿河台キャンパス

アカデミーコモン8階308F教室

入場無料

講演テーマ

九州北部豪雨における 行政および医療の対応について

講師

佐藤誠 PwC総合研究所合同会社 上席主任研究員

永田高志 九州大学大学院医学研究院先端医療医学部門
災害救急医学 助教

お申込みは crisishp@meiji.ac.jp

明治大学危機管理研究センター・

TEL:03-3296-4422

日本自治体危機管理学会

FAX:03-3296-4425

<http://www.kisc.meiji.ac.jp/~crisishp>

自治体危機管理研究 第19号

日本自治体危機管理学会誌

特集：化学災害と危機管理

目次

■特集「化学災害と危機管理」■

化学テロ現場対処技術の評価と開発・・・・・・・・・・・・・・・・・・瀬戸 康雄 ●

リスクコミュニケーションから見た化学災害・・・・・・・・・・・・・・・・竹田 宜人 ●

CBRN 対応と危機管理・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・中村 勝美 ●

化学災害と危機管理・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・三宅 淳巳 ●

巨大地震発生時の大規模コンビナート火災にどう備えるか？
—石油コンビナート防災と地域防災とをつなぐ基礎自治体の役割—・・・・・・・・山下 博之 ●

化学テロ対策の現状と課題：化学テロから人命を守るために・・・・・・・・吉岡 敏治 ●

■研究報告■

製造業における防災・危機管理意識に関する調査
・・・・・・・・・・・・・・・・市川 宏雄・小林 麻衣子・吉澤 佑葵・黒石 啓太 ●

学会誌『自治体危機管理研究』原稿募集・・・・・・・・・・・・・・・・●

学会誌『自治体危機管理研究』投稿規程・・・・・・・・・・・・・・・・●

学会誌『自治体危機管理研究』執筆要綱・・・・・・・・・・・・・・・・●

日本自治体危機管理学会 学会規約・・・・・・・・・・・・・・・・●

学術・編集委員長：谷藤 悦史

発行日：2017年3月31日

編集発行：日本自治体危機管理学会

〒101-8301 東京都千代田区神田駿河台 1-1
明治大学グローバルフロント 410G
危機管理研究センター内

TEL 03(3296)4422

FAX 03(3296)4425

印刷：株式会社 外為印刷

〒111-0032 東京都台東区浅草 2-29-6

TEL 03(3844)3855

表紙デザイン：中村 貴久

講座プログラム ※変更となる場合がございます

= 社会リスク =

2018年1月19日(金)

10:15~10:30 開講式・オリエンテーション
10:30~12:00 危機管理概論
13:00~14:30 地域の安全・防犯
14:40~16:10 情報セキュリティ
16:20~17:50 人為災害・事故とリスク・保険
※18:00~意見交換・交流会(予定)

明治大学/市川 宏雄
明治大学/市川 宏雄
立正大学/小宮 信夫
(株)セキュリティパートナー/浅野 環
SOMPOリスケアマネジメント(株)
/高橋 孝一

2018年1月20日(土)

9:20~10:50 大規模事故と広域医療対応
11:00~12:30 国民保護
13:30~15:00 感染症危機管理
15:10~18:20 危機管理演習・報告会(BCP)

日本DMAT/河嶌 譲
神奈川大学/幸田 雅治
国立保健医療科学院/金谷 泰宏
東京海上日動リスクコンサルティング(株)
/青地 忠浩

2018年1月21日(日)

10:30~12:00 危機管理総論
13:00~14:30 危機管理士2級(社会リスク)試験
14:45~15:00 閉講式・修了証認定

関西大学/河田 恵昭
明治大学/市川 宏雄

講師



市川 宏雄氏



小宮 信夫氏



浅野 環氏



高橋 孝一氏



河嶌 譲氏



幸田 雅治氏



金谷 泰宏氏



青地 忠浩氏



河田 恵昭氏

会場

明治大学 駿河台キャンパス (東京都千代田区神田駿河台1-1)

■JR中央線・総武線/東京メトロ丸ノ内線=御茶ノ水駅 ■東京メトロ千代田線=新御茶ノ水駅
■都営地下鉄三田線・新宿線/東京メトロ半蔵門線=神保町駅

受験料・受講料

受講料 40,000円 + 受験料 10,000円 (計50,000円) 税込

※新規入会は別途年会費10,000円

お問い合わせ先

日本危機管理士機構事務局

〒101-0064 東京都千代田区神田駿河台1-1 明治大学 危機管理研究センター内

【TEL】03-3296-4422

【URL】<http://jiem.jp>

【E-mail】info@jiem.jp

講座プログラム ※変更となる場合がございます

= 自然災害 =

2018年1月19日(金)

10:15~10:30	開講式・オリエンテーション	明治大学 / 市川 宏雄
10:30~12:00	危機管理概論	明治大学 / 中林 一樹
13:00~14:30	地震災害	東京大学 / 加藤 孝明
14:40~17:50	危機管理演習・報告会	首都大学東京 / 市古 太郎

※18:00~意見交換・交流会(予定)

2018年1月20日(土)

9:20~10:50	震災応急対応	京都大学 / 牧 紀男
11:00~12:30	業務継続計画 (BCP)	東北大学 / 丸谷 浩明
13:30~15:00	復旧復興対策	明治大学 / 中林 一樹
15:10~16:40	風水害	東京大学 / 池内 幸司
16:50~18:20	火山災害	NPO法人火山防災推進機構 / 新堀 賢志

2018年1月21日(日)

10:30~12:00	危機管理総論	関西大学 / 河田 恵昭
13:00~14:30	危機管理士 2級(自然災害)試験	
14:45~15:00	閉講式・修了証認定	明治大学 / 市川 宏雄

講師



市川 宏雄氏



中林 一樹氏



加藤 孝明氏



市古 太郎氏



牧 紀男氏



丸谷 浩明氏



池内 幸司氏



新堀 賢志氏



河田 恵昭氏

会場

明治大学 駿河台キャンパス (東京都千代田区神田駿河台1-1)
最寄駅 ■JR中央線・総武線/東京メトロ丸ノ内線=御茶ノ水駅 ■東京メトロ千代田線=新御茶ノ水駅
■都営地下鉄三田線・新宿線/東京メトロ半蔵門線=神保町駅

受講料・受験料

受講料 40,000円 + 受験料 10,000円 (計 50,000円) 税込
※新規入会は別途年会費 10,000円

お問い合わせ先

日本危機管理士機構事務局

〒101-0064 東京都千代田区神田駿河台1-1 明治大学 危機管理研究センター内
【TEL】 03-3296-4422 【URL】 <http://jiem.jp> 【E-mail】 info@jiem.jp

第40回定例研究会・シンポジウム

2018年2月18日（日）開催

聴講無料

13:00～16:30

@明治大学駿河台キャンパス アカデミーコモン9階309B教室

第1部

共催シンポジウム
13:00～14:45

共催シンポジウム

- ・ 講演者：横田真二（内閣官房内閣審議官）
「国民保護の取り組みと
弾道ミサイルへの対応について」
- ・ 講演者：藤山秀章（公益財団法人河川財団 理事）
「湾岸戦争における
ミサイル等の戦争体験」

第2部

定例研究会
15:00～16:30

日本自治体危機管理学会第40回定例研究会

- ・ 講演者：菅井径世（名古屋産業大学大学院
環境マネジメント研究科教授）
森 保宏（名古屋大学大学院
環境学研究科教授）
「最新の建物ごとの
地震被害想定法について」



別紙 4 2013～2017 年度 危機管理研究会議の概略

注 1: 参加者の所属等は初出時のみ記載

注 2: 下記会議以外にも、各研究チームメンバーのみでの打合せは適宜実施されている

初年度【2013 年度】:

2013 年度第 1 回会議:(2013 年 7 月 10 日 17 時 30 分～18 時 25 分:明治大学 AC9 階 309D):

出席者:市川(明治大学・専門職大学院長)、幸田(中央大学・特任教授)、中林(明治大学・特任教授)、牛山(明治大学・教授)、加藤(明治大学・教授)、谷藤(早稲田大学・教授)、その他 2 名

- 「平成 25 年度私立大学戦略的研究基盤形成支援事業」の採択結果について報告され、今後 5 年間の研究計画と各自の役割分担、及び本年度の研究計画について打ち合わせを実施した。その際、本年度の危機管理調査は年明け、社会リスク調査は 8 月、人材育成調査は 1 月に実施することが決定された。
- 10 月に日本自治体危機管理学会と共同で開催する第 7 回研究大会について審議し、分科会Ⅲ「地域防災計画の見直し」において、本年度の研究テーマである「官民連携」について討論することを決定した。

2013 年度第 2 回会議(2013 年 12 月 18 日 17 時 30 分～18 時 25 分・明治大学 AC7 階 2A 会議室):

出席者:市川、中邨(明治大学・名誉教授)、青山(明治大学・特任教授)、幸田、瀧澤(明治大学・特任教授)、谷藤、中林、南(北九州市立大学・准教授)、西村(明治大学・専任講師)、その他 2 名

- 本年度実施する研究(行政組織・地域住民への官民連携に関する意識調査)について、実施方法と時期、質問票のドラフト版について検討を行った。また、8 月に実施した人材育成調査の結果報告を行った。
- 社会リスク調査のテーマを「2009 年新型インフルエンザ」に設定することが決定された。
- 翌 2014 年度の研究計画について、大まかな研究計画及び企画内容を検討した。

2013 年度第 3 回会議(2014 年 2 月 23 日 12 時 30 分～13 時 25 分・明治大学 AC9 階 309D):

出席者:市川、青山、幸田、平修久(聖学院大学・教授)、瀧澤、中林、西村、砂金(常磐大学・准教授)、鈴木(聖学院大学・准教授)、その他 2 名

- 危機管理調査について、既に開始している全国の自治体に対する郵送調査、及び 3 月初旬に実施予定の地域住民に対するインターネット調査について進捗報告を行った。
- 上記調査の報告書を『自治体危機管理研究 13 号(2014 年 3 月刊行)』に掲載することが決定された。

第 2 年度【2014 年度】:

2014 年度第 1 回会議(2014 年 5 月 21 日 17 時 30 分～18 時 25 分・明治大学 AC9 階 309D):

出席者:市川、青山、中邨、幸田、瀧澤、中林、南、西村、鈴木、その他 2 名

- 2013 年度研究成果について、「危機管理における行政組織・民間組織・地域住民の連携」に

関する調査結果、及び「危機管理リーダーの人材育成」に関するアンケート調査結果について報告・考察を行った。

- 今年度の調査計画について、8月に人材育成調査、年末～年明けに運輸・小売業を対象とした危機管理調査を実施することが決定された。
- 社会リスク調査について、「雪印食中毒事件」、「アクリフーズ農薬混入事件」、及び「O157食中毒」を対象とすることが決定された。また、Dr. Svedin 及び Dr. Sun と共に米国及び台湾における社会リスク事例を調査することが決定された。

2014年度第2回会議(2014年7月16日 17時30分～18時25分・明治大学 AC10階 310G):

出席者:市川、中邨、幸田、牛山、その他2名

- 危機管理調査について、2014年度調査の質問票及び実施方法の検討を行った。
- 10月に日本自治体危機管理学会と共同で開催する第8回研究大会について審議し、分科会Ⅰ「災害と公衆衛生」とⅢ「行政・民間組織における危機管理リーダーの育成」において、昨年度・本年度の研究成果を報告することを決定した。
- 海外研究協力者の Dr. Sun と打ち合わせ、及び台湾における危機管理の実態把握のため、9月に2日間の日程で、上席研究員及び研究員各1名による現地調査を実施することを決定した。

2014年度第3回会議(2014年10月18日 12時30分～13時20分・明治大学 AC7階 2A):

出席者:市川、幸田、瀧澤、中林、西村、砂金、その他2名

- 危機管理調査について、実施方法と時期、質問票のドラフト版について検討を行った。
- 9月に実施した台湾現地調査の報告が行われた。

2014年度第4回会議(2014年12月17日 17時30分～18時25分・明治大学 AC7階専門職大学院長室):

出席者:市川、中邨、幸田、瀧澤、加藤、谷藤、南、その他2名

- 前年度・本年度に実施した社会リスク事例調査(「2009年新型インフル」、「雪印食中毒事件」)の結果を翌年1月に開催予定の危機管理士1級講座に応用することが決定された。
- 2月に感染症と食品安全に関するインターネット調査を実施することを決定し、質問票の検討を行った。
- 東日本大震災後約4年が経過したことから、被災地の復旧状況を確認するため、2月に研究員1名による被災地現地視察(新地町、気仙沼市、大船渡市)を行うことが決定された。

2014年度第5回会議(2015年2月22日 12時00分～12時55分・明治大学 AC9階 309D):

出席者:市川、中邨、幸田、平、瀧澤、加藤、鈴木、南、その他2名

- 2013年度・2014年度に実施した人材育成調査の結果を『自治体危機管理研究 15号(2015年3月刊行)』に掲載することが決定された。
- 「感染症・食品安全」調査の進捗報告と共に、来年度の研究計画について打ち合わせを実施

した。

第3年度【2015年度】:

2015年度第1回会議(2015年5月23日11時30分～12時25分・明治大学AC7階専門職大学院院長室):

出席者:市川、中邨、青山、幸田、平、瀧澤、中林、牛山、砂金、南、その他2名

- 2014年度の研究成果について「民間企業における防災・危機管理意識調査」及び「一般住民における感染症及び食品安全に関する危機意識調査」の結果速報が報告された。
- 本年度の研究計画について、危機管理調査は製造業を対象とし、社会リスク調査は「セウォル号沈没事故」を対象とすることが決定された。
- 海外研究協力者と実施した米国・台湾における社会リスク事例調査(「高雄市ガス爆発事故」、「エルク川薬品流出事故」)について、報告が行われた。

2015年度第2回会議(2015年7月15日17時30分～18時25分・明治大学AC7階専門職大学院院長室):

出席者:市川、中邨、幸田、瀧澤、中林、西村、谷藤、鈴木、その他2名

- 「2014年台湾・高雄市ガス爆発事故における行政・民間・地域住民の災害対応」和文報告書について説明がなされた。
- 前年度・本年度に実施した社会リスク事例調査(「アクリフーズ」、「O157」、「セウォル号」)の結果を8月に開催予定の危機管理士2級講座に応用することが決定された。

2015年度第3回会議(2015年10月24日12時30分～13時15分・明治大学LT13階1138):

出席者:市川、中邨、幸田、瀧澤、中林、牛山、砂金、その他2名

- 2015年度調査(「製造業における防災・危機管理意識に関する調査」)について質問紙項目の最終確認及び今後の計画が説明された。
- 「2014年度ウエスト・バージニア州エルク川化学薬品流出事故の災害対応」和文報告書について説明がなされた。

2015年度第4回会議(2015年12月16日17時30分～18時25分・明治大学AC8階308D):

出席者:市川、中邨、幸田、瀧澤、中林、その他2名

- 2015年度調査(「製造業における防災・危機管理意識に関する調査」)について進捗状況が報告された。
- 来年度の研究計画について素案の検討を行った。

2015年度第5回会議(2016年2月21日12時00分～12時15分・明治大学AC7階専門職大学院院長室):

出席者:市川、青山、幸田、瀧澤、中林、その他2名

- 2015年度調査(「製造業における防災・危機管理意識に関する調査」)について、調査終了と

結果速報が報告された。

- 来年度の研究計画について、残り2年度の研究計画の検討を行った。

【2016年度】:

第1回会議(2016年5月18日17時30分～18時20分・明治大学AC8階308C):

出席者:市川、中邨、青山、瀧澤、中林、幸田、小林

- 今年度の研究計画について報告された。
- 2015年度研究クラスター「首都圏在勤女性の防災行動に関する調査」の結果速報について説明がなされ、質疑応答が行われた。

第2回会議(2016年7月15日17時00分～17時50分・明治大学AC8階308G):

出席者:市川、青山、瀧澤、中林、平、南、砂金、佐々木、小林

- 今年度の大型研究調査について報告された。また、佐々木・砂金研究員より、熊本地震の現地視察について報告された。
- 明治大学研究年報2015年度版について説明がなされ、議論が行われた。

第3回会議(2016年10月29日12時35分～13時20分・明治大学LT11階1111):

出席者:市川、中邨、幸田、瀧澤、砂金、佐々木、西村、小林

- 今年度の研究計画について報告され、本年度までの成果を踏まえて、来年度(最終年度)の報告書作成に向けて会議の場を持って準備をすすめることが確認された。
- 2017年度の事業スケジュール案について提案され、2017年度研究大会は2017年10月28日(土)、定例研究会及び同日に開催するセンター会議、理事会は講師の日程によって前後する可能性があることを確認のうえ、承認された。
- 小林研究員より、熊本地震の現地視察結果の概要について報告された。

第4回会議(2016年12月14日17時30分～18時25分・明治大学AC8階308G):

出席者:市川、青山、中林、南、佐々木、小林

- 小林研究員より、クラスター研究「首都圏在勤女性の防災行動に関する研究」について、11月25日～27日に大分で開催された日本リスク研究学会でのポスター発表の内容が報告された。
- 佐々木研究員より、熊本地震発生後の現地視察、および岩泉町でのヒアリング調査結果について報告された。

第5回会議(2017年2月19日12時00分～12時45分・明治大学AC8階308C):

出席者:市川、中邨、瀧澤、中林、幸田、平、小林

- 2017年度の事業スケジュール案について再度確認された。2017年度研究大会は2017年10月28日(土)、シンポジウムは2018年2月18日(日)に開催される予定。

- 国立暨南国際大学孫教授より提出された「2016年台湾南部地震における行政・民間・地域住民の災害対応」の和文報告書を作成した旨が報告された(後日センターHPに掲載予定)。

【2017年度】:

第1回会議(2017年5月17日17時30分～18時20分・明治大学AC9階309D):

出席者:市川、青山、瀧澤、中林、幸田、小林

- 今年度の研究計画について報告された。
- 2016年度大型研究調査「医療・福祉施設における防災・危機管理意識に関する調査」の結果速報について説明がなされ、質疑応答が行われた。

第2回会議(2017年7月12日17時30分～18時25分・明治大学AC9階309D):

出席者:市川、佐々木、小林

- これまでの大型研究調査概要のとりまとめについて提示があり、最終報告書にむけた方向性の確認が行われた。

第3回会議(2016年10月28日12時35分～13時20分・明治大学LT11階1112):

出席者:市川、中邨、青山、中林、幸田、平、小林

- 今年度の研究計画概要についての確認が行われた。
- 大型研究報告書の目次案について提示があり、最終化にむけた方向性の確認が行われた。
- 2018年3月11日に開催予定の3月11日の徳島合同シンポジウムについて共有がなされた。

第4回会議(2017年12月13日):

出席者:なし(会議資料をメールにて各研究員に送付、共有し、各々より確認の報告を得た)。

- 大型研究報告書について、目次および各研究員の業績について確認がなされた。

第5回会議(2017年2月19日12時00分～12時45分・明治大学AC8階310B):

出席者:市川、中邨、平、南、小林

- 大型研究報告書について
- 国立暨南国際大学孫教授より提出された「2017年台北バス事故における行政・民間・地域住民の対応」の和文報告書を作成した旨が報告された(後日センターHPに掲載予定)。

第6回会議(2018年3月6日15:00～17:00):

出席者:市川宏雄、平修久、中邨章、南博、小林

- 「危機管理における社会運営とガバナンスの確立に関する研究」研究成果について報告が行われた。
- 予算の執行状況についての報告が行われた。

別紙5 研究成果に関する外部からの意見や評価

第1年度(2013年度):

開催日	回次	種別	報告者	テーマ
2013年12月18日	第23回	定例研究会	山岸 正宏 (長野県危機管理部危機管理防災課防災係・栄村派遣) 古越 武彦 (長野県危機管理部危機管理防災課危機管理係)	栄村の震災の状況と復旧の取り組みについて 災害時に備えた小規模自治体における地域連携の在り方について

第2年度(2014年度):

開催日	回次	種別	報告者	テーマ
2014年7月16日	第26回	定例研究会	遠藤 保雄 (仙台大学 教授)	原発事故と食品安全問題・その後
2014年10月18日	第8回	研究大会	中林一樹(明治大学) ほか20名	首都直下地震の被害想定と首都直下地震対策特別措置法の取り組み ほか分科会4セッション
2014年12月17日	第27回	定例研究会	河村 和徳 (東北大学大学院情報科学研究科 准教授)	被災地における住民意識
2015年2月22日	2014年度	共催シンポジウム	青山 やすし(明治大学) ほか4名	自治体における危機管理-学問と実務の陥穽- ほか2セッション

第3年度(2015年度):

開催日	回次	種別	報告者	テーマ
2015年7月15日	第30回	定例研究会	永松 伸吾 (関西大学社会安全学部 教授)	2010年宮崎県口蹄疫災害と危機管理の課題
2015年10月24日	第9回	研究大会	鈴木潔(専修大学) ほか20名	危機管理と法整備 ほか分科会4セッション
2015年12月16日	第31回	定例研究会	柴田 高広 (株式会社三菱総合研究所科学・安全政策研究本部)	防災における民間企業の役割
2016年2月21日	2015年度	共催シンポジウム	勝間 基彦(徳島県)、ジョン・ドゥシッチ(カリフォルニア州立大)、松井豊(筑波大学)	徳島県の防災・危機管理対策、災害被災者への介入、自治体職員の惨事ストレス

第4年度(2016年度):

開催日	回次	種別	報告者	テーマ
2016年5月18日	第33回	定例研究会	種市康太郎 (桜美林大学心理・教育学系教授)	災害後に、現場で求められる心理的応急処置(PFA)とは？
2016年7月13日	第34回	定例研究会	浅野富美枝 (宮城学院女子大学・生活科学部特任教授)	災害時の女性のニーズへの対応 - 東日本大震災の経験から
2016年10月29日	第10回	研究大会	北村弥生(国立障害者リハビリテーションセンター研究所)	大規模災害時の障害者対応の課題 ほか分科会4セッション

2016年12月14日	第35回	定例研究会	西條剛央 (早稲田大学)	災害時における新しい物資支援と自治体の連携
2016年2月21日	2015年度	共催シンポジウム	関澤愛(東京理科大学)、中林一樹(明治大学)、佐々木晶二(国土交通省国土交通政策研究所)	大都市の地震火災と広域避難問題をめぐって 防災復興法制を知る

第5年度(2017年度):

開催日	回次	種別	報告者	テーマ
2017年5月17日	第37回	定例研究会	小池洋恵 (熊本市議会議員)	「熊本地震」、地域コミュニティから考える防災力と地域力、その課題
2017年7月12日	第38回	定例研究会	五十嵐和夫(毎日新聞社 科学環境部) 堀潤(元NHKアナウンサー・NPO法人「8bitNews」代表)	大規模災害後の復興プロセスにおける課題:報道の視点から
2017年10月28日	第11回	研究大会	市川宏雄(明治大学公共政策大学院教授) ほか24名	危機における人、組織、行動 ほか分科会4セッション
2017年12月19日	第39回	定例研究会	佐藤誠(PwC総合研究所合同会社 上席主任研究員) 永田高志(九州大学大学院医学研究院先端医療医学部 門災害救急医学 助教)	九州北部豪雨における行政および医療の対応について

※2013年6月19日～2017年12月31日に開催された研究会・シンポジウムのうち、参加者及び外部関係者より意見や評価のあったもののみを掲載

第23回定例研究会 アンケート結果

日時	回次	報告者	報告内容
2013年12月18日	第23回	山岸 正宏 (長野県危機管理部危機管理防災課防災係・栄村派遣)	栄村の震災の状況と復旧の取り組みについて
		古越 武彦(長野県危機管理部危機管理防災課危機管理係)	災害時に備えた小規模自治体における地域連携の在り方について

※赤文字はコメントに対する事務局対応
アンケート回答

ご所属	お名前	【問1】 今回の定例研究会のテーマ・報告者・内容はいかがでしたか。	【問2】 今後、定例研究会やシンポジウムで希望されるテーマや講演者をお聞かせ下さい。
NTT空間情報	吉江直樹	<p>①「栄村の震災の状況と復旧の取り組みについて」 内容等は認識でした。しかるに、そこで発生した問題点、解決できた点、できなかった点、残った課題はどこにあるのか、そのような点が今後の減災につながるのを詳しく話をしてもらえればよかった。例えば、被災度調査の日程は長いのか短いのか、事前に用意できたものはなかったのか等。(スマホに事前登録し、オフライン・位置情報で作業ができたのではなど。) → 報告者へ報告</p> <p>②「災害時に備えたり小規模自治体における地域連携のあり方について」 災害対策本部の機能強化を具体的に聞いてみたかった。 オフラインの機能システムが必要ということがあらためて認識できたのは、大きな成果だった。組織強化、BCP対策、人材育成、とくにPDCAと育成の不可欠を聞いたのは大変よかったです。行政機能の喪失を抽象的であったが、生の声が聞けたのがよかった。終了後、30分ほどの意見交換の場があるとより一層、よかったのではと思います。 → 通常、30分程度の質疑応答時間を設けているが、進行状況により今回は実施不可であった。以降の回では質疑時間を確実に確保いただくよう講師に改めて依頼。</p>	<p>・危機管理における初動体制について 例えば1つのテーマにて班毎にグループディスカッションを行う。 班の発表の後、正解はないが、ケーススタディを講義してもらうなどパネルディスカッションなども期待します。</p> <p>・グレシャム・災害情報に関する事例紹介など ・講演者:幸田教授、吉井博明教授など → 時間的な制限(平日の夜、教室の利用等)があるため、定例研究会で演習を実施することは困難。研究会ではなく、シンポジウムや危機管理士養成講座での対応を検討 → 幸田先生、吉井先生については、研究大会セッションや危機管理士講座を含め、どこかのタイミングで報告を依頼(追記:幸田先生は2015年度大会で発表予定)</p>
千葉市稲毛区地域	須崎修司	貴重な体験談ありがとうございました。	<p>・住民による要援護者支援も先進事例 ・大都市における給水対応の手法 → 以降のテーマ候補として検討</p>
東京消防庁	酒匂一志	東日本大震災でクローズアップされていた東北以外の話を聴けて参考になりました。	現在、多くの自治体で自衛隊出身の危機管理監が採用されているが、着任後の実施内容と今後の展望について教示願いたい。 → 浦安市の澤島危機管理監に相談
消防庁	矢竹千洋	自治体で実際に災害対応された方から、実体験に基づく問題意識を聞いてよかった。話しも聴きやすかった。	(別に設けられていれば申し訳ありませんが、)風水害に係る話を聞く機会があれば(地震だけでなく)よいと思います。民間の話を聞く際には、メーカー、小売、ホテル、遊園地、運輸等業種ごとの話を聞ければ有意義なように思います。 → 風水害については、今後別途シンポジウムを開催予定(追記:2015年6月に開催実施済み)
コスモ石油(株)	井上隆史	東日本大震災(地震災害)ばかりが目され、隠れた災害のように思う。十分な応援が得られなかったように思うが、よく頑張られたと思う。災害発生時の役割担当(担当者が少ない中)の動きに、BCPを含め検討しておかなければと感じました。いろんな問題点を提起されたと思います。参考になりました。	今年春まで自治体で働いており、4月より民間で働くようになりました。自治体が主な団体ですが、民間のBCPについても何らかの情報があれば取り上げていただければと思います。 → 民間のBCPは前回(2013年7月10日第22回定例研究会)で日建設計のBCPを実施済み。1年の間に2度民間のBCPは扱えないので、別途対応を検討
応用地質(株)	山本正典	参考になりました。被災自治体のお話は、いつもいろいろな気づきがあります。	自治体BCP関係(今日のお話でも重要性が指摘されていたので) → 本年度研究大会(2014年2月23日)で自治体の「広域防災計画」と「地域防災計画」を扱う2セッションを実施予定
千葉市	不明	他の自治体の方の生の声を伺うことができ、非常に有意義なものでありました。ありがとうございました。	BCPの作成についてなど → 民間のBCP作成についてはかなり対象が限定されるため、研究会での実施は困難?(追記:危機管理士講座社会リスクで実施中)
飯田市	後藤武志	栄村の状況がよく理解できました。	
浦安市	澤島博	栄村の教訓、対策は大いに役に立ちました。ありがとうございました。	

第26回定例研究会 アンケート結果

日時	回次	報告者	報告内容
2014年7月16日	第26回	遠藤 保雄 (仙台大学 教授)	原発事故と食品安全問題・その後

※赤文字はコメントに対する事務局対応
アンケート回答

ご所属	お名前	【問1】 今回の定例研究会のテーマ・報告者・内容はいかがでしたか。	【問2】 今後、定例研究会やシンポジウムで希望されるテーマや講演者をお聞かせ下さい。
一般参加	三上義廣	おもしろかったです。もう少し時間をとって講義を受けたかったです。 → 時間については、終了時間を20時以降にすると別途問題(遅すぎる等)が発生するため、現状90分が限界	
日本経済調査協議会	竹内信彦	自分にはレベルが高すぎた内容だったが、これまで新聞・TVなどで見聞する機会がなかったので大変参考になった。(問題の重要性は認識できた)	
明大職員	不明	よかった。またそのうち研究を発表してほしい。	
不明	不明	わかりやすい説明でよかった。	
コスモ石油(株)	井上隆史	熱心さが強く感じられました。放射線被害の難しさがわかったような気がします。時間に対する中身が濃く(早口になっていたように思います)すぎて、理解しにくかった。 → 上記同様、開始時間の繰り上げ、または時間の延長するのは現状困難	最近のテーマは原子力災害と地震・津波等天災をテーマにしたものが増えてきているように思う。5~10回に1回は社会的リスクとしての最近の事故(脱法ハーブ使用や飲酒時の運転による)テーマなどをテーマにしてもらえないか。(自治体の危機管理から少し離れるが、一般市民は自治体の基本構成員) → 脱法ハーブは以前からテーマ候補として挙がっているため、今後の実施を検討中(追記:2015年10月24日に「危機管理と法の整備」で開催予定)
千葉市	須崎修司	基準値の導き方が理解できていなかったのも、思いのほか厳しい考え方で設定されていることが確認でき、大変有意義でした。	
(株)総合防災ソリューション	菊池正巳	専門的な視点と経済的視点からの説明は非常に理解できました。特に今後の課題についてはさらに勉強を進めたいと思います。このテーマについては長期視点での分析も必要であり、定期的な報告会が必要と考えます。 → 食品安全は一般の関心も高いテーマなので、今後も研究会開催を検討(追記:2015年10月24日に「食品安全」を再度開催)	特にありません。
日本福祉大学大学院	佐々正光	原発問題が国民の間でうすれていく中、貴重な報告を聞かせていただき、ありがとうございました。	

第8回研究会 アンケート結果

日時		司会者	報告者	報告内容
2014年10月18日	共通論題	中林 一樹(明治大学)	田村 英之(内閣府)・藤兼 雅和(国土交通省) 前田 哲也(東京都)・奥島 正信(豊島区)	首都直下地震の被害想定と首都直下地震対策特別措置法の取り組み
	分科会Ⅰ	中邨 章(明治大学)	高野 健人(東京医科歯科大学)・金谷泰宏(国立保健医療科学院) 坂元昇(川崎市)	災害と公衆衛生—DHEATの意義と制度化
	分科会Ⅱ	青山 侷(明治大学)	吉田 誠哉(気象庁)・林 孝標(国土交通省)・早坂 義弘(東京都議会議員)	近年の異常気象と自治体の対応
	分科会Ⅲ	市川 宏雄(明治大学)	柳橋 則夫(内閣府)・山本 晋吾(人と防災未来センター) 竹本 加良子(株式会社サイエンスクラフト)	行政・民間組織における危機管理リーダーの育成
	分科会Ⅳ	小林 恭一(東京理科大学)	中森 広道(日本大学)・明田 大吾(仙台市)・中本 敦也(総務省消防庁)	防災情報—住民への情報伝達

※赤字はコメントに対する事務局対応
アンケート回答

ご所属	お名前	問1 共通論題および分科会のテーマ・報告者・内容はいかがでしたか	問2 今後の定例研究会などで希望されるテーマや講演者をお聞かせ下さい	問3 その他、意見等ございましたらお聞かせ下さい
(株)富士通エフサス	小友 修	「首都直下地震対策特措法」への理解が深まりました。ありがとうございます。		
日本実務出版(株)	川原 万須巳	大変勉強になりました。国及び都・区がさまざまな取り組みをされていることに安心をして感謝するとともに、住民としても協力が必要で自助・共助・公助を束ねた地震に強いまちづくりを推進していかねばならないと痛感いたしました。ありがとうございます。		
明治大学	鉢呂 浩之	内閣府・国土交通省・都・区と異なる機関から首都直下地震を見ることができ、有意義でした。		
明治大学公共政策大学院	文田 康裕		防災・危機発生時における地域と企業の関わり方 → テーマ候補として検討(追記:2015年12月の研究会で三菱総研による「防災における民間企業の役割(仮)」を開催予定)	基礎自治体が地域住民(自治会町内会)と企業を巻き込んだ防災計画を作り訓練することはできないか。 → 上記に該当する「地区防災計画」は、いずれ研究会または研究大会で実施する予定(詳細未定)
西東京市	田喜知 和仁	「近年の異常気象と自治体の対応」それぞれの立場の先生のお話を聞くことができ、勉強になりました。また、聴講者からの質問も、とても自治体職員にとって身近なものであり、考えさせられました。	気象庁、国土交通省、都議会議員の方 → 左記報告者は定期的に招へいしている	「近年の異常気象と自治体の対応」で、青山先生から今回の分科会では課題が残りましたとありました。引き続き「近年の異常気象と自治体の対応」について報告をお願いします。 → 今後も類似テーマで定期実施を検討
横浜市立大学	高橋 博	初めて参加させていただきましたが、興味深いテーマと内容で議論も活発に展開されており、大変勉強になりました。	海外の政府、自治体での危機管理で参考になるケースがあればぜひ知りたいです。 → テーマ候補として検討(特にアメリカまたは台湾)	本学では危機管理体制、意識が脆弱ですので、教職員や学生への啓発、研修の参考にさせていただきます。
岩手県一関市役所	藤倉 忠光	非常に分かりやすかった。分科会Ⅱでは活発な議論をされたと思う。	・避難勧告、指示の判断についてデータを活用して首長が決める際の悩み事 ・大島町の防災担当、広島市の防災担当者 → テーマ候補として検討	今後とも継続してください。
品川区防災課	伊藤 岳	東京都が策定した首都直下地震等対処要領の情報はよかったです。自分もタイムラインごとに自治体がやるべき内容をまとめておく必要があると考えていました。参考となる情報がいただけたのは本当にありがとうございます。業務に活かしていきたいと思えます。	共通論題でもお話がありましたが、全庁的に災害に取り組むための意識付けをどのように行かなくては大きな課題であると考えています。近年は防災のことが全庁的にも取り上げられることが増えてきましたが、まだまだ縦割りな部分が多く、意識の改革をする方法についてご教授いただきたく思います。 → テーマ候補として検討	私は4月に防災課に配属されたのですが、非常に勉強になりました。豊島区での防災に関するまちづくりは担当業務ではなかったのですが、非常に興味深く拝聴させていただきました。帰ったら本日いただいた情報を職員と共有したいと思います。ありがとうございます。
日本大学	金山 泰介	それぞれよく準備されており参考となった。	自治体のシステム等へのサイバー攻撃の対処、サイバーセキュリティ → テーマ候補として検討	
弁護士	岩倉 哲二	1、共通論題: 内閣府、国土交通省、都、豊島区それぞれの立場で地震対策の現状をご説明いただき、全体把握ができて感謝です。 2、分科会: (1)異常気象と自治体、(2)危機管理のリーダー育成、ともに充実していました。		司会を務めていただいた諸先生、お世話をいただいたスタッフの皆さん、お世話になりました。
記載なし	記載なし	大変充実した内容でした。ただ、行政だけではできないことには限界があると思われるので、民間との連携の観点からもう少し多くの民間の方にディスカッションに参加していただけたらいいかなと思います。 → 現在も実施しているが、引き続き民間への告知を強化		
和歌山市役所	山田 丘	関西の人間なので、共通論題よりも分科会Ⅱ、Ⅲは特に興味があり、勉強になった。	南海トラフ等の地震についての講演と関西での開催をお願いしたい。 → 現実的に東京以外では開催は困難	
政策研究大学院大学	二村 由宇也	非常に分かりやすく、丁寧で興味深い内容でした。		是非、機会があれば参加したいです。
オフィス及川防災プランニング	及川 太美夫	首都直下地震対策にあたり、国・都・区がどのような想定に基づき、どのような方針で対策を検討し、実施しているかを認識し、理解しました。連携のあるべき姿、垂直連携・水平連携の推進、部局間の連携強化であることも、ろくに部局間連携では、防災教育は防災部局や学校で行うという認識をもった行政部局がありました。先日、このような考えを持つ職員の研修を実施し、少し防災意識の変化がみられたことは大変よかったです。	災害と公衆衛生について、今後もこの関連の研究テーマをお願いします。現在、3年連続で保健関係職員対象の研修を行っており、テーマは災害時における保健活動を主に行っています。 → テーマ候補として検討(追記:2015年2月28日に日本集団災害医学会と共催で「医療機関のBCPと自治体の災害医療計画」を実施) 今回の講演をうかがい、大変興味深い内容で、引き続き研修の内容を考えて防災意識を高めて参りたいと思います。	日本自治体危機管理学会の主旨にもとづき、民間の立場から「いざというときに行動できる人を増やす」ことを目指して事業を進めて参りたいと思います。
コスモ石油	井上 隆史	今回、課題は私のテーマに近いものであり、非常に有意義でした。		引き続き本会が続くことを期待しています。
日本福祉大学大学院	佐々 正光	世界レベルで災害トラブルが発生しているなか、非常に親切に発表していただきよく理解できました。ありがとうございます。		
凸版印刷株式会社 事業開発・研究本部	深美 慎一郎	分科会Ⅳのみ参加。国からの情報伝達、自治体からの経験談、学識的な面からの分析と全体が分かりやすく、有益な内容でした。	災害発生後の復旧・復興時及び防災に向けた取り組み等について、実際に取り組まれている自治体の方々からの話が聞きたい。 → テーマ候補として検討(東日本大震災の被災自治体を検討)	
長野県飯田市	後藤 武志		京都大学 矢守先生 リスクコミュニケーションについて → テーマ候補として検討	
千葉県浦安市役所	澤島 博	多くの学びがありました。	特にありません。	ありがとうございます。
災害医療センター	市原 正行	非常によかったです。	災害への対応の経験談、報告などを入れてはいいかなと思います。 → テーマ候補として検討(東日本大震災の被災自治体を検討)	
記載なし	記載なし	分科会から参加いたしましたが、どのテーマもとても勉強になる内容でした。ありがとうございます。		
朝霞市中央公民館	嶋田 和也	共通論題が特によかったです。	地区防災(町内会等)について → テーマ候補として検討(地区防災計画と絡めて検討)	よい企画なので、分科会の選択に迷いました。
公立大学共済組合本部	重田 康寛	私個人は専門知識は深くはないのですが、内容は一個人として知っておく必要がある防災・災害についての基本的なことを話していただき、勉強になった。	個人情報、BCP → テーマ候補として検討	
長野県伊那市総務部危機管理課	加藤 知樹	テーマはいずれも興味深いものだった。内閣府のお二人、気象庁の吉田さん、サイエンスクラフトの竹本さんの報告が印象に残った。	・避難所の開設運営について ・避難勧告等の発令について ・共助、自主防災組織の育成 → テーマ候補として検討(地区防災計画と絡めて検討)	報告のあとの自治体職員の方の質問と討論が興味深かった。聞きたい分科会が重なっており、残念だった。 → 分科会の時間重複は対応困難

第27回定例研究会 アンケート結果

日時	回次	報告者	報告内容
2014年12月17日	第27回	河村 和徳（東北大学大学院情報科学研究科 准教授）	被災地における住民意識

※赤文字はコメントに対する事務局対応
アンケート回答

ご所属	お名前	【問1】 今回の定例研究会のテーマ・報告者・内容はいかがでしたか。	【問2】 今後、定例研究会やシンポジウムで希望されるテーマや講演者をお聞かせ下さい。
石巻市役所	佐藤晃子	HPで「被災地における住民意識」と書いてあったので参加しました。「被災地の真実」と「被災地の人々が知る情報」が違いすぎるので、お互いが「真実」を学び合える機会があると思います。	
東京学芸大学	大友康裕	よかった。意外な面を学べた。	
浦安市役所	澤島博	多面的な見方と住民意識の多様化など学ぶ点が多くあった。特に見える化の大切さ。	被災地の復興と企業の関わりについて → テーマ候補として検討(阪神大震災・東日本大震災双方に事例で検討)
千葉市	須崎修司	タイトルから抱いていた印象が、完全に裏切られた。興味深い報告でした。	
明治大学	鉢呂浩之	現場での具体的な事例を踏まえた報告は説得力があり、興味深く聞かせていただきました。データを正しく使う、初動の見える化を進めるなど、行政の現場でも活用できる話で、大変刺激を受けた。	危機管理広報 → テーマ候補として検討(マスコミ、有明研修の講師に相談)

第28回定例研究会・シンポジウム アンケート結果

日時	回次	報告者	報告内容
2015年2月22日	第6回 危機管理 実務者セミナー	青山 やすし(ガバナンス研究科 特任教授)	自治体における危機管理-学問と実務の陥穽-
2015年2月22日	政治経済学研究 科大学院生発表 セッション	久島 祐介(博士前期課程、山梨県庁) 小林 毅志 氏(博士前期課程、茨城県庁) 鉢呂 浩之 氏(博士前期課程、北海道庁)	市町村合併を踏まえた基礎自治体における防災施策の展開状況—地区防災計画の視点に 立った防災体制の検討について— 茨城県における自主防災活動の活性化についての研究 大規模災害を想定した都道府県間の広域連携における支援・受援に関する研究—東日本大 震災後の動向を踏まえて—
2015年2月22日	第28回	加藤 尊秋 (北九州市立大学 国際環境工学部 准教授)	図上シミュレーション訓練の活用:地方公共団体の 災害対応能力向上のための新たな評価手法

※赤文字はコメントに対する事務局対応

アンケート回答

ご所属	お名前	【問1】 今回の定例研究会のテーマ・報告者・内容はいかがでしたか。	【問2】 今後、定例研究会やシンポジウムで希望されるテーマや講演者をお聞かせ下さい。
大田区	加藤孝典	青山先生のお話は知らないことばかりで、とても勉強になった。	
江東区	西尾基宏	第一部について、わが国では自然災害が多く、そのための危機管理対応についてはさまざまな角度からも検討されているが、想定外のことも多い。自治体業務については、常に想像力を働かせ、危機管理対応に活かしていくべきと感じた。	
NTT空間情報	吉江直樹	自治体の役割、政府の役割についての独自概論を聞いてよかった。今後の事例として、個人的にいつか論文で発表しようと思っていることがあり、三代目で滅ぶ事例を危機管理に置き換えて紹介してもらうことがおもしろいのではないかと感じました。	
東京消防庁	酒匂一志	定例研究会と人材育成プログラムとの共催という取り組みは多くの話を聞く機会が得られ、大変よい取り組みであったと思う。	出雲ブルー事故、セウォール号事故等の過去の対応失敗事例を踏まえた、模範的対応の考察(実務担当者版と上位監督者版) → テーマ候補として検討
不明	岩倉哲二	いずれも貴重なご教示をいただきありがとうございます。午後の発表の①地区防災計画、②自主防災組織について、住民被災者の目線から各基本概念を具体的にイメージしてご説明いただくとさらに説得力が増すと思います。 → 報告者に報告 ③「広域連携」について、長所と同時に注意すべき点などに配慮していただきながらご説明いただくと安心感が出来ると思います。 → 報告者に報告	広域的災害が発生した場合、広域的に速やかな情報収集と緊急重大性に応じて優先順位を上げ、公平・公正に支援を行うことが肝要かと思えます。このシステムを実現する方法についてご講義いただければ幸いです。 → テーマ候補として検討
不明	不明	一般参加者ですが、いろいろと勉強になりました。	
相模原市役所	三浦直人	青山先生の話について勉強になりました。	
応用地質(株)	山本正典	第一部から第三部それぞれ参考になったが、特に第三部が興味深かった。	
浦安市役所	澤島博	第一部の青山先生の講話は地方行政の危機管理にとって本当に参考になりました。第二部の各報告については、自治体の抱える防災上の問題点を考え、改善するうえで参考になりました。第三部は、あらためて「図上シミュレーション」の必要性を感じるとともに、全体の仕組みの中でBCPを前提にすることも大切だと思いました。	
日本福祉大学大学院	佐々正光	これまで学校教育のあり方については、各方面からの指摘もいろいろありますが、本質的には記憶力テスト(答えを選択肢の中から選ぶ)形式が多くとられていたため、物事の本質を見極め、対応策を導き出すという能力に問題が出てきています。これを改善するためにも、いろいろな観点から対策を検討することが大変重要なことと思っています。ありがとうございます。	
千葉市	須崎修司	図上訓練についての示唆はとてもありがたい内容でした。はじめに基本ありきの考え方にはまったく同意見です。	
大田区	町田達彦	青山先生の講義は、国内外の多様な事例を挙げられ大変有意義でありました。危機管理の捉え方に差があることも理解しました。指定管理者の責任と自治体の役割をあらためて確認でき、再検討をすべき業務があるか戻って調査したいと考えました。NYの地下鉄が作ったシンプルなマニュアルも勉強になった。	発表者の内容は、いずれもアンケートで読み取れる内容をまとめたもので、表面的に施策の有無等を論じており、べき論が殆どで実務の参考になるものは少なかった。例えば自主防災組織は地域では同じメンバーがさまざまな役割を担っているため、単に助成や機会を与えても、その点がすぐに進むという構造にはなっていない。条例を作ればよいとの提案については、その地域ごとどのような地域を作るかを示さないと意味がない。自治体にもっと深入りした調査をしないと現実味の薄い勉強のための報告となってしまふ。 → 報告者へ報告 北九州市立大の加藤先生の発表は、我区でも同様の訓練もやっているため参考になった。大田区ではCPXを重視して行っております。
不明	不明	第一部は非常によかった。説明いただいたことを活用させていただきます。第三部は、内容はよかったが、プレゼンはメリハリがなくだらだらした感じがした。第二部はかなり問題があったのではないかと、発表した三人には問題なく、よい発表だった。しかし、コメントーター2人が要点をまとめきれなかった印象と、それも含めてタイムマネージメントがひどい。マイクのハウリングは事前に準備できなかったのか。 → コメントーターへの依頼を再検討すると共に、今後は発表時間をもう少し延長する 全体として多くの成果を得た一日でした。ありがとうございます。	
広島国際大	村上智章	大変勉強になりました。院生三名の方は、政策課題・その解決のための構想とも明確で参考になります。加藤先生の報告は、災害対応時の部局間連携を可視化、定量化する試みとして「形式的すぎる」とはとんでもない。具体的な試みとして大変興味をもちました。データの取得とともに、シミュレーション実践の多様な成果について一層の研究が望まれるように思います。	今後ともお呼び参加させていただきます。ありがとうございました。

第30回定例研究会 アンケート結果

日時	回次	報告者	報告内容
2015年7月15日	第30回	永松 伸吾 (関西大学社会安全学部 教授)	2010年宮崎県口蹄疫災害と危機管理の課題

※赤文字はコメントに対する事務局対応
アンケート回答

お名前	性別	ご所属	役職	年齢	・今回の研究会の内容について、あてはまるものを丸で囲んでください	・研究会のご感想やご意見をご自由にお書きください	・こんなテーマの研究会があったら参加したい、こんなイベントがあったらいいなど、ご意見をお聞かせください。
福島悟	男性	内閣官房	参事官補佐	40代	良かった	緊急時に求められる決断に「規程遵守」と「柔軟な対応」についての問題提起は学ぶ点が多い。 今も特区や特例を政府は乱発し、地方は「モデル地区」という美句のもとに優位に立とうとしている。 先生のお話から次の緊急時にたくさんの「柔軟な対応」という名の一貫性のない取組がふえるのではないかと懸念した。	今日の永松先生のお話のように技術的な課題の解決策後に来る現実上の課題を解決した事例を含んだお話が聞けるとありがたい。 → テーマ候補として検討
後藤武志	男性	飯田市	危機管理室防災係長	40代	非常に良かった	実例と課題についてよく理解できました。	「あなたのまちの危険物質を考える」-テロだけではないCBRNリスク- ・災害とテロ 身近な危険を知る 防衛医科大学校免疫微生物学講座 准教授 木下学氏 危険物質 災害から身を守る方法 (株)日本防災デザインCEO 熊丸由布治氏 → テーマ候補として検討
奥村希	男性	国際航業(株)		30代	非常に良かった	講演の中で、口蹄疫によるバイオテロの可能性とそれを未然に防ぐことの難しさを理解できた。それでも事前に実施しておくべきこと(できること)を探していく必要があると思った。ありがとうございました。	
蓑田圭二	男性	危機管理本部	本部長	40代	良かった。	感染症のリスクをヘッジすることの難しさがよくわかった。 強いリーダーが必ずしもよいわけではないこと、最初から100点の答えを出し続けることの必要性を感じました。続けることが大切。よかったです。	静岡県の危機管理センターの方のお話や図上訓練等を学びたい。 → テーマ候補として検討
大友康裕	男性	東京学芸大学	係長	40代	良かった。		
井上隆史	男性	コスモ石油		60代	非常に良かった	アバウトですが、口蹄疫についての概要が分かった気がします。聞き手の興味にそった話題進行で聞きやすかった。	
高村 和哉	男性	中野区役所	総括係長	40代	非常に良かった	非常に分かりやすい明快な話であった。 口蹄疫という切り口から、危機管理のキモや核に関わる話であり、本質的であった。 永松先生の話しっぷりはテンポよく、非常に好みである。	宝塚放火事件などの事例の検証と対応策について専門家の見解を伺いたい。 → テーマ候補として検討(警察関係?)
岩倉哲二	男性	第二東京弁護士会		60代	未回答	「問題意識の設定」「行政対応の問題点」の整理がなされていて、わかりやすい。また、具体的な展開によってさらに理解しやすい話をしていただきました。	
石井 康裕	男性	明治大学専門職大学院	ガバナンス専攻	40代			

第9回研究会 アンケート結果

日時	司会者・評議者	報告者	報告内容	
2015年10月24日	共通論議	鈴木 深(専修大学)・砂金祐生(常盤大学)	横川聖伴(国土交通省)・小牧兼太郎(総務省)・渡辺大介(東京都)	危機管理と法の整備
	分科会 I	遠藤 保雄(仙台大学)	唐木 英明(公益財団法人食の安全・安心財団理事長・東京大学名誉教授)	地方自治体にとっての「食品安全問題」…求められるリスク管理
	分科会 II	平 修久(駒学院大学)	行武 憲史(公益財団法人日本住宅総合センター)・寺澤 昌人(京都府京都市)・木村 幸樹(秋田県鹿角市)	空家・老朽家屋の危機管理
	分科会 III	市川 宏雄(明治大学)	後藤 武志(長野県飯田市)・輪飼 蓮(神奈川県横浜須賀野市)・納田 重敏(西東京市議会)	危機管理士1級セッション
	分科会 IV	幸田 雅治(神奈川大学)	小林 栄樹(自衛隊栃木地方協力本部)・外岡 達朗(静岡県危機管理監)	災害時の広域応援における関係機関の連携

※赤字はコメントに対する事務局対応

アンケート回答

お名前	性別	ご所属	役職	年齢	今回の研究会の内容について、 あてはまるものを丸で囲んでください	今回の研究会の内容について、 あてはまるものを丸で囲んでください <分科会 I・II>	今回の研究会の内容について、 あてはまるものを丸で囲んでください	研究会のご感想やご意見をご自由にお書きください	こんなテーマの研究会があったら参加したい、こんなイベントがあったらいいなど、ご意見をお聞かせください。
竹内 信彦	男性	一般社団法人日本経済調査協議会	主任研究員	50代	非常に良かった	I：非常に良かった		唐木、栗本先生とも大変にわかり易い説明で新しい知見を得られました。	危機管理における産官学の連携、特に産業界との連携について。
岩倉 哲二	男性	第二東京弁護士会		60代	非常に良かった	非常に良かった	非常に良かった		
猪田 和也	男性	朝霞市中央公民館	館長補佐	50代	良かった	I：非常に良かった	III：非常に良かった	全体的に良かったです。	復興についてお願いいたします。 → テーマ候補として検討
阿知波 正道	男性	損保ジャパン日本興亜リスクマネジメント	ERM事業部部長	50代	非常に良かった	II：非常に良かった	III：非常に良かった		
記入なし				50代	良かった	II：非常に良かった	III：良かった	空家の問題は興味深かった。 飯田市の取組が参考になった。	地区防災計画、防災教育 → テーマ候補として検討
山崎 淳一郎	男性	弘前大学	部長	50代	良かった	良かった	良かった		
奥村 希	男性	国際航業株式会社		30代				分科会IIIの参加者が少ないのが残念であった。事前配布されたプログラムに「危機管理士1級セッション」としか記載されていないことも原因の一つではないか。プログラムにもテーマを記載した方が良いのではないか。 → チラシ等にセッション内容の記載を検討	事案発生時の広報・外部対応に関するテーマを設定してみたいかがでしょうか。 → テーマ候補として検討
佐々 正道	男性			70歳～	非常に良かった	非常に良かった	非常に良かった	大変ありがとうございました。	
記入なし	男性			50代		II：非常に良かった	IV：非常に良かった	分科会IIについて、報告者がバラエティに富んでいて、とても良かった。 分科会IIIについて、東日本大震災の時の自衛隊の運用、静岡県県の取組、消防の広域応援とそれぞれ具体的な話で参考になった。	
井上 隆史	男性	コスモ石油	消防OBの再雇用	60代	良かった	II：良かった		分科会II、普段、考えることのない事案について、それぞれの担当される方の苦労や法の運用等、新しい知見を得ることができました。 分科会IV、自衛隊の機動性、自覚等について感銘を受けました。消防にもプライドはありますが、意識レベルの違いを新たに感じました。	
斎藤 清一	男性			60代	非常に良かった		良かった	IVでのドローンのりよう計画が必要と思いました。	

第31回定例研究会 アンケート結果

日時	回次	報告者	報告内容
2015年12月16日	第31回	柴田 高広(榊三菱総合研究所)	防災における民間企業の役割～グローバルな視点から～

※赤字文字はコメントに対する事務局対応
アンケート回答

お名前	性別	ご所属	役職	年齢	・今回の研究会の内容について、あてはまるものを丸で囲んでください	・研究会のご感想やご意見をご自由にお書きください	・こんなテーマの研究会があったら参加したい、こんなイベントがあったらいいなど、ご意見をお聞かせください。
岩倉 哲二	男性	第二東京弁護士会	弁護士	60代	非常に良かった	防災の主流化とビジネス化のつながりの視点が良かった。	
内田 雅幸	男性	上尾市役所	上平支所長	50代	良かった	連携、民間企業のメリットをみつけること	
峰崎 善次	男性	森ビル	参与	60代	良かった		
後藤 武志	男性	長野県飯田市	防災係長	40代	非常に良かった	参考になりました。 中小企業が、どのようにこの枠組みに入っていっていいか等をもう少し聞きたかったです	地区防災計画について → テーマ候補として検討
澤島 博	男性	千葉県浦安市	危機管理監	60代	良かった	防災の主流化、特に事前防災の必要性を再認識出来ました。 ありがとうございました。	
井上 隆史	男性	コスモ石油	元消防	60代	非常に良かった	自治体や民間企業の関係についての在り方などたいへん参考になりました。 意見交換の最後発言しませんでした、国の中央防災会議の中の各部会で取り上げてはと感じました。	
前田 浩樹	男性	阪急阪神ビルマネジメント(株)	執行役員	50代	良かった	行政と企業の中で防災にもPFI的な仕組が導入できないかなと思いました。	
酒匂 一志	男性	東京都	課長代理	40代	普通	研究発表としてはこれまでにある内容もあったので普通ではあったが、その後行われた意見交換は大変面白い場であった。 今後の研究会ではワークショップを実施してみるのも良いと思われた → 今後の質疑応答の促進方法を検討	2019年ラグビーW杯、2020年オリンピック、パラリンピック、2021年関西ワールドマスターズゲームズをひかえ、訪日旅行者が増加する中、多言語対応を含めた危機管理のあり方とは、 ・外国人旅行者、ホテル宿泊者への避難誘導 ・増える感染症対策、サイバーセキュリティ対策 ・これまで日本になじみのないテロを含む治安対策 ・世界から注目される中での風評被害対策 これらの視点から官民が取り組むべき方策を求めています。 → テーマ候補として検討
蓑田 圭二	男性	学校法人自由学園	危機管理本部本部長	40代	普通		
石井 康裕	男性	明治大学専門職大学院ガバナンス研究科		40代			

第32回定例研究会・シンポジウム アンケート結果

日時	回次	報告者	報告内容
2016年2月21日	第5回 危機管理実務者セミナー	勝間 基彦 (徳島県危機管理政策課政策調査幹)	徳島県の防災・危機管理対策
2016年2月21日	共催シンポジウム	ジョン・ドゥシッチ (カリフォルニア州立大学 名誉教授)	災害被災者への介入
2016年2月21日	第32回	松井 豊 (筑波大学大学院人間総合科学研究科 教授)	自治体職員の惨事ストレス

※赤文字はコメントに対する事務局対応
アンケート回答

お名前	性別	ご所属	役職	年齢	・ 今回の研究会の内容について、あてはまるものを丸で囲んでください(第二部)	・ 今回の研究会の内容について、あてはまるものを丸で囲んでください(第二部)	・ 今回の研究会の内容について、あてはまるものを丸で囲んでください(第三部)	・ 研究会のご感想やご意見をご自由にお書きください	・ こんなテーマの研究会があったら参加したい、こんなイベントがあったらいいなど、ご意見をお聞かせください。
後藤武志	男性	飯田市	防災係長	40代	良かった	良かった	非常に良かった	惨事ストレスのお話は大変参考になりました。BCPIに取り入れたいと思います。	市川先生が冒頭でお話をされた危機管理教育プログラム(埼玉県事例)の紹介をしてほしい。 → 市川先生に報告し、対応を検討
高橋礼子	女性	災害医療センター		30代	良かった	普通	非常に良かった		
市原正行	男性	災害医療センター	災害医療技術員	40代	非常に良かった	普通			実災害での経験などの報告 → 実際の被災経験を有する先生を報告者候補として検討
井上道雄	男性	日立製作所		30代	良かった	良かった	非常に良かった	第三部が具体的な話を聞けてとてもよかったです。第二部は訳が難しく、もう少し分かりやすい訳にしてほしい箇所がいくつかあった。	
奥村希	男性	国際航業(株)		30代	非常に良かった	非常に良かった	非常に良かった	危機管理士としての活躍の場をどのように設定していくのか。今後の課題のように思う。市川先生の話には是非参加させていただきたい。	なんでも参加します。
酒匂一志	男性	東京都		40代	良かった	あまり良くなかった	良かった		自治体としてのイベント・雑踏整備などの治安対策との係わり～オリバラをひかえて～ → テーマ候補として検討
柿島敬	男性	沖縄県東京事務所	主査	30代	良かった	普通		避難場所に指定された事業者と行政のかかわり方について印象に残りました。	
津田ひろ子	女性	信州大学附属図書館	主査	50代			良かった	お三方のお話はとても参考になります。できればひとり30分ではなく1時間くらいでもよいように思いました。ありがとうございました。	ぜひ危機管理士のメーリングリストを立ち上げてください。情報交換や質問のやり取りなどお互いに役立ち合えると思います。どんなテーマでもありがたいです。いろいろな参加機会を作っていただきたいです。
押見克史	男性	防災士チーム柏崎	事務局	60代	良かった	良かった	良かった		樋口晴彦氏の講演 → 報告者候補として検討
井上隆史	男性	コスモ石油		60代			良かった		
木村浩司	男性	東京消防庁	消防指令補	40代		良かった			第二部 ファーストレスポンスに対する事前の訓練の必要性をさらに知りた
古矢一郎	男性	福岡大学法学部	教授	40代			良かった	ともすると無定量の奉仕を求められる一般公務員に対する配慮についてのお話で、とてもありがたいです。(第三部に参加)	
中村文彦	男性	佐賀県危機管理・広報	主査	60代	非常に良かった	非常に良かった	非常に良かった	第二部の資料が日本語表記があればよかった。通訳の聞き取りで精一杯でした。	
	女性			40代	良かった	非常に良かった	非常に良かった		
三浦英恵	女性	東京医科歯科大学	准教授	40代		良かった	非常に良かった		東京オリンピックやテロ対策に関するシンポジウム、具体的な準備状況をしたい。首都直下地震に関する対策など。 → テーマ候補として検討
	男性			60代		非常に良かった	非常に良かった		
	男性			50代	良かった	普通	良かった		
	男性			30代	良かった	良かった	非常に良かった	普段から違った側面から惨事ストレスをみれたのでよかったです。	惨事ストレス関係、メンタルヘルス関係、うつの予防 → テーマ候補として検討
岩倉哲二	男性	第二東京弁護士会		60代	非常に良かった	非常に良かった	非常に良かった	第一部、積極的取り組みの現状と課題の認識ができた。第二部、七つの被災現場の特徴と被災者心理の視点を置いた救済策について理解できた。	
首藤啓介	男性	愛泉会日南病院		30代	非常に良かった	非常に良かった	非常に良かった	パティンシステムについて詳しく聞きたかった。パティを誰がどう決めるのか、パティが仲が悪くなったらどうするかなど。	今回のように自治体職員をどう支援していくかといった内容をお聞きしたい。 → テーマ候補として検討
野田隆志	男性	富山県防災士会	副会長	50代	非常に良かった	非常に良かった	非常に良かった	1部、3部の現場の音が聞けてよかった。新しい視点がいただけてありがたいです。	1、災害(自然災害、人災いずれも)医療対応 2、BCP 3、「行政と住民、住民と住民を繋ぐ」 → テーマ候補として検討
	男性			30代		普通	非常に良かった		
辻岡綾	女性	政策研究大学大学院 人と防災未来センター	嘱託研究員	30代	非常に良かった	良かった	非常に良かった	第一部、県の危機管理体制の詳細や他部署との連携などが興味深かった。第二部、先生のお話が最後飛ばし気味であったが、大変良かった。第三部、今まで聞いたことのない貴重な話でとても役立った。	
村上智章	男性	広島国際大学	准教授	50代	非常に良かった	非常に良かった		勝間政策調査幹のご報告は、BCPの重要性、特に具体的な想定に基づき、既存設備・機構の問題点を洗い出す必要性の指摘が興味深かった。また、自治体間の組織間連携について、平時からのイベント機会等を活用した人的交流の重要性の指摘も参考となった。支援活動の継続性を担保するためのメンタルケアの活動も興味深かった。Dussich教授の講演では、極めて困難な課題と思われるが、被災者一人ひとりを一人の人間・個人として固有のニーズをもっているというメッセージが心に残った。松井先生の講演では、自治体職員の精神的なケア、特に住民から完全に切り離された空間・時間を確保する必要性を痛感した。	
	女性			30代			非常に良かった		BCP作成におけるコミュニティ(自治会)のかかわり方 → テーマ候補として検討
	男性			30代	非常に良かった	良かった	非常に良かった		
上出真奈	女性	北海道臨床心理士会	被害者支援	30代	非常に良かった	非常に良かった	非常に良かった		勉強になりました。ありがとうございました。
	女性			50代	非常に良かった	非常に良かった	非常に良かった		
美川寛	男性	島根県臨床心理士会		70代～	非常に良かった	良かった	非常に良かった	危機管理のお仕事はしたことがありませんが、大切なことと以前から考えていました。今回良い機会を与えてもらい参加させてもらいました。大学病院で毎月「大切な人を亡くした家族会」をしたり、消防署職員のケアや被災地支援を定期的に行っているため、(今回の内容は基本的な内容が多かったように思いますが)参考になりました。ありがとうございました。松井先生の話はとて	
澤島博	男性	千葉県浦安市	危機管理監	60代	非常に良かった	良かった	非常に良かった		災害時ストレスの問題の重大さを再認識できました。

第33回定例研究会 アンケート結果

日時	回次	報告者	報告内容
2016年5月18日	第33回	種市康太郎(桜美林大学心理・教育学系教授)	災害後に、現場で求められる心理的応急処置(PFA)とは？

※赤文字はコメントに対する事務局対応
アンケート回答

お名前	性別	ご所属	役職	年齢	<input type="checkbox"/> 今回の研究会の内容について、あてはまるものを丸で囲んでください	<input type="checkbox"/> 研究会のご感想やご意見をご自由にお書きください	<input type="checkbox"/> こんなテーマの研究会があつたら参加したい、こんなイベントがあつたらいいなど、ご意見をお聞かせください。
阿知波 正道	男性	SOMPOリスケアマネジメント ERM事業部	部長	50代	非常に良かった		
荒川 歩	男性	武蔵野美術大学 教養文化研究室	准教授	30代	非常に良かった	ワークが短時間のなかにもうめこまれていて理解が深まった。内容が詰まっていた。	
三浦 春菜	女性	危機管理研究センター	職員	40代	良かった	講師の先生の立ち位置がPFAと適度な距離がとれていてよかった。	
大平 真弓	女性	明治大学大学院政治経済学研究科	学生	30代	非常に良かった		
酒井 佑介	男性	危機管理研究センター	大学院生	30代	非常に良かった	PPの資料だけを見ていると現地入りしてPFAが実施できるか不安になるように感じてしまったが、被災者に会うためのマナーと考えれば、あまり難しく考えるべきではないのかなと思った。 (難しく考えすぎると行動に移せなくなると考えた)	
山下 尚郎	男性	ルーテル学院大学大学院附属 包括的臨床コンサルテーション	研究員	40代		ソーシャルワークの研究者としてPFAの知見を得たかったことと、江戸川区の職員として、貴会に関心があった両方の側面から参加させて頂きました。たいへん勉強になりました。ありがとうございました。	また、非会員の私でも参加させて頂ける研究会等でしたら、また参加の機会を頂けたら幸いです。
加藤 貴幸	男性	杉並区	参事	50代		単なる座学ではなく、ロールプレーがあつたので理解が深まった。いつ起るかわからない震災ではあるが、自治体職員は、こうした考え方に触れておくことも有益であり、危機管理上、必要であると思った。	・国民保護、テロ対策 → テーマ候補として検討
伊藤 彰大	男性	杉並区危機管理対策課	主事	30代	非常に良かった	PFAについて初めて学びました。支援者として活動する際に気をつけるべきことを詳しく教えていただいたことが良かったです。相手のニーズを探ること、自立の支援をするということを忘れないで行動していきたいと思いました。	
三巻 喜久恵	女性	袖ヶ浦さつき台病院	心理療法士	30代	良かった	ロールプレーがあつて良かったです。1時間30分という短い時間で盛りだくさんだったので、次の機会には、ロールプレーでもっと体験したいと感じました。私も臨床心理士とはなく、その場で1人の人としての何かできることの姿勢として学ぶことができました。	
澤島 博	男性	株式会社総合防災ソリューション	主任研究員	60代	良かった	PFAの必要性を学べた。	特にありません。
赤坂 豊	男性	武蔵村山市立第三小学校	スクールカウンセラー	30代	非常に良かった	大変参考になりました。災害現場で関わる際だけでなく、学校現場の危機対応などの参考にさせていただきたいと存じます。ありがとうございました。	非会員ながら貴重な講演を聞かせていただきまして、ありがとうございました。
山本 正典	男性	応用地質株式会社	上級専門職	50代	非常に良かった	「マナー」として自分も身につけたいものだと思った。	
長谷川 忍	女性	武蔵野大学 通信教育部 人間科学部 人間科学科 心理学専攻4年		50代	非常に良かった	セルフケア(救済者の)についてもお話ししていただけたことはとても良かったです。危機管理にたずさわる方々が、災害時において、自身のケアを後まわしにしがち(そのような形になりがち)なので、本日参加して多くのことを学ぶことができました。ありがとうございました。WHO版のPFAは平常時においても活用できるので、たくさんの人に学んでいただけたらと思いました。	グループワーク③の「セルフケア」の「支援前」「支援中」「支援後」についてのテーマで研究会があると嬉しいです。(加えて「ラインケア」、「組織としてのケア」も) → テーマ候補として検討
長谷川 庄司	男性	日本国際協カシステ		50代	非常に良かった		
須崎 修司	男性	千葉市役所 総務局 防災対策課	主査	40代		グループワークの体験には少し慌てましたが、実践的で、興味深い内容の講話で、大変良かったです。	
小橋 章人	男性	聖マリアンナ医科大学病院	看護師	20代	非常に良かった	とても勉強になりました。	
石上 智嗣	男性	聖マリアンナ医科大学病院	事務員	40代	非常に良かった	非常に分かり易く勉強になりました。持ち帰って院内の関係者にも伝えたいと思います。	災害医療に関係する者に役立つような話をお願いしたいです。 → テーマ候補として検討
小倉 ゆかり	女性	富士通	看護職	40代	非常に良かった	ありがとうございました。	

第34回定例研究会 アンケート結果

日時	回次	報告者	報告内容
2016年7月13日	第34回	浅野富美枝 (宮城学院女子大学・生活科学部特任教授)	災害時の女性のニーズへの対応 - 東日本大震災の経験から

※赤文字はコメントに対する事務局対応
アンケート回答

お名前	性別	ご所属	役職	年齢	<input type="checkbox"/> 今回の研究会の内容について、あてはまるものを丸で囲んでください	<input type="checkbox"/> 研究会のご感想やご意見をご自由にお書きください	<input type="checkbox"/> こんなテーマの研究会があつたら参加したい、こんなイベントがあつたらいいなど、ご意見をお聞かせください。
石井 康裕	男性	明治大学専門職大学院ガバナンス研究科		50代	良かった	危機管理の問題において女性の視点が欠けていることに言及されていてよかった。	
石川 祐資	男性	横浜市		20代	良かった	自治体職員の課題にも言及されていて、よかったと思います。	
	女性			30代	良かった	女性の立場について、さまざまな視点から知ることができてよかったと思う。	
大平 真弓	女性	明治大学大学院	学生(社会人学生)	30代	非常に良かった	表にはあまり知らされていない、被災地の状況が聞けて大変参考になった。性同一性障害の視点は、自分にはなかった。	イベント: 図上訓練 → 危機管理士講座への紹介を検討
麻見 直美	女性	筑波大学	准教授	40代	非常に良かった	被災者&支援の人々の"食"の課題に取り組んでいます。実際をまだまだ知らないことも多いので、貴重なお話をうかがうことができました。もっと多面的なことを知りたいので、もっとたくさん時間をかけていろいろなテーマの話をうかがいたいを思いました。	
					あまり良くなかった	論旨がよれている。活動そのものを否定するつもりはないが、避難することが前提?しなくてよいまちづくりではないのか。支援力への理解が欠けている。仕分けは出し元がするが分かっていない	講演の話の中に出てきた阿部女将の話はききごたえがある。新地町の村上女将とともに被災地リーダーの鏡
田村 紀子	女性			40代	良かった	男性と女性を対立軸ととらえている感がある。どちらも被災者・支援者なの	
	女性			30代	普通		東京オリンピック・パラリンピック開催に向けて、危機管理を強化する必要があると考えられるが、国・自治体・企業・国民一人一人それぞれが備えておくべきことなどについて(危機管理の観点から)考えたい。 → テーマ候補
成沢 富雄	男性	マンションの管理組合		60代	普通	・パーソナルリクエスト票の話・・・ヒントになる ・ガールズプロジェクトのヒントになる ・自治体職員の話・・・職員も困難を抱えていることが具体的に感じた ・女性のための防災リーダー養成講座	
	女性			30代	非常に良かった	被災者が復旧・復興の担い手となるよう支援することが大事。ということにはまりました。その人自身が持つ力をつぶさない。被災者自身が担い手にならないと、長期になる復興は果たせないかと思いました。	
早津 武史	男性	森ビル	管理運営部課長	40代	非常に良かった	テレビや新聞等での女性対応は知っていましたが、やはり男性社会が先にあったこと、あらためて理解しました。会社での対応も考えてみたいと思いま	
寺田 隆	男性	森ビル	課長	40代	良かった	・もう少し時間があればよかった ・女性の防災リーダーへの必要性がわかった ・避難所で女性が必要な備蓄 ・企業の中でどういった人材が防災リーダーに適しているのか	一時滞在施設の環境維持に関して → テーマ候補として検討
中村 進	男性	上尾市	主任	60代	非常に良かった	「復興事業の第一は人間でなければならぬ」この言葉と浅野教授の解説に、大きな感銘を受け、心に響きました。女性目線につちえの丁寧な説明なので、分かりやすい講義でした。	
徳弘 奈美	女性	SOMPOリスケアマネジメント	上席コンサルタント	50代	良かった	「女性は多様性を受容する」のは本当にその通りだと思います。その点から考えれば、女性のための女性リーダーだけではなく、男性・その他の多様な性のリーダーとしても育てるべきと思っています。(男性を束ねる女性リーダーをもっと育てる観点もあってよいと思います)	
和田 悟	男性	千葉県防災政策課	副主査	30代	普通	・東日本、熊本の震災における女性の状況(避難所運営・その後の生活など)について、もっと多くの実例があればよかったです。 ・聴覚障害のあるゼミ生のお話をもう少し詳しくうかがえればと思いました。	入所・入院までは至らない障害者・高齢者の被災体験の研究テーマがあればお聞きしたい。(避難所生活における困難などがわかれば) → テーマ候補として検討
濱館 陽子	女性	東京医科歯科大学大学院	学生	30代		・P5で説明されたレジリエントな地域を構築するとは、具体的にどのような地域を目指しているのか。それに対してどのような取り組みをすることが必要なのか。P14の課題への取り組みか? ・首都直下型地震にも適用可能か?	首都直下に向けた企業と行政の連携について → テーマ候補として検討
養田 圭二	男性	学校法人自由学園危機管理本部	本部長	40代	普通	実際に起きた問題について具体的に示していただいて、どんな対応があつてどこに問題があつて、どう修正していくかについて知りたかった。	
谷本 美保子	女性	東京医科歯科大学保健衛生学研究科共同災害看護博士課程		30代	非常に良かった	女性視点の防災・復興支援など細やかなところまで気づくことができ、女性が本来持っているパワーを発揮することが地域のレジリエンスにつながるという言葉がすごく印象的でした。女性ってすごいなーと思いました。現在大学院で母子への災害時の支援について研究したいと考えています。ありがとうございます。	
	男性			50代	良かった	男性では気づかない話がいろいろとあつた。あらゆる場での男女共同参画の必要性を感じた。	
齋藤 優介	男性	千葉県庁防災政策課	副主査	30代	良かった	あらゆるニーズを柔軟に受け入れる体制作りが必要であることがわかった。また、支援を行いたい人・組織を円滑に活用することが効果的であることも	
小泉 奈央	女性	筑波大学		30代	非常に良かった	女性という視点は、女性だけではなく男性にとっても必要なことを多く含むものではないかと思いました。女性という区分はもちろん必要だと思いますが、男性社会の中で受け入れられやすい仕組みづくりも必要なのだろうなと思いました。とても興味深く役立つ情報でした。ありがとうございます。	
樋口 真実	女性	(公財)横浜市男女共同参画推進協会	管理情報課長	50代	非常に良かった		
	男性			20代	良かった	具体的な必要な取り組みの紹介をもう少ししていただきたかった。	
	男性			20代	非常に良かった	女性の視点を防災に反映させることは重要であることと認識していたが、実際の状況も踏まえて説明していただいたので大変勉強になった。	要配慮者支援に関する地域のネットワークづくりについての研究会があつたら参加したい。 → テーマ候補として検討
	女性			30代	良かった	災害時、平常時に関わらずプライバシー問題等については、男性にもあると思う。声を上げられないのは実は男性なのでは?と思うこともあります。	

秋元 慶介	男性	佐倉市	ヒラ	30代	非常に良かった	防災の職場に女性にいてほしい、入ってほしいと漠然と感じていたことを、しっかりと言葉で表してくれたと思いました。とても力強く、よい話が聞けました。	
長谷川 忍	女性			50代	非常に良かった	本日はありがとうございました。災害時は女性ならではの視点はとても大切に思います。今回のような内容を男性だけでなく女性においても一人でも多くの方々に知っていただけることで、よりよい支援につながっていくと思いました。	災害時の衛生管理、災害時のご遺体対応、DMORT → テーマ候補として検討
峰崎 善次	男性	森ビル	参与	60代	良かった	多様なニーズにどこまで対応できるか、どこまで許容されるかは、それでもやはり難しいものだと思う。	
高橋 広	男性			50代	非常に良かった	被災者の生きる力を回復させる、人間らしく、これからの取り組みの参考にさせていただきます。ありがとうございます。	
菅原 千賀子	女性	東京医科歯科大学	大学院生	40代	良かった	大正時代に人間の復興について語られていたことが感動的にすばらしいと思いました。災害は脆弱性を露呈するといわれますが、そこにきちんと尊厳を差し伸べることができるように、看護職がやるべきことがたくさんあると思いました。	受援力についてもう少しかがいたいです。 → テーマ候補として検討
佐宗 修	男性	八王子市	主査	40代	良かった	避難所を運営する際、男性職員が女性に対する配慮を平常時に女性職員に対し女性特有の問題など聞けない(特に独身の男性)。そのような問題をどう解決していけばよいか、女性管理職を配置するだけで解決できる問題ではないと思います。どうしたらよいでしょうか。	女性のニーズ対応だからこそ、男性にも多くの参加を呼びかけた方がよいと思います。
奈良田 恵子	女性	八王子市生活安全部 防災課	主任	40代	非常に良かった	女性のニーズへの対応はまだ自治体の考えも足りない部分が多いので、とても勉強になりました。	
田中 舞	女性	狛江市	主事	20代	非常に良かった	女性の人権や尊厳を大切にすることが、生きる力につながるということが印象的でした。女性は男性と気がつくところが多々あると思うので、女性だけの話し合いの場を作るなど、声を拾い上げていけるような機会を作って生き	災害時の女性の防犯についてなど → テーマ候補として検討
青木 夏美	女性	草加市人権共生課	主事	20代	非常に良かった	女性自線での避難所運営について、大変勉強になりました。現在は職員が主体となった避難所運営ですが、将来的には市民に主体となってもらうべく、女性リーダーの養成に興味があります。	
小島 憲子	女性	草加市	主事	30代	良かった	全体的によかった。知りたいこと、知らないといけないことを持ち帰り活かしたいと思います。	被災地の女性の声を聞ける意見交換会ができればよいと思います。 → テーマ候補として検討
相川 美佐子	女性	吉川市	主査	30代		とてもわかりやすくなりました。吉川市へ戻られてもまたよろしくお願	
鳥井 義弘	男性	JAXA	ユニット長	50代	良かった	女性視点のお話は、聞かなければわからなかったことばかりでした。また、被災時のワークライフバランスは、大事な問題と気づかされました。	大規模事故発生時の初動体制及び実事例から見た問題点など → テーマ候補として検討
	女性			40代	非常に良かった		
河野 源	男性			40代	非常に良かった	女性の視点にたった対策や取り組みは、ハードの整備より非常に有用であると思いました。	具体的に避難所での現状の映像などを集めて発表してもいいと思いました。
田村 浩之	男性	吉川市	係長	40代	非常に良かった	女子視点での災害対応の重要性を再確認することができました。被災地の女性対応の状況をわかりやすく説明していただいたことは、早急に業務に取り入れることができ非常に有意義でした。	今日の話をそのまま自主防災組織連絡協議会の研修会でお願いしたいと思いました。今後、上席のものに相談したいと思います。
砂田 紀子	女性	あみ∞あむ	代表	50代	非常に良かった	女性の視点とはということの解説は特によかったです。	
川村 丹美	女性	SOMPOリスケアマネジメント	コンサルタント	50代	非常に良かった	関東大震災のころから被災時の女性の課題が挙げられ、それが今も同じことの繰り返しになっていることに衝撃を受けました。	防災女性リーダーの研修(養成)をしてほしい。研修を受けた人がさらに講師となって教えられるようになれば、もっと広がるのではないかな。
千葉 隆博	男性	営業本部	課長	50代	良かった	自主防災活動及び会社において被災後の対応を策定していましたが、見直しが必要だと思った。女性の直面する課題がわかって、あらためて女性視点での多様性を考慮してメンテナンスをしたいと思います。	
清水 建雄	男性	わせがく高等学校	教諭	50代		・私はボランティア(瓦礫撤去)に2日しか行けなかったことが少し恥ずかしく思います。 ・まだまだできることがあるはずではないかと思いますので、関わって生きたいと感じました。 ・私は土木施行管理技師として働いていたこともあるので、考えていきたいです。 ・女性の同僚は炊き出しから今も定期的にボランティアに行っています。私は恥ずかしく思います。	・多様化するネットいじめ(学校・会社)の現状と対処について ・セクシャルマイノリティ(LGBT)に関する研究(不登校の原因にも考えられます) → 危機管理研究上の位置付けについて検討

第10回研究会 アンケート結果

日時	司査者・討論者	報告者	報告内容
2016年10月29日	共通論題	北村弥生(国立障害者リハビリテーションセンター研究所)	大規模災害時の障害者対応の課題
	分科会Ⅰ	松井豊(筑波大学)	災害・被災者対応における自治体職員の課題とメンタルストレス
	分科会Ⅱ	幸田雅治(神奈川大学)・横田真二(内閣官房)	大規模災害における国土自治体の役割分担-熊本地震を題材
	分科会Ⅲ	幸田雅治(神奈川大学)	危機管理士1級セッション
	分科会Ⅳ	浅野幸子(減災と男女共同参画 研修推進センター)	大規模災害時の女性・男性の困難とニーズ

※赤字はコメントに対する事務局対応

アンケート回答

お名前	性別	ご所属	役職	年齢	<input type="checkbox"/> 今回の研究会の内容について あてはまるものを丸で囲んでください	<input type="checkbox"/> 今回の研究会の内容について あてはまるものを丸で囲んでください <分科会Ⅰ・Ⅱ>	<input type="checkbox"/> 今回の研究会の内容について あてはまるものを丸で囲んでください	<input type="checkbox"/> 研究会のご感想やご意見をご自由にお書きください	<input type="checkbox"/> こんなテーマの研究会があったら参加したい、こんなイベントがあったらいいなど、ご意見をお聞かせください。
村上智章	男性	広島国際大学	准教授	50代	非常に良かった	I:非常に良かった	III:非常に良かった	過去の経験をしっかりと蓄積し、それを将来に生かすことの必要性を痛感した。特に危機管理(本書)の管理職の経験、対処についてしっかりと記憶を残していることの重要性を感じた。	被災者と支援者の二面性、その葛藤を主題とした被災地現地の自治体職員のみの方について → テーマ候補として検討
平田美智子	女性	千葉市	課長	40代		I:非常に良かった	IV:非常に良かった	大変参考になる発表でした。しかし、とにかく時間が少ない気がします。中身が濃いので、可能であればもう少し時間をとっていただければありがたいです。	
千野隆博	男性	関東情報サービス(株)営業本部	課長	50代	良かった	I:良かった	III:良かった		
長谷川忍	女性			50代	非常に良かった	I:非常に良かった	IV:非常に良かった	自治体の被災時対応について、ご遺体(あつてほしくないことですが)の対応も必要となりますことから、今回の研究会の中で村上先生のDMORTの内容や、松井先生の被災下自治体職員のメンタルヘルスについてお話しいただいたことは大変意義のあること(多くの自治体職員の方々に気づいてほしいこと)だと思います。取り上げていただき感謝です。本日の内容は、私にとっても知りたかったことのみならず、さまざまな気づきを得ました。皆様ありがとうございました。参加してよかったです。	東京オリンピックを控えていることから、mass gatheringについて → テーマ候補として検討
佐々正光	男性	日本福祉大学福祉経営研究会事務局		70歳~	非常に良かった	II:非常に良かった	III:非常に良かった	障害者に対する防災対策としていろいろな発表をいただきありがとうございました。	
相川康子	女性	NPO政策研究所、近畿自治体学会	専務理事	50代		I:良かった	IV:良かった	分科会1 自治体職員に対するメンタルケアの必要性について、具体的に良く分かりました。 どの時期に、どの職員がストレスを抱えやすいか(どんなケアが必要か) 分科会4 盛り込みすぎ?もう少しポイントを絞っても良かったのでは。 女性防災として女性のエンパワメントと同時に男性向けの啓発も必要	情報発信(マスメディア対応、SNS対応、デマ対策、風評被害など) → テーマ候補として検討
森田圭二	男性	自由学園危機管理本部	本部長	40代	良かった	II:良かった	III:良かった	本校は地域防災の拠点となる活動を行っているが、地域の課題として自治体力の低下を感じている。加入率の低下や自治会の未組織率を見ると、様々な取り組みの先々への広がりに難しさを感じている。今回の報告も取り組みとしてわかったが、それぞれの広がりをどうイメージしているのか。良い取り組みも知らない人が多ければ狙った結果を得られないのでは	非自治会員への働きかけ、自治会がない場所への働きかけ、マンション管理組合とのつながり方といったことを実践されている人、成功体験を持っている人の話を聞きたい。 → テーマ候補として検討
	男性			40代					福祉避難所について → テーマ候補として検討
	男性			50代	良かった	II:良かった	IV:良かった	現場意見、中央意見が聞けて参考になった。	自主防災組織の活性化の取り組み → テーマ候補として検討
大石雅也	男性	セコム損害保険	課長	40代		II:非常に良かった	III:非常に良かった		
田村	女性	南房総市社会福祉課	係長	40代		I:非常に良かった	IV:非常に良かった	自治体の方が報告者の議題が多く、大変参考になりました。避難行動支援名簿及び福祉避難所の担当をしていますので、健康先生の話は特に良く、参加してよかったです。また、メンタルヘルス、施設職員の困難及びピアサポート、避難所の性暴力、備品等、はじめて聞く報告も多くて防災に関して視野が広がりました。	福祉避難所の設置までの行程と内容について、他自治体の報告があったら参加したい。近隣の市町村もありませんので、福祉避難所は一応、高齢者、障害者施設25施設と協定を締結しているが、詳細はまったく決まっていないので、災害時にちゃんと機能する福祉避難所の研究をしている方の話をうかがいたい。 → テーマ候補として検討
稲葉達也	男性	南房総市社会福祉課	主事	30代		I:非常に良かった	IV:非常に良かった	福祉の防災について試行錯誤をしながら取り組んでおりますが、なかなか進んでいない状況でした。今回の研究会に参加させていただいて具体的なお話をお聞きして取り組みの方向性を見出すことができたように思います。特に健康先生のお話でBCPについてワールドカフェについてが大変参考になりました。市職員も自覚がない方も多いため、まずは職場内、次に協定施設で早速実践してみたいと考えております。ありがとうございます。	平常時における各自自治体の福祉防災への取り組み(福祉避難所の体制構築や災害弱者への対応検討など)について学びたいと考えております。
山下尚郎	女性	一般企業		30代	良かった				
	男性	江戸川区	主任主事	40代	非常に良かった	I:非常に良かった	IV:非常に良かった	いろいろな貴重な知見をいただきありがとうございました。	非会員の私にも参加のチャンスをいただきありがとうございました。
	女性			30代	良かった			災害時支援者への支援がテーマとしてとりあげられ、震災時の具体的な事例を聞くことができ、また学術的な分析結果も紹介されていて、バランスの良い構成になっていたと思います。今後も事例紹介、事例研究と学術研究の両面を取り上げていただきたいと思います。	災害時の情報収集、提供 → テーマ候補として検討
黒須さち子	女性	埼玉県男女共同参画推進センター	専門員	60代	良かった	I:良かった	IV:良かった	どの報告もすばしかったです。詰め込みすぎの感じがします。報告本数を少なくして、じっくり報告をしていただきたかった。ほとんどの報告者が駆け足で大変そうでした。また、もう少しポイントを絞って話していただけたらよかった。男女共同参画の視点にかけるといふ表現があったので、質問の形で指摘しましたが、ごまかされた感じがした。もう少し配慮した表現をしてほしい	市町村レベルの防災や地域づくりの先進的な取り組みを紹介していただきたい。 → テーマ候補として検討
	男性			40代				分科会1に参加しました。実際に重い体験の報告が身にまわりました。しかし、重いテーマを軽妙にまわっていただき、穏やかな雰囲気の中で昇降できましたことを感謝します。	災害時の救助・救援に携わる関係者(自治体・地域住民・ボランティア等)が負うことになる法的責任、損害賠償の問題について議論をいただければと思います。 → テーマ候補として
勝島聡一郎	男性			50代	非常に良かった	I:非常に良かった	IV:非常に良かった	災害時の公務員の惨事ストレスは大変な問題です。今後も引き続きとりあげていただきたい。	日本トラウマティックストレス学会と近隣学会と共催をこころみてはいかがでしょうか。参加者の層がかなり近いように感じます。学会誌の購入は普通の書店でも可能でしょうか。 → 市川先生に報告し、対応を検討
	女性			20代	良かった		IV:良かった	司会の方の時間配分をもう少しうまくやってほしい。実体験を基にした教訓や提案を聞くことができとても貴重な学びを得た。もう少しポイントを絞って話した方が分かりやすかった。	

石川美紀	女性	(株)オリエンタルコンサルタンツ	技師	30代	非常に良かった	Ⅱ:非常に良かった	Ⅳ:非常に良かった	業務に関わる内容だったので、大変勉強になりました。建設コンサルタントとして責任を持って自治体の担当者の支援をしっかりと行っていくために、自己研鑽の場として今後も活用したいです。また、自治体の担当者の現場の話が多く、どんなことに悩んでいるのかなどいろいろと学ぶことができたことが大	国、県、市区町村の役割分担の話は、もっと掘り下げた内容のテーマでも議論を聞いてみたいと思います。広域避難の支援をどう自治体間で連携してやっていくのかというテーマも気になります。復興分野でも復興事業にかかわる基金のあり方について取り上げてほしい。→ テーマ候補として検討
山本学	男性			30代		Ⅱ:普通	Ⅳ:普通	様々な観点からの災害対策を聞かせていただき参考になった。	もう少し障害者の生活実態を踏まえた対応について、掘り下げた議論・報告 → テーマ候補として検討
鈴木修	男性	岩手県	主査	40代	良かった	Ⅰ:良かった	Ⅳ:良かった	災害時に見逃されがちな障害者や高齢者などの災害弱者や、防災におけるジェンダーの問題についてフォーカスした研究会となっており、とても有益であったと思う。今回の内容は、防災以外の分野においても大事な視点を含んでいると考えられるので、今後の政策立案や施策推進にあたって参考として	外国人観光客が多く訪れていることから、災害時における外国人観光客への対応について取り上げてほしいと考える。→ テーマ候補として検討
	男性			40代	良かった	Ⅱ:良かった	Ⅳ:良かった	熊本地震、東日本大震災の経験をされた方の生の話を聞くことができ大変参考になりました。	自然災害以外のリスク(事件・事故)についての発表も聞いてみたいと思います。→ テーマ候補として検討
		地方公務員	課長	50代	非常に良かった	Ⅱ:非常に良かった	Ⅳ:非常に良かった	実践的な内容を知ることができた。現場の話が非常に参考になった。	
鳥海雄二	男性	横浜市	課長	50代		Ⅰ:非常に良かった		遺族への対応やケアについて、もう少し具体的なことをきればと思いました。最後の松井先生の言葉は印象深く、職場でも伝えようと思います。	
高橋雅美	男性	明治大学大学院経営学研究科、常総広域消防本部		50代	良かった	Ⅰ:良かった		小山雄士室長の3.11における災害対応から、災害対策本部として消防、警察、自衛隊、海上保安庁などの連携が必要となってくると思いますが、その対応はいかにされたのか。	
橋本仁	男性			50代	良かった	Ⅱ:良かった	Ⅳ:良かった	分科会2はとても参考になる内容でした。ありがとうございました。	
佐々木敏樹	男性	市川市障害者支援課	課長	50代				福祉避難所のあり方について、根本的に考え直さないといけないと感じていたところであり、大変参考になりました。	

第35回定例研究会 アンケート結果

日時	回次	報告者	報告内容
2016年12月14日	第35回	西條剛央 (早稲田大学)	災害時における新しい物資支援と自治体の連携

※赤文字はコメントに対する事務局対応
アンケート回答

性別	年齢	今回の研究会の 内容について、あては まるものを丸で囲ん でください	研究会のご感想やご意見をご自由にお書きください	こんなテーマの研究会があつたら参加したい、こんなイベントがあつたらいいなど、ご意見をお聞かせください。
男性	40代	あまり良くなかった	マニアックな話に比重が大きく、要点が理解しづらい。	
男性	50代	非常に良かった	本日の内容はとても勉強になりました。自治体様へこのような仕組みをITとして提供することを業務としています。今回の仕組みは今後のシステムの参考にさせていただきます。ありがとうございました。	同じようなテーマがありましたらまた参加したいと思います。
女性	40代	非常に良かった	現在物資の配送について、民間事業者との災害時協定を検討しております。来週、ヤマト運輸様との予約があり、スマートサプライの件についてお聞きしてみたいと思います。	
男性	40代	非常に良かった	11月～2月に講座をやっていたいただいて助かりました。きてよかったと思います。物資の分野だけでも災害対策は置けるが深く、各市町村で考えるには、荷が重いし不安を感じました。日本全国の行政で情報を共有し、検討する場があるとよいと思いました。(現状では見当たりません)本市だけでも知れませんが、思ったより整理されていないのです。スマートサプライを使ってみたいと思います。避難所運営のファンリテーターがほしいと思っていました。	災害救助法に基づく応急救護等の訓練(図上訓練で結構です)のようなことがあるとありがたいと思います。液状化対策の方法(一般住宅の対策はないのか、杭打ちは現実的なのか?)災害対策本部の活動訓練に關した研究会、広域非難の実務研究 → テーマ候補として検討
男性	30代	非常に良かった	・支援物資については、行政の限界を感じていたため、スマートサプライの仕組みは、非常に参考になりました。 ・スマートサプライの事例やメリットをもっとお聞きしたかったです。	自助を推進するための効果的な取り組み、特に市民一人ひとりの防災意識を効果的に啓発できる方法等を勉強したい。 → テーマ候補として検討
男性	40代	非常に良かった	スマートサプライの仕組みの大きな可能性を知ることができた。自分が関わっている団体との連携をお願いしたいという部分もあり、共感できた。	市民レベルの民間活用による防災安全対策について → テーマ候補として検討
男性	50代	非常に良かった	現在、(一社)日本レスキューボランティアセンター(2016.9設立)にて、災害時のボランティアコントロールリーダー養成と地域教育をすすめるようとしていますが、物資のコントロールに関しては、特に私設避難所のコントロールにむけて考えていかなければなりません。SmartSupplyを有効利用しつつ、人的支援また受援に対し、お話の内容には共感点が多くありました。一般の「役所が助けてくれる」の誤認を解き、自立した被災者を作るのも教育部門の目的です。大変力がわかりました。ありがとうございました。	
男性	30代	良かった	実体験と学問を含めた講義を聞くことができて有益だった。	
男性	20代		スマートサプライの仕組みが、今年の熊本地震で課題として再認識された物流体制にマッチしたもので、今後進んで行けば自治体の悩みも解消されそうだなと感じました。	
女性	70歳～	非常に良かった	・男女平等課とともに女性災害リーダー養成講座を4年ほど開催。避難所運営マニュアルに特化せず、応急手当など実際にできることをしています。今回のお話で、自分の方向性に自信がもてました。 ・トレーラーは快適です。米国で体験済み。普段学生などが使えるよう、公園や広場にあるといいなと思った。 ・自分としては、野口さんの提供されているテントで空間確保をしたいと思います。 ・逃げるという発想がなかったため、とてもためになりました。 ・DMAT(日野市立病院)が四日間熊本派遣でした。すごく非効果的に見え、形式的でした。 ・がん患者のためのカフェを開いている(日野市立病院)がどう災害時をのりきるかを考えています。 ・先生のお話を健康心理学会で聞いた気がします。私は健康心理士です。	
男性	30代	非常に良かった	災害時のニーズのマッチングができる非常に有益な仕組みだと思いました。スマートサプライと物流との関係性(課題も含めて)についてもっと説明を聞きたかったです。また、発災初期から復旧期は、人命に関わる物資や当面の生活の維持に必要な物資のニーズを優先すべきと思いますが、そのようなフェーズでもあらゆるニーズのマッチングをどうしてよいのか。課題だと思います。	
男性	40代		システムの維持・管理の方法や運用のルールといったものが必要となると思われますが、その辺を詳しく聞きたいと思いました。	物流と流通の課題etc. → テーマ候補として検討
男性	50代		スマートサプライの説明が良かったです。もう少し質問の時間を多く取って頂けたら、皆様色々な意見を聞くことが出来、良いと思います。	
男性	20代	非常に良かった	来年から公務員として働くのですが、冒頭で中林先生がおっしゃっていた通り、行政(特に国)だけで災害に対応することは不可能で、官民両方の強みを活かした仕組み作りが不可欠だと感じました。とりわけ後者の「国」に関しては、今回首都直下地震の話をもっと聞きたかったです。首都直下地震では、スマートシステムの運用が難しいのでは、などです。	
女性	40代	良かった	自治体が抱えているリアルな課題を一部でも聞けたことが良かった。	
女性	40代	非常に良かった	新たな物資支援システム、スマートサバイバープロジェクトのお話をうかがい、本質をみきわめる、考える重要性を学ばせて頂きました。本当にありがとうございました。	
男性	50代	良かった	横展開が進んでいる事を実感しました。今後の連携について相談したいと思いま	
男性	60代	良かった		教訓はなかなか生かされていない。何が原因か、先生の構造的見解をお聞きしたい。 → テーマ候補とし
男性	60代	非常に良かった	DMATの避難所運営版の構築の提言は大変興味を持つ内容でした。人材育成の方策が求められていることを痛感します。有難うございました。	
男性	60代		とても興味深かった。ただし、首都直下で大規模な災害時には、輸送網の整備前提が課題でしょう。	

男性	70代	非常に良かった	岡本拓也著「わかりやすい構造構成理論」を読んで、西條先生のことを知りました。2011年5月から、島根県臨床心理士会は気仙沼の小中学校へ毎月のように支援に入っています。西條先生の活動や、考え方に関心を持っており、すごいなと思っています。医療部門でも災害支援にもとても役立つ考え方だと思います。今日、お話をお聞きし改めて勉強になりました。ありがとうございました。	
男性	40代	非常に良かった	・スマートサプライの仕組みを学ぶことが出来た。・本質から考えるアプローチは大変理解できた。	
男性	40代	非常に良かった	平成24年から参加、不参加を繰り返しています。今回の物資支援の話を変な面白かったです。	災害後(発災後)の速やかな支援について、研究もしくはディベートに参加したいと考える。 → テーマ候補として検討

第36回定例研究会・シンポジウム アンケート結果

日時	司会者・幹事者	報告者	報告内容	
2016年10月29日	第一部	GP大学院発表セッション	鈴木翼・高橋政宏・酒井祐介(大学院GP院生)	修士論文発表
	第二部	共催シンポジウム	関澤愛(東京理科大学)・中林一樹(明治大学)	大都市の地震火災と広域避難問題をめぐって
	第三部①	第36回定例研究会	佐々木晶二(国土交通省国土交通政策研究所)	防災復興法制を知る
	第三部②	危機管理士シンポジウム	小牧学(長野県伊那市)・澤目国弘(八戸市)・鈴木修(岩手県)	危機管理士1級セッション

※赤字はコメントに対する事務局対応
アンケート回答

性別	年齢	<input type="checkbox"/> 今回の研究会の内容について、あてはまるものを丸で囲んでください <第一部>	<input type="checkbox"/> 今回の研究会の内容について、あてはまるものを丸で囲んでください <第一部>	<input type="checkbox"/> 今回の研究会の内容について、あてはまるものを丸で囲んでください <第二部①>	<input type="checkbox"/> 研究会のご感想やご意見をご自由にお書きください
男性	70歳～	普通	良かった		第一部:公助の限界については、今後、自助・共助と公助の接点における関係者の役割を明らかにすること、それらを検証することが必要と考えています。 第二部:延焼火災については、本部運営訓練において毎年避難対策の要領に取り組んでいますが、本日の問題意識と現状とのかい離が大きく、一層の取組みの必要性を痛感しました(茅ヶ崎市)。
男性	20代	非常に良かった	良かった		
女性	50代	良かった	良かった		
男性	30代	良かった	良かった	良かった	
男性	60代		普通		
女性	50代	非常に良かった	非常に良かった	非常に良かった	第一部:もう少し具体的・詳細なことも知りたかった。 第三部:佐々木先生のお話、とても参考になりました。
男性	50代		非常に良かった	非常に良かった	第二部:火災の怖さがよくわかりました。今後の予防対策について教えて頂きたいと思いました。
男性	60代	良かった	非常に良かった	非常に良かった	第二部:大都市の地震火災と広域避難問題が良かった！ 第三部:「防災復興法制を知る」も良かったです！
男性	50代	良かった	非常に良かった	良かった	第二部:特に勉強になりました。良かったです。ありがとうございました。
男性	50代	非常に良かった	良かった	非常に良かった	第三部:今まで分かりにくかったことがよくわかりました(地区防災計画など)。ありがとうございます。
男性	60代	普通	良かった	非常に良かった	
男性	60代	普通			第一部:防災危機管理の分野は、応用科学、実証研究ゆえ抽象度の高い話は一定の限度があるので、具体例(実践例)を適宜盛り込んで発表するようご指導頂いたらどうか。 第二部:両先生のご講演は、すばらしく、大変参考になった。
女性	40代		非常に良かった	非常に良かった	第二部:火災の被害拡大のシミュレーションは、火災だけではなく感染症や化学災害の被害想定にも応用できそうで、大変有用であると感じました。
男性	40代	あまり良くなかった	普通	良かった	
男性	50代	非常に良かった	非常に良かった	非常に良かった	第二部:常時、非常時の大規模火災の広域避難の具体的シミュレーションも議論を聞きたかった。 → テーマ候補として検討
男性	50代	良かった	非常に良かった	非常に良かった	
男性	60代	良かった	良かった	良かった	
男性	50代	良かった	非常に良かった	良かった	
女性	40代	良かった	良かった	良かった	第一部:行政の縦割り削減、民間企業と地域住民との連携不足、お互いの意思疎通etc.防災に対する自分ゴト化ができていない事を改めて思いました。(七草役所は有感)
男性	50代	非常に良かった	非常に良かった	非常に良かった	夕予割り行政(国レベル、自治レベル)をどうするか、地域住民の参加をどのように活かすか、国、都道府県、市町村、民間業者、地域の連携、予防、応急、復旧、復興の総合化と密接に関連するテーマ、テーマの関連性が浮かび上がり、有意義な研究会であった。

第37回定例研究会 アンケート結果

日時	回次	報告者	報告内容
2017年5月17日	第37回	小池洋恵 (熊本市議会議員)	「熊本地震」、地域コミュニティから考える防災力と地域力、その課題

※赤文字はコメントに対する事務局対応
アンケート回答

性別	年齢	今回の研究会の内容について、あてはまるものを丸で囲んだらいい	研究会のご感想やご意見をご自由にお書きください	□ こんなテーマの研究会があったら参加したい・こんなイベントがあったらいい など、ご意見をお聞かせください。
男性	50代	良かった	<ul style="list-style-type: none"> ・実際の状況が分かり、市の防災に実際に活かせる。 ・全体が見えている人が災害現場を話しているので分かりやすい。 ・災害ボランティアの良さをしることができた。 ・ボランティアの学生の心の動きを知ることができた。 ・山城氏の地域づくりとバックするkとによって、多くの視点をえた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・こんなテーマの研究会があったら参加したい・こんなイベントがあったらいい など、ご意見をお聞かせください。 → テーマ候補として検討
男性	40代	普通	配布資料に書かれている画面が出てくるのでメモしきれず。最初から同じスライドを配布したらよい。	
男性	50代		熊本地震における実際の経験から学ばれたことをわかりやすくお話いただき、参考になりました。避難所は快適な場所ではないことを前提に防災対策をたてていくことが大事ですね。	
男性	50代	良かった	災害時における対応での平常時も含めた地位気力の重要性について	
男性	40代	良かった	実体験に基づく、課題整理ができており、とても参考になりました。	
男性	30代	非常に良かった	避難所運営の現場を経験された方へのお話をうかがえたのは、大変有意義でありました。ありがとうございました。	
男性	60代		低いバージョンをよしとわかったとのことだが、歩行バナー保護、女性目線要求との兼ね合いが困難では。思いの共有で解決するということが、顔を知った関係のある地域か、もともと都市で顔の見えるになりえない地域もあるでしょう。	
	50代	非常に良かった	今回の講演は実践の話であった。実際に現場にいたのだから、感想は本物。すぐ得るものがあった。この学会は実践と学術的内容、両方を学べるようなものだと思う。	避難所、特に「福祉避難所」といわれる場合はどのように運営すればいいのかしりたい。 → テーマ候補として検討
男性	50代			
男性	60代	普通	もう少し現場の生の声を聞きたかった。	災害発生時に備えるための具体的なトレーニングを実施している団体があれば、その内容を知りたい。
男性	50代	良かった	体験からお話いただきありがとうございました。未来に向かって良いコミュニティーができれば素晴らしい。東京でも同じ課題を抱えていますので、地域にあった取り組みを進めていくヒントに	
男性	50代	良かった		
男性	30代	良かった	熊本地震の経験の上にならったお話でとても参考になりました(バージョンの高さや自治体職員、ボランティアの人と被災者の方とのトラブルなど)。また、孤立化を防ぐために地域コミュニティの強化、そのために子どもにもっと自由をと	地域コミュニティがうまくいっている事例をたくさん聞きたいです。 → テーマ候補として検討
女性	40代	良かった	「ついこ来たか」といえるくらい備えができるだろうか。日本は太平洋側は備えていることが多いが、そうではないところは備えていないと思う。どう自分ごと化できるだろうか。「想定外」とはいえないという指導者やリーダーが増えればよいと思	
女性	50代	非常に良かった	大変参考になりました。ありがとうございました。	
女性	60代		具体的なお話をいただきありがとうございました。備えていてもわかることもある。落ち着いてお話をすることが大切。もっと具体を聞きたいと思いました。教室に障害の方々のお部屋をつくるなど、もっと備えなければならぬと思いました。	
男性	40代	非常に良かった	実体験を踏まえたお話でとてもよく理解できました。また、これまで違った視点での提案があり、今後の展開がとても楽しみです。私も今回の話の視点で防災を考えてみたいと思いました。	防災や危機管理を他人任せにしない、自分のこととしてとらえる、心理学的アプローチを聞いてみたい。 → テーマ候補として検討
男性	60代	非常に良かった	これからは被災地で実際に体験して人の話を聞くプログラムをお願いしたい。	
男性	40代	良かった	熊本の具体的な話が聞けて参考になりました。	
男性	30代		<ul style="list-style-type: none"> ・現場に近いところで活動してきた方の様々な意見をきくことができたのでよかった。 ・防災と防犯の関係性とその重要性を再認識することができた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・災害時に行政の陣頭指揮を取った方の体験談や提言など → テーマ候補として検討 ・事業者の災害対策について(ライフライン、物流等行政と密接な関係がある布業者) → テーマ候補として検討
男性	30代	良かった		

男性	40代	良かった	詳細な部分(パワーポイント)がレジメになく、書き取る時間もなかったため残念。	
女性	50代	良かった	いつも勉強になります。	地域の連携、避難所運営 → テーマ候補として検討
男性	50代	非常に良かった	・現場にいた方言言葉は、心に響きます。 ・子どもが感わない指導ができるようになりたいと思いました。 ・私が関わっているLGBTの方々についても、もう少しお話を聞ければと思いました。 ・偽ボランティアの見極め画重要であると感じました。	
女性	40代	非常に良かった	地域コミュニティの再生の重要性は大変共感できました。一方で、ここ数年のコミュニティの崩壊が加速していることも肌で感じており、この状況をどう変えていくかはとても難しいことであると思いました。熊本モデルをつくり、是非全国発信し	学生ボランティアについて → テーマ候補として検討
女性	40代	良かった		
女性	40代	良かった		
男性	70歳～		パワーポイントの文字をもう少し、配布資料に残してほしかったと思います。大変貴重なまとめ文等が理解不足になったように思う。	
男性	50代	非常に良かった	あわてない、ゆっくり話す。防犯の見回りの話、現地の実際の話聞いてよかった。実例を知る機会があまりないので、防犯のためにやるべきことをもと整理して知りた。	防災、備災、災害時のコミュニケーション → テーマ候補として検討
女性	60代	良かった	避難所運営の実際のお話が聞けてよかった。	避難所における障がいのある人の実際 → テーマ候補として検討

第38回定例研究会 アンケート結果

日時	回次	報告者	報告内容
2017年7月12日	第38回	五十嵐和大(毎日新聞社 科学環境部) 堀潤(元NHKアナウンサー・NPO法人「8bitNews」代表)	大規模災害後の復興プロセスにおける課題:報道の視点から

※赤文字はコメントに対する事務局対応

アンケート回答

性別	年齢	<input type="checkbox"/> 今回の研究会の内容について、あてはまるものを丸で囲んでください <input type="checkbox"/> 研究会のご感想やご意見をご自由にお書きください	<input type="checkbox"/> こんなテーマの研究会があったら参加したい、こんなイベントがあったらいいなど、ご意見を聞かせください。
男性	40代	非常に良かった	SNS時代の災害報道についてのお話、大変よかったです。マスコミのネガティブな面が解消された、今を生きる人たちのための災害報道「次どうするべきか」は皆が考えるべきことと思った。
男性	40代		堀潤さんの講義で、SNSの活用・各個人が呼び込める等の活用方法が大変有効であるとの事が理解できてよかった。
男性	20代		<五十嵐さん>新聞を書く方の見ているもの、感じられるもの、考えられる貴重な機会でした。
男性	70代	非常に良かった	堀潤さん、インセンティブの話、とても勉強になりました。一般の人の発信でも、それを作るコストがかかるので、その部分が気になって極めて具体的で今後の参考になった。
男性	50代	良かった	インターネット(SNS)を利用したの情報発信の可能性、個人の発信からのメディアリレーを通しての発信の重要性、取り扱いに関する危険性もあると思うが、それ以上の協業による重要性を改めて感
男性	50代	良かった	堀氏のパブリックアクセス実現の取り組みが、被災地の情報を伝えるのいどのように役立つのかが分かり大変勉強になった。
男性	30代	良かった	福島県いわき市豊岡地区に昨年通い取材を続けています。住民間の意見の相違、対立を目のあたりにし、しかしどちらの声も切実さがあり、共感してしまいます。そのような状況で何をどういうスタンスで発信すべきかを悩みながら「事実をリポート」することに、どの程度、住人と発信者たる自分の主観意見を交えるべきなのか、伺いたく思います。
男性	50代	非常に良かった	堀さんのパブリックアクセスでの情報発信の方法については、なるほど!と思った。大きな主語より、小さな主語という言葉は非常に興味深い話であった。
男性	20代	非常に良かった	
男性	20代	非常に良かった	マスができること、個人ができること。SNSの発展で可能性は広がっている。もちろんデメリットもある。しかしそれに気を付けながらも技術の持つ可能性を追求し、新たな情報発信の在り方を見つけることの意義を知ることができたと思います。
男性	40代	非常に良かった	マスメディアが中心としては取り上げない部分への光の当て方、情報の発信のあり方についていろいろ勉強になりました。わたくし達、行政としては、堀さんの取り組みについて「災害時に上手に援助することで、今まで発信するのが難しかった情報を、住民の方や、それを支援して下さる方々に伝えていけるのでは」ととても可能性を感じ
男性	40代	良かった	現状に対してどう報道するのか?ということを聞きかかった(新聞社の方)
		非常に良かった	災害報道の難しさがよくわかりました。不公平にならないことにも気を使うこと、思い込みから脱することができるように、正確なことを伝えることが大切だと思いました。きめ細やかな取材に脱帽しました。
男性	50代	非常に良かった	現場経験者の意見はとても参考になります。
男性		良かった	<五十嵐さん>記者という仕事には、発信する情報には思いが詰まっている事を知りました。新聞、特に地方版、もっと読みます。
男性	30代	非常に良かった	<堀さん>8bitnewsとても興味が湧きました。
男性	20代	良かった	両講演ともに、被災された方々のために、報道を行うというスタンスを感じました。パブリックアクセスについて、学ぶことができ勉強になりました。
男性	20代	良かった	行政機関も報道機関と連携する必要があると感じた。
男性	20代	非常に良かった	報道のあり方等、非常に参考になる面白い話が聞けた。
女性	20代	非常に良かった	「報道で伝えるべきは、ストーリーではなく、今どんなアクションをおこすことができるか?」「正確な情報で守ってあげられないか?」印象に残った堀さんの言葉です。堀さんと働いていますが改めて大切に
男性	60代	非常に良かった	大変面白い内容でした。

男性	40代	非常に良かった	<p><良かった>実際の映像もあって写真だけではなく良かったと思う。(特に学校内の避難所ボランティアと被災した企業の声)<足りない>実際に生活に本当に困った人たちが会社のサポートがどうだったの分からない。</p> <p><聞きたかった>私も現場に入っているが、本当に地域や住んでいる場所を大事にしている人とそうでない人達の部分について聞きたかった。</p>	<p>・災害後に起きた裁判とその後</p> <p>・個人と企業の支援(お金・物・人)BCP</p> <p>・犯罪対策</p> <p>→ テーマ候補として検討</p>
男性	30代	普通	報道の観点、視点について、新たな発見があり、参考になった。	昨今の報道にも多い企業不祥事に関する対応や自治体と関係性等について
男性	60代	良かった		詳しく聞きたい → テーマ候補として検討
女性	20代		<p>・五十嵐さんのお話し下さった、一つ一つの複雑な問題を身近なものとして、かみ砕く、という部分が非常に印象に残りました。その点ももう少し詳しく聞きたかったです。</p> <p>・堀さんのお話されていた日付モノからの脱却とそれに対する社会全体のコンセンサスの獲得の部分が印象に残りました。災害報道に対する姿勢が変わりました。ありがとうございました。</p>	
女性	20代		堀さんがどんな目的で、どんな手段で、伝えようとしているのか、明確にわかりました。震災後にマスメディアで連日連夜流される惨状に違和感を抱いていましたが“今を生きている人たちの為の災害報道をしたい”という堀さんの思いに納得しました。	
男性	60代	非常に良かった	<p><五十嵐さん>出身地の課題に対して、出身者としての思い入れが記事に表現されているのが、素晴らしい。</p> <p><堀さん>個別の事例に関する掘り下げの姿勢とネット利用の対応が良い。</p> <p>・新聞報道とネット報道の特徴がそれぞれの講演でよくわかった。共同での対処として全体で網をかける、その網の中での実態の改善の議論がどこまでめられるのか、今後の課題と思う。</p>	災害予知と危機管理 → テーマ候補として検討
男性	40代	良かった	<p>・五十嵐さんのお話は、事実の裏にある心情も読みとった、とても貴重なお話だった。風評とか思い込み、勘違いが被災者にとって強大な生活再建のへ障壁になることが理解できた。</p> <p>・堀さんのお話は、伝える、伝えるためにどうするかを研鑽されている点が勉強になった。ただし、報道したその内容が被災者にとって本当の答えになるのかは判断が難しく、揺れ動く被災地の気持ちを報道により、どちらかに選択させ、強化させてしまうことにならない</p>	生活再建支援による分野 → テーマ候補として検討
男性	40代	非常に良かった	堀浦氏の内容は、災害時の情報発信のあり方について非常に参考になりました。できることから取り組んでいこうと思います。	
男性	40代	非常に良かった	講師のお二人とも、災害現象、被災者に寄り添った報道をされていてとても素晴らしいと思います。災害現象のシレンマを肌で感ずることができました。災害対策においてどのように対応していけば良いのかを学びました。	<p>・避難をする為の応援</p> <p>・避難勧告を伝える方法を学びたいです</p> <p>→ テーマ候補として検討</p>
男性	40代	良かった	SNSの可能性について、認識を新にすることができた。これまでは、個人情報との兼ね合いから、消極的だったが、1つの手段として、活用策についても考えていきたい。	
男性	40代		災害対策では情報収集が大変重要だと考えます。マスメディアの情報だけではなく、個人発信の情報の活用を考えてみたいと思いました。	<p>・被災現場の声(被災者・被災自治体の職員など)</p> <p>・被災現場で本当に困ったことなど</p> <p>→ テーマ候補として検討</p>
	50代	非常に良かった	<p>・福島を想いながら、かけつけられないシレンマは共有できる。記者としての観点からのお話もよかったです。</p> <p>・SNSの活用については、デマもあり、検証する手段を確立していないので、信頼出来るサイトがあることは心強く感じ、改めて、サイトにお邪魔してみます。</p>	
男性	40代	良かった	報道のとらえ方やニュースから、その奥をイメージすることを心掛けをすることが重要という認識を持った。	被災地対応をクロスロードゲームで疑似体験する機会をいただきたい。また、それをプログラム化して、各自治体で一定以上のスキルを得られるようにしたい。 → 危機管理士講座への紹介を検討
男性	70代	非常に良かった	被災地の状況が見えた。(熊本)	
男性	30代	非常に良かった	堀さんのお話が聞けて良かったです。	
男性	30代	良かった	堀さんの説明が上手なこともあるが、ライブの動画を迫力を感じた。また、その力を結集してのメディア化は試みとして素晴らしい、行動を伴う人は是非応援したい！特に南阿蘇の話は考えさせられる内容であった。	
男性	20代	良かった	配布資料の字が小さいので拡大したものが欲しかった。	海外の災害について → テーマ候補として検討
男性	20代	良かった	ハブリンクアクセスの話は興味深かった。SNSを利用して、小さな主語のニュースを発信することは、確かに、誤解、解決済の実態や未報道の情報発信できると感じましたが、ニュースを発信した主体がしっかりと最新情報を発信していけば、誤解、解決済の実態を知ることができるのではないのでしょうか。適切な情報を整理することを行う	
女性	60代	良かった	記者の視点、悩みながら、ひとつひとつ記事にしておられる姿がよかったです。新聞を読むときに、それをひとりひとりに寄り添う気持ち、思いを語り解いていきたいと思えます。堀さんのSNSを使うこと、すぐにボランティアチームを作る、映像でみることで、とても	避難所運営の実態 → テーマ候補として検討
女性	30代	良かった	災害に対する報道機関の取り組みや役割、考えなどを聞く機会がこれまであまりなかったのも、よい機会だった。お二人ともそれぞれのスタンスで独自の災害へのかかわり方をされていることがわかった。報道機関と行政がどのように連携していくとよりよいか検討して	
男性	30代	良かった	今回の九州豪雨においても、SNSで要望を出した結果、物資が集まった後も、拡散し、届きすぎて逆に困ったという事例があった。本日の堀さんのお話は、その対応策としてとても興味深かった！	防災・災害対応
男性	20代	良かった	メディアからの情報というのは、メディアが受けている情報は同じように思えて異なっているのを現場の話聞いて感じました。	
男性	50代	非常に良かった	避難していじめに遭う子供たち、自殺を選んだ子ども、生きることを選んだ子ども、その現状についても触れていただきたいと思いました。しかし時間的な問題もあり、仕方がないと思っています。私自身いじめについて文章化して中学高校に配布しています。堀氏からの話から、もう少しかたちを整えて発信もしていきたいと思いました。	
男性	60代	良かった	<p>・毎日新聞の五十嵐さんの報道の話は熱心にしていたいたが、報道にあたっての視点、どういうテーマ性を持っていたのか、もう少し聞きたかった。</p> <p>・Bitnewsの堀さんのSNSでの発信についての考えは明快でよくわかった。しかし公平性をどう確保するのが課題と感じました。</p>	

第11回研究会 アンケート結果

日時	司会者・討論者		報告者	報告内容
2017年10月28日	共通論題	市川宏雄(明治大学公共政策大学院教授)	中村昭雄(大東文化大学法学部教授)、健屋一(跡見学園女子大学観光コミュニケーション学部教授)、佐々木晶二(国土交通省 前国土交通政策研究所長)、加藤孝明(東京大学生産技術研究所准教授)	「危機における人、組織、行動」
	分科会Ⅰ	幸田雅治(神奈川県立大学法学部教授)、田中淳(東京大学大学院情報学環附属総合防災情報研究センター教授)	野本祐二(総務省消防庁救急企画室長(災害対策本部広報班班長)、玉應雅史(河北新報社編集局報道部次長)、磯辺康子(フリーライター、元神戸新聞専門編集委員)、小多崇(熊本日日新聞編集委員兼論説委員)	「大規模災害におけるマスコミ報道のあり方」 (総務省消防庁セッション)
	分科会Ⅱ	市川宏雄(明治大学公共政策大学院教授)	村上智哉(大船渡市商工港湾部商工課主任)、山崎淳一郎(北海道大学研究推進部長)、後藤武志(飯田市危機管理室)	「危機管理士1級セッション」
	分科会Ⅲ	中林一樹(明治大学大学院政治経済学研究所特任教授)、小林秀行(明治大学情報コミュニケーション学部専任講師)	青木勝(旧山古志村復興担当課長(現(株)山古志アルカ村代表取締役))、八巻仁志(新地町企画振興課)、樋口幸室(小滝プラスチック代表社員)、佐々木康彦(西原村役場震災復興推進課)	「小規模自治体の震災後の復興プロセス」
分科会Ⅳ	青山侑(明治大学公共政策大学院特任教授)、諸澤英道(元常盤大学学長)	沢柳和彦(国分寺市市民生活部文化人権課長)、川名壮志(毎日新聞社会部記者)、菅原直志(東京都議会議員(日野市選挙区))、犬井勇司(京都府府民生活部安心・安全まちづくり推進課長)	「自治体による犯罪被害者支援」	

※赤文字はコメントに対する事務局対応

アンケート回答

性別	ご所属	役職	年齢	<input type="checkbox"/> 今回の研究会の内容について あてはまるものを丸で囲んでください	<input type="checkbox"/> 研究会のご感想やご意見を自由にお書きください					
男性	SOMPOリスケアマネジメント(株)	主任コンサルタント	30代	非常に良かった	普通					
男性	日本国際協力システム	参与	50代	非常に良かった	非常に良かった					
男性	広島国際大学	准教授	50代							時間が全体的に足りなかった。特に分科会Ⅲでもっと議論の時間が欲しかった。→ 進行及び時間部分について検討
男性	山口大学人文学部3年	学生団体つながり大作戦代表	20代	非常に良かった	非常に良かった					充実した大会であったと思います。議論のための時間が足りないということは、それだけ充実していたということと経緯なことだと思います。危機管理・災害対策に携わる人に今回の大会の成果を広く共有していただきたいと思います。
女性	中央大学	学生	～19歳							実際の災害の現場で活躍した学生や企業の方々の目線もあればなお良かったです。おおむね満足です。非常に和やかな学会だと感じました。
女性	中央大学	学生	～19歳							小滝の夜学に参加したいと思ったので、春休みに訪ねようと思います。
女性	中央大学経済学部	学生	～19歳							
女性	中央大学経済学部	学生	～19歳							
女性	中央大学	学生	～19歳							
男性	関東情報サービス(株)	課長	50代	良かった						
男性	関東情報サービス(株)	課長	50代	非常に良かった	普通					
男性	災害医療センター		50代	非常に良かった	非常に良かった					
女性	厚生労働省		30代	非常に良かった	良かった					どのセッションも発表される方の話に聞きごたえがありました。どんな分野でもやはり現場のことは大事かと、ありがとうございます。マスコミ報道セッションの中で、省庁を入れるのではマスコミについても触れるパネリスト構成にしていただけるとより自治体の活用につながるかと感じました。→ パネリスト構成について
女性	東京医科歯科大学	教員	40代		非常に良かった					何度か参加させていただいていますが、大変勉強になっております。毎回とも興味深い内容で企画・運営される方々に感謝いたします。今回分科会ⅠとⅢに参加しました。分科会Ⅰではマスコミの震災報道のあり方について様々な視点から検討されていて、マスコミの方々も内省により工場や改善に向けて努力を重ねられているのを感じました。一方、倫理的なことなどどのように対策をされているのか(特に震災直後の個人情報等)もう少しお話をうかがう時間があると嬉しいと思います。 → テーマ候補として検討
男性			50代	非常に良かった	良かった					分科会Ⅲでは、自治体(小規模)の復興について様々な立場の方から活動のプロセスや成果、課題を伺うことができました。自治体の文化や住民の意向の確認、合意形成など小規模自治体のモデル的な事業から学ぶとともに大規模自治体での現場の苦労と同時に、やはり生の話は興味深い。盛り上がりつつある様子も何年かあとにはまた分からない気がする。
男性	全国被害者支援ネットワーク	参与	60代							民間支援団体は財政的に困窮しており、被害者支援しながら資金集めの活動に多くの時間がとられている。行政の手の届かない部分を民間に任せざる、行政にももっと真剣に考えてもらいたい。今のままでは消滅の危機にある。
男性			60代	良かった	良かった					
女性			30代							
男性	SOMPOリスケアマネジメント(株)	部長	50代	良かった						非常に良かった
男性	中央大学経済学部		20代							
女性			30代	普通	普通					普通
女性			20代	良かった	良かった					分科会Ⅰでは、マスコミの人が感じている葛藤が分かりとても面白かった。ただ、消防の方の話だけが全体テーマから浮いてしまっており、あまり突っ込んだ話に発展しなかったように感じた。
男性	香川大学	副学長(危機管理)	50代							IVでは「危機管理」という概念を自分の中で広げることができた。犯罪被害者は「社会の被害者」である、という認識ができて香川大学の四国危機管理教育・研究・地域連携推進機構において機構長を担っている関係で、決して「危機管理」を専門としている訳ではございませんが、「勉強」目的で参加させていただきました。大学・大学院にて土木工学を専攻したことから全く知識がゼロという訳ではございませんが、力学しかしてこなかったのが感覚としては一般市民とあまりかわらないとは思っております。今回の研究会に参加して、改めてそれを認識しました。
女性	中央大学		20代	非常に良かった						前置きが長くなりましたが、香川大学では地元香川県と県内市町村はもとより、四国全体においても危機管理についてアドバザリーボードとしての機能が求められております。貴学会のよいところは、官や学という組織だけではなく、そこに所属する個人の知見の交換等が交換ならびに共有できる点ではないかと加藤さんのお話で、レベルⅢがきたらあきらめるべきという主旨をおっしゃっていたが、そうしたらその後どうするのか。健屋さんのマニュアルや人数よりも人間が大切であると言っていて、これは震災の話だけでなく、世の中で生活していく上でも共通することであると感ずる。
										SNSを活用した時代にあつた対応なども今後必要となっているのではないだろうか。その部分を聞きたかった。
										また、首都直下地震がおきるといわれているが、今自分が住んでいる自治体は、対応が大丈夫なのだろうか。自分自身も知識がなく、対応できずパニックになってしまう気がする。その際、やはり頼るべきは自治体の指示とかになってくるとより感じ

女性	中央大学	学生	~19歳	非常に良かった				非常に広いテーマで、多くの観点における対策や今後の課題を聞き取ることができ、本当によかったです。 また、住民や学生に対する防災知識を高めることがとても重要であると思いました。災害発生後は大きな組織が動くのはもちろん大切ですが、国民がお互い助け合い、学生による協力も不可欠であると思いました。
女性	中央大学	学生	20代		非常に良かった			
男性	政策研究大学院大学		20代	良かった				
女性	日光市役所		40代	良かった				
				非常に良かった				
男性			60代	非常に良かった				
女性	中央大学		20代	良かった				共通論議しか参加できませんでしたが、災害が起きたとき、自治体やその他の関係機関では災害を経験していない人がほとんどで、規則や法令があったとしても、実際にはうまく機能しないということを知りました。 地震等の災害時、マスコミの情報などがどの程度信頼できるのか分からないこともあります。 私自身の意見としては、災害時に支援の指示をするエキスパートを集めた機関を国につくり、防災策や災害対策に普段から取り組む人々を設置すべきだと思います。日本は地震大国なので、このような組織を作ることは決して無駄ではないと思います。
男性	中央大学	学生	~19歳	普通	普通			
男性	(株)久平	課長	50代	非常に良かった	非常に良かった			
男性			60代	良かった	あまり良くなかった			
男性	中央大学 経済学部	学生	20代		良かった			分科会1について、報道の裏側を含めて新しい視点はいくつか得られました。ただし、マスコミの方々のプレゼンは下手すぎま被災地(被災者)に寄り添うとは、被災地を知りこたであり、見守り続けることだと思ふ。しかし、いつまでも被災地ではないし、被災者でもない。私は1995年生まれて阪神・淡路大震災発生時はまだ生まれていなかった。そのため、神戸が被災地であったという認識があまりない。実際に被災したことを忘れることは無理だが、受け止めて前に進むことが必要だと思ふ。人によって意識の差はあるが、いつまでも被災者として扱われるはどうかと思ふ。地元の人々が前を向こうとしているのに、外にいる私達が被災者として扱いつけるのは疑問に感じる。被災地の援助は惜しんではいけないが、最終的には「自立」する個人や組織
男性			50代	良かった	普通			質問ペーパーのほか、口頭質問ができればよいと思ふ。 → 運営方法について検討
男性			50代	良かった	良かった			
男性			60代	良かった	普通			
男性	浦安市役所	危機管理監		非常に良かった	良かった		良かった	

第39回定例研究会 アンケート結果

日時	回次	報告者	報告内容
2017年12月19日	第39回	佐藤誠(PwC総合研究所合同会社 上席主任研究員) 永田高志(九州大学大学院医学研究院先端医療医学部門災害救急医学 助教)	九州北部豪雨における行政および医療の対応について

※赤文字はコメントに対する事務局対応
アンケート回答

性別	年齢	<input type="checkbox"/> 今回の研究会の 内容について、あてはまるものを丸で 囲んでください	<input type="checkbox"/> 研究会のご感想やご意見を ご自由にお書きください	<input type="checkbox"/> こんなテーマの研究会があったら参加 したい、こんなイベントがあったら いいなど、ご意見をお聞かせください。
男性	40代	良かった	災害医療は専門外だったので、詳しく知りたいたいと思い受講しました。DMATの活動についてもう少し聞きたかったです。	・被災者生活再建支援(り災証明)など ・災害時の要配慮者について(必要な対策など) ・災対本部の運営について → テーマ候補として検討
男性	20代	非常に良かった	災害時の医療について、現場の視点等からご説明いただき、今後の震災対策に活かしていきたいと感じた。	特別区(23区)が被災した場合の課題 → テーマ候補として検討
男性	30代	普通	自分に医療についての予備知識が必要だと思った。	
男性	40代	良かった	災害医療の視点から、自治体、他機関との連携が不十分であること、進められているDMAT、災害医療コーディネーター等がうまくいっていないと、甚だしいと、総務省の「総務省災害対応マニュアル」を、総務省の災害対応マニュアルの「自衛隊のオペレーション」になり期待が高くなるような話もありましたが、特に災害が広域化すると自衛隊も行政に調整を頼らなくてはならない途中で投げ捨てられても困ると思います。また、行政職員は救助実務に素人であることは確かなのでオペレーションの「調達」を毎度一から組み立ててはならない努力は何かしたいと考えています。	
女性	30代	良かった	日本の災害対応もやはりうまく機能していないことが理解できました。日本でもICSの統一など決めないとダメだと思っています。	
男性	50代	非常に良かった	自分の勉強の足りなさに十分に理解出来たところもありますが、永田先生の話は市でも防災対策にも考えられる点が多く行政の対応を見直したい。	
女性	50代	非常に良かった	本日はありがとうございました。	
男性	40代	普通	JMATIについてもう少し説明が欲しかった。	熊本地震や常総市のその後(何が変わったか、教訓は) → テーマ候補として検討
男性	50	非常に良かった	1、佐藤先生の話 ヘリコプター等航空機の支援を得るうえで、活用できる点や限界について自治体がよく理解しておく必要があることがよく理解できました。(私も元自衛官なので、そう思っていました) 2、永田先生 本災害における自治体や医療対応の課題がよくわかった。	熊本地震や北部豪雨の際に自主防災組織等の共助がうまくいった例といかなかった例など、現場意見がうかがえたらと思います。
男性	60	良かった	1、九州北部豪雨の実装がよくわかった(不意打ちであった) 2、市町村の災害対応車の立場からは災害対策本部の活動上、下記の点についてもう少し明確にしてほしい (1)避難所の状況価値 ・人的情報等が集約する情報資料をいかに集約し整理すべきか ・市災害対策本部と避難所の通信確保をいかに行うべきか (2)市町村の対策本部は市町村チョンが指揮・統制すべきであり、関係機関はあくまでもサポートする組織であると思います	1、弾道ミサイル住民避難のあり方 2、原子力発電所事故に次ぐUP2圏内住民を受け入れる市町村の受け入れ態勢のあり方 → 国民保護をテーマに2月にシンポジウムを開催
男性	70代	非常に良かった	航空支援、統制の話は、極めて大事な事柄であり、2人の講師のご指摘は適切なものであった。今後検討すべき重要な話題である。	今日のように、第一的経験を有する方の話をお聞きしたい。 → テーマ候補として検討
男性	30代	良かった	・災害時における医療機関として想定すべき点 ・行政とのやりとりの中で難航した点 ・災害訓練での今後の課題、で自身としての方針	医療機関と行政の災害時における連携について(成功事例や課題) → テーマ候補として検討
男性	50代	良かった	幼児とその母親、祖母が亡くなられた例を紹介していただきました。もっと早く2回によっていたら助かった可能性があったと…。災害現場を何度も見た経験のある私も、それを日頃より強く感じておりました。『垂直避難』これは重要であると考えます。自治体の職員の皆さまももっと研究されてはいいかがでしょうか？	災害は増加傾向にないと述べておりましたが、特に雨の少ない北海道においては、近年、雨の降り方が大きく変化し、これまでにない洪水が発生して水害が多発しているようです。学会におかれましては、この辺りを事実と照らし合わせ、水災害発生頻度についてもっと研究されてはどうでしょうか。
男性	30代	良かった		
男性	50代	非常に良かった	実際の災害が起きた場所の話がきけたこと	実務の部分を多く聞きたいと考えている。 → 講師選定の基準として検討
男性	40代	非常に良かった	本件で改めて正確な情報収集の大切さを考えさせられた。特に情報処理の標準化やルール化など具体的な提案が聞け、大変参考となった。JITM地図の活用については、具体的に検討してみたいと思	ドローンによる情報収集の可能性について → テーマ候補として検討
男性	40代	良かった	永田講師の災害対応を通じた関係機関連携の課題をもう少しお伺いしたかった。	・行政と医療の連携、他機関の連携 → テーマ候補として検討
男性	50代	非常に良かった	・災害医療、災害拠点病院、DMATと地域医療について詳細を知りたい ・災害本部現況(熊本地震)など非常に良かった	

第40回定例研究会・シンポジウム アンケート結果

日時	司会者・討論者	報告者	報告内容
2018年2月18日	第一部	共催シンポジウム	横田真二(内閣官房内閣審議官) 藤山秀章(公益財団法人河川財団理事)
	第二部	日本自治体危機管理学会 第40回定例研究会	菅井俊世(名古屋産業大学大学院環境マネジメント研究科教授) 森保宏(名古屋大学大学院環境学研究科教授)
			「国民保護の取り組みと弾道ミサイルへの対応について」(横田) 「湾岸戦争におけるミサイル等の戦争体験」(藤山) 「最新の建物ごとの地震被害想定法について」

※赤文字はコメントに対する事務局対応

アンケート回答

性別	年齢	今回の研究会の内容について、あてはまるものを丸で囲んでください ／第一部	今回の研究会の内容について、あてはまるものを丸で囲んでください ／第二部	研究会のご感想やご意見をご自由にお書きください
男性	50代	普通	非常に良かった	
男性	50代	非常に良かった		第一部:当時、湾岸戦争時、北京の〇〇飯店(中華全国青年協議会がバック)におり、CNNのTVで、ミズーリからトマホークの発射シーンを見て冷ややかに対応していたのを覚えています。 中身に対しては現地からの生の声、これを聞くことで、いったい何が出来るのか、(米国の軍産複合体で同期の戦争が又、始まる)とした時、むずかしいが、簡単にいかないであろうという事を認識できました。 おもしろかったです。外務省の方が米軍に誤射?された件、個人的に質問したいと思ったからです。 PS. TVでの警報発信。日本ではむずかしいですが、地震速報みたいに出来るとういなど感じたいです。
女性	30代	非常に良かった	不参加	第一部:普段あまり聞くことができない内容について知ることができ、良かった。
男性	50代	良かった	不参加	
男性	60代	普通		第一部:日常の市民生活では、入手できない話題で、国民保護のシステムを含め、興味深く聞かせて頂きました。
男性	60代	良かった		第一部:弾道ミサイル落下時を想定した訓練について、効果的な訓練の例、訓練を実施するさいに留意すべき事、訓練を通じて感じた事、など。ミサイル攻撃後の心理(ストレス)状況(国民)について。→ テーマ候補として検討
女性	40代	非常に良かった		
男性	50代	良かった	不参加	第一部:行政人としてあるべき姿勢をお話いただいたと思います。また、質疑により、説明や資料の行間を少し理解できたと思います。
男性	50代			第一部:「身近な話題」ではないと思いますが、現実味のある話題でしたので、多方面、多方向からこの話題を続けて頂きたいと思います。
男性		非常に良かった		第一部:着弾の可能性が判明してから、着弾するまでの時間が数分しかないと考えたと、警報発出の可否判断をする組織(人)が、どこかを考えるのは重要だと思うのですが、現状としてはどこ(誰)を想定しているのか?
男性	30代	良かった	普通	第一部:国民保護という最近注目されているテーマを講演していただいて、有意義でした。 国民保護は、細かい部分はまだ国会でも議論されていないので、踏みこんだ内容を今の段階では聞くことができないのが残念なところ。今後、議論の深まりに応じて、再度テーマにいただければと思います。→ テーマ候補として検討
男性	50代	非常に良かった	非常に良かった	第二部:最新の建物ごとの地震被害想定法— カッコいい名前をつけて下さい。 第一部:防災士ですがたいへんためになりました。ありがとうございます。
男性	60代	良かった	良かった	
男性	60代		非常に良かった	第二部: ・スライドNo.の印刷がされていないのはわかりずらいです。 ・建物毎の地震ハザードマップができたのはおどろいた。→どこまでのエリアにいつごろ展開されるのでしょうか。 ・自治体さん側での活用集を早急に検討していただきたいですね。
男性	50代	非常に良かった		第一部:「湾岸戦争におけるミサイル等の戦争体験」について、さらに詳細な話を聞きたい。 「ミサイルが着弾した場合、ハンニツになるかどうか?トップの考え次第で決まる等」、非常に勉強になる講演であった。
男性	50代	非常に良かった	非常に良かった	第一部:馴染みの少ない「国民保護」の基本的な概要を理解することが出来た。 又、湾岸戦争においてミサイルの脅威の下での貴重な体験談、J-Alertの限界力、北朝鮮の今後の日本の対応等考えさせられる講演であった。 国民保護に関しては、もっと聞きたかった。
男性	70歳～	良かった	普通	
男性	50代	良かった	良かった	
男性	70歳～	良かった	良かった	
女性	30代	良かった	良かった	第一部:国民保護の取り組みについては、国・県・市町村の役割など基本的なことが中心に説明され、わかりやすかったが、概要にとどまっていたので、国として感じている課題や今後の取り組みなどについて、他では聞けない話があるよりよかったです。 「湾岸戦争におけるミサイル等の戦争体験」は、書面や報道ではわからない生の現場の話が聞けることができ、貴重な経験となりました。
男性	40代	非常に良かった	非常に良かった	
女性		良かった	良かった	第二部:具体的にどここの市町村で(どれだけの範囲で)活用が始まっているか、また具体的な未来に向けての展望を聞けるとありがたかったです。 勉強になりました。ありがとうございました。
女性	40代	良かった	良かった	第一部:災対法と国民保護法のすみ分けなど(前者については触れることが多いものの、後者はあまり知られていないため)、全く意識していなかったので、興味深いものでした。 第二部:自助・共助が重要という共通認識の中で、「自治体が情報を持っているので、いざというときは自治体が何とかしてくれる」という考え方はリスクだなあと気がしました。町内会くらいの単位で自主防災組織などで共有しているようにすることが大事かと思いました。延焼や津波などのリスクとつながっていくことがあるのか、今後の展開に興味を持ちました。
男性	70歳～	普通	非常に良かった	現実の体験に根ざした話、また先進的な研究成果の紹介は参考になる。
男性	50代	良かった	非常に良かった	第二部:最新の取組と思うが、今後の方向性を感じ取ることができてよかった。
男性	50代	非常に良かった	良かった	第一部:湾岸戦争時の状況は興味深く話を聞くことができました。ありがとうございます。もう少しお話を聞くことができればよかったです。
男性	30代	非常に良かった	良かった	第一部:実際の体験談を話していただけたので、イメージしやすかった。
男性	40代	非常に良かった	非常に良かった	第一部:取組の考え方について大変参考になった。一般的にはアラートの音を変えて欲しい。 第二部:BCP/MIに利用できる。リフォームのスマホタログの0.5の基準は、何をすればよいか見ると良い(例えば中心の柱の強度をあげる)。
男性	50代	普通	非常に良かった	第二部:リスク評価について、コストパフォーマンスの点で優れ、かつ、人命保護の観点から効果的な方法につながる知識、方法を学ぶことができ、非常に勉強になった。
男性	50代	良かった	非常に良かった	第二部:名古屋産業大学の菅井先生の発表において、仮想地震モデルに比べ空間統計法により建物個々の震度が推定できる、という発表の技術的事項、特にメッシュ法よりコスト・精度が高いという点について詳しく聞きたかった。

別紙6 第三者評価委員会

最終評価票

評価委員：

成蹊大学大学院法学政治学研究科	教授	武田 真一郎
首都大学東京大学院社会科学研究科	教授	大杉 覚
流通経済大学法学部大学院法学研究科	准教授	坂野 喜隆

明治大学 私立大学戦略的研究基盤形成支援事業
「危機管理における社会運営とガバナンスの確立に関する研究」に係る研究進捗状況評価票【最終評価】

大学名	選定年度	研究プロジェクトの主体となる研究組織名	研究代表者
明治大学	平成25年度	危機管理研究センター	市川 宏雄
研究プロジェクト名		危機管理における社会運営とガバナンスの確立に関する研究	
研究組織関連	1. 研究プロジェクト遂行のための責任体制の明確性 ・ 研究代表者、チームリーダーの役割など(p.4「(2)研究組織」参照)		評価 ○(優)
	2. 研究者間・チーム間の調整・連携 ・ 研究成果や進捗状況の共有と点検・改善の仕組みなど (p.4「(2)研究組織」及びp.11「自己評価の実施結果と対応状況」参照)		評価 ○(優)
	3. 研究支援体制 ・ 研究プロジェクトに参加する研究者の人数など(p.4「(2)研究組織」参照)		評価 ○(優)
	4. 大学院生・PD(ポスドク研究員)の活用状況 ・ 大学院生・PDの活用など(p.4「(2)研究組織」参照)		評価 ○(優)
研究施設関連	5. 研究施設の整備状況 ・ プロジェクトに適した装置設備の整備など(p.5「(3)研究施設・設備等」参照) ・ 研究施設の面積、装置、設備の整備状況など(p.5「(3)研究施設・設備等」参照)		評価 ○(優)
	6. 装置・設備の活用状況 ・ 主な研究装置、設備の名称及びその利用時間数及び使用者数など (p.5「(3)研究施設・設備等」参照)		評価 ○(優)
	7. 外部の研究資金の導入状況 ・ 他の研究支援事業等への申請状況・研究費補助を受けた実績など (p.12【研究成果の副次的効果】参照)		評価 ○(優)
研究計画・進捗関連	8. 目標・計画の達成度 ・ 当初の計画に沿って研究が進められているかなど (p.6「(4)研究成果の概要」参照)		評価 ○(優)
	9. 自己評価・外部評価体制 ・ 評価体制の有無及び実施など(p.11【外部(第三者)評価の実施結果と対応状況】参照)		評価 ○(優)
	10. 研究業績・発信等 ・ 著書、シンポジウムの開催、マスコミ等への発信など (p.12~37「13 研究発表の状況」参照)		評価 ○(優)
	11. 今後の展望 ・ 今後の研究方針と期待される成果など (p.11【研究期間終了後の展望】参照)		評価 ○(優)
総合所見(特筆事項がありましたら、下記欄にご記入ください) 危機管理というテーマに対して適任と考えられる多数の研究者が連携し、精力的な研究を進めていることが研究成果や研究報告から十分にうかがわれる。研究施設や補助スタッフもきわめて充実している。様々な調査に基づいて実証的な研究が行われていることも特筆される。今後は各研究の関連性をより明確にするとともに、危機管理という大きなテーマの全体にかかわる基本的な理念の提示を試みることを期待したい。			総合評価 A

総合評価の目安: A … 順調に進んでいる、B … 大きな問題はない、C … 改善の必要あり

2018年 2月 22日

評価者氏名 : 武田 真一郎

明治大学 私立大学戦略的研究基盤形成支援事業
「危機管理における社会運営とガバナンスの確立に関する研究」に係る研究進捗状況評価票【最終評価】

大学名	選定年度	研究プロジェクトの主体となる研究組織名	研究代表者
明治大学	平成25年度	危機管理研究センター	市川 宏雄
研究プロジェクト名		危機管理における社会運営とガバナンスの確立に関する研究	
研究組織関連	1. 研究プロジェクト遂行のための責任体制の明確性 ・ 研究代表者、チームリーダーの役割など(p.4「(2)研究組織」参照)	評価	○(優)
	2. 研究者間・チーム間の調整・連携 ・ 研究成果や進捗状況の共有と点検・改善の仕組みなど (p.4「(2)研究組織」及びp.11「自己評価の実施結果と対応状況」参照)	評価	○(優)
	3. 研究支援体制 ・ 研究プロジェクトに参加する研究者の人数など(p.4「(2)研究組織」参照)	評価	○(優)
	4. 大学院生・PD(ポスドク研究員)の活用状況 ・ 大学院生・PDの活用など(p.4「(2)研究組織」参照)	評価	○(優)
	5. 研究施設の整備状況 ・ プロジェクトに適した装置設備の整備など(p.5「(3)研究施設・設備等」参照) ・ 研究施設の面積、装置、設備の整備状況など(p.5「(3)研究施設・設備等」参照)	評価	○(優)
研究施設関連	6. 装置・設備の活用状況 ・ 主な研究装置、設備の名称及びその利用時間数及び使用者数など (p.5「(3)研究施設・設備等」参照)	評価	○(優)
	7. 外部の研究資金の導入状況 ・ 他の研究支援事業等への申請状況・研究費補助を受けた実績など (p.12【研究成果の副次的効果】参照)	評価	△(可)
研究計画・進捗関連	8. 目標・計画の達成度 ・ 当初の計画に沿って研究が進められているかなど (p.6「(4)研究成果の概要」参照)	評価	○(優)
	9. 自己評価・外部評価体制 ・ 評価体制の有無及び実施など(p.11【外部(第三者)評価の実施結果と対応状況】参照)	評価	○(優)
	10. 研究業績・発信等 ・ 著書、シンポジウムの開催、マスコミ等への発信など (p.12~37「13 研究発表の状況」参照)	評価	○(優)
	11. 今後の展望 ・ 今後の研究方針と期待される成果など (p.11【研究期間終了後の展望】参照)	評価	○(優)
総合所見(特筆事項がありましたら、下記欄にご記入ください) 実務と理論にまたがる総合研究であり、国際比較の視点も取り入れた点、単なる調査研究にとどまらず人材育成など実践に貢献する取り組みである点について高く評価いたします。			総合評価
			A

総合評価の目安: A … 順調に進んでいる、B … 大きな問題はない、C … 改善の必要あり

2018年 2月 6日

評価者氏名 : 大杉 寛

明治大学 私立大学戦略的研究基盤形成支援事業
「危機管理における社会運営とガバナンスの確立に関する研究」に係る研究進捗状況評価票【最終評価】

大学名	選定年度	研究プロジェクトの主体となる研究組織名	研究代表者
明治大学	平成25年度	危機管理研究センター	市川 宏雄
研究プロジェクト名		危機管理における社会運営とガバナンスの確立に関する研究	
研究組織関連	1. 研究プロジェクト遂行のための責任体制の明確性 ・ 研究代表者、チームリーダーの役割など(p.4「(2)研究組織」参照)	評価	○(優)
	2. 研究者間・チーム間の調整・連携 ・ 研究成果や進捗状況の共有と点検・改善の仕組みなど (p.4「(2)研究組織」及びp.11「自己評価の実施結果と対応状況」参照)	評価	○(優)
	3. 研究支援体制 ・ 研究プロジェクトに参加する研究者の人数など(p.4「(2)研究組織」参照)	評価	○(優)
	4. 大学院生・PD(ポスドク研究員)の活用状況 ・ 大学院生・PDの活用など(p.4「(2)研究組織」参照)	評価	○(優)
	5. 研究施設の整備状況 ・ プロジェクトに適した装置設備の整備など(p.5「(3)研究施設・設備等」参照) ・ 研究施設の面積、装置、設備の整備状況など(p.5「(3)研究施設・設備等」参照)	評価	○(優)
研究施設関連	6. 装置・設備の活用状況 ・ 主な研究装置、設備の名称及びその利用時間数及び使用者数など (p.5「(3)研究施設・設備等」参照)	評価	○(優)
	7. 外部の研究資金の導入状況 ・ 他の研究支援事業等への申請状況・研究費補助を受けた実績など (p.12【研究成果の副次的効果】参照)	評価	○(優)
研究計画・進捗関連	8. 目標・計画の達成度 ・ 当初の計画に沿って研究が進められているかなど (p.6「(4)研究成果の概要」参照)	評価	○(優)
	9. 自己評価・外部評価体制 ・ 評価体制の有無及び実施など(p.11【外部(第三者)評価の実施結果と対応状況】参照)	評価	○(優)
	10. 研究業績・発信等 ・ 著書、シンポジウムの開催、マスコミ等への発信など (p.12~37「13 研究発表の状況」参照)	評価	○(優)
	11. 今後の展望 ・ 今後の研究方針と期待される成果など (p.11【研究期間終了後の展望】参照)	評価	○(優)
総合所見(特筆事項がありましたら、下記欄にご記入ください) 危機管理というテーマに対して、民間事業者・社会リスクを含めた包括的な危機管理・人材育成という3つの観点から精力的に研究を進めるとともに、研究成果を十分に社会に還元していることがうかがわれる。今後は、民間の各業界に応じた公民連携の在り方を一層明確にし、危機管理におけるガバナンスのあり方についての理論化を期待したい。			総合評価
			A

総合評価の目安: A … 順調に進んでいる、B … 大きな問題はない、C … 改善の必要あり

2018年 2月 27日

評価者氏名: 坂野 喜隆

別紙7 マスコミ報道一覧

(1) 新聞記事

初年度【2013年度】			
日付	新聞名	見出し	対象者
2013年6月25日	茨城新聞	災害、防災で意見交換 常陸太田で市民検討会	砂金
2013年7月16日	読売新聞	[13参院選・数字が語る](1) 災害前の集団移転は0件(連載)	中林
2013年7月28日	朝日新聞 北海道総合	20年後の奥尻考える 中高生、研究者らと「未来新聞」 釜石からも参加者	中林
2013年8月30日	沖縄タイムス	日中台専門家危機管理フォーラム 沖縄の防災拠点化提言 国家を超え「平時の交流を」	青山
2013年9月1日	朝日新聞	(災害大国 あすへの備え) 関東大震災を知る 複合被害、各地に爪痕	中林
2013年9月22日	読売新聞	[Q&A] 集団移転 造成着工 まだ3割強	中林
2013年10月31日	日本経済新聞 夕刊	半数の家庭、水備蓄ゼロ、「1週間以上必要」の声もあるが…、大手飲料調べ	中林
2013年11月4日	朝日新聞	広域避難、進む相互協定 都や17指定市、都府県境越え締結	中林
2013年11月9日	毎日新聞 夕刊	内閣府:防災力向上へ職員研修 市区町村150人集め	中林
2013年11月9日	毎日新聞 地域版/静岡	特定避難困難地域:浜松・防潮堤整備後、5カ所道路寸断など	中林
2013年11月10日	東京新聞	[談論誘発] 明治大学大学院教授青山やすし氏 土石流災害 伊豆大島の教訓 「避難第一」先人の知恵	青山
2013年12月23日	読売新聞	[減災学] 近隣同時被災に備え 離れた自治体支援協定	中邨
2014年1月28日	毎日新聞	記者の目:首都直下地震の被害想定	中林
2014年2月1日	産経新聞	都知事選2014 主要候補者 「五輪」「原発」違い鮮明 防災は耐震強化重視	牛山
2014年3月10日	日本経済新聞	災害時も行政機能維持、自治体、手順書策定相次ぐ、危機の死角を最小限に	中林
2014年3月18日	毎日新聞 地域版/静岡	浜松市:津波に強い地域づくり 焼津市に次ぎ、推進計画策定	中林
2014年3月29日	読売新聞	[スキヤナー]津波対策で指定拡大 南海トラフ強化地域	中林

第2年度【2014年度】			
日付	新聞名	見出し	対象者
2014年6月7日	日本経済新聞 夕刊	都内進まぬ食料備蓄、「3日分」企業の半数どまり、「費用・場所ない」、中小に負担重く	中林
2014年6月14日	読売新聞	[知事ノート]五輪の震災対策 海外紹介に意欲 =東京	中林
2014年6月14日	毎日新聞 地域版/東京	20年東京五輪:前・大会中の大災害対応 舛添知事、政府や組織委と協議へ	中林
2014年8月23日	読売新聞	[論点スペシャル] 広島土砂災害	青山
2014年8月30日	朝日新聞 夕刊	(あのとき・それから)大正12年 関東大震災 地震に強い都市造りの教訓	中林
2014年9月9日	朝日新聞	大震災、復興への教訓 関東・阪神・東日本 比較研究シンポ、事前計画の重要性議論	中林
2014年10月31日	朝日新聞 新潟全県	長岡で考えた、復興 災害情報の扱いなど議論 知事や市長交え公開シンポ	中林
2014年11月4日	朝日新聞 大阪	境界あいまい、震災復興に壁 岩手、土地塩漬け 神戸、同意集めに奔走	中林
2014年11月23日	東京新聞	[談論誘発]明治大学大学院教授 青山やすし氏 突発的噴火 観測態勢の強化 研究者の育成も	青山
2014年11月24日	朝日新聞	(災害大国 あすへの備え) 仮設準備、必要数の 4割 沿岸部55市町村 南海トラフ地震	中林
2014年11月24日	朝日新聞 名古屋	(災害大国あすへの備え) 仮設住宅、供給めど 10万戸 南海トラフ地震	中林
2014年11月24日	朝日新聞 西部	(災害大国 あすへの備え) 仮設住宅、供給めど 4割 南海トラフ地震	中林
2014年11月24日	毎日新聞	クローズアップ2014:長野北部地震 要警戒 地域の一つ	中林
2014年11月24日	毎日新聞 大阪	クローズアップ2014:長野北部地震 要警戒 断層帯で発生 糸魚川-静岡構造線、北端	中林
2014年12月23日	朝日新聞 名古屋	相続人どこ、荒れる山 所有者不明、拡大	中林
2015年1月6日	建通新聞	2015年私はこう見る 東京に世界レベルの規制 緩和とインフラを	市川
2015年1月10日	毎日新聞	防災専任職員:増員 都道府県・政令市の8割 毎 日新聞調査	中林
2015年1月10日	毎日新聞	防災専任職員:都道府県・政令市、東日本大震災 後8割で増員 毎日新聞調査	中林
2015年1月18日	朝日新聞	(時時刻刻)復興住宅、20年の教訓 阪神、高 齢化・目立つ空室 交流催し、減る担い手	中林

2015年2月4日	東京新聞	全島避難解除10年観光資源化も 三宅復興へ 火山と共生 桜田昭正村長 青山やすし元副知事	青山
2015年2月17日	毎日新聞 地域版/静岡	浜松・つり橋崩落：安全維持の難しさ、浮き彫り 住民は別の建設場所へ変更要望 限られた予算、 市は頭を抱え	中林
2015年2月19日	毎日新聞 夕刊	防災の死角：国連世界会議を前に／1 進まぬ民 間自助 「首都直下」 帰宅70万人行き場なし	中林
2015年2月21日	日本経済新聞 夕刊	難路の安全確保苦悩、急峻な地形、限られた予算、 つり橋崩落の浜松市	中林
2015年3月13日	読売新聞	[東日本大震災4年] (下) 事業継続計画 策定 進まず (連載) = 栃木	中林
2015年3月14日	朝日新聞 栃木全県	(東日本大震災4年 残された課題) 復興支援、 何が大切か	中林
2015年3月31日	毎日新聞 大阪 夕刊	首都直下地震：死者・全壊建物を半減 10年で 政府、初の減災目標	中林
第3年度【2015年度】			
日付	新聞名	見出し	対象者
2015年4月1日	毎日新聞	クローズアップ2015：首都直下地震 方策乏 しい減災目標	中林
2015年5月30日	読売新聞	[緊急 論点スペシャル] 口永良部島噴火 全島 避難	青山
2015年6月13日	読売新聞 夕刊	[入門！] 危機管理学 非常事態 予防から復興 まで	中邨
2015年7月3日	読売新聞	口永良部噴火 「家畜救う」一時入島 避難の親 子 町困惑「まだ危険」	青山
2015年9月11日	神奈川新聞	洪水への危機感低下	中林
2015年10月29日	夕刊フジ	旭化成建材 会社ぐるみの悪質さ 親会社経営 に打撃も	中林
2016年2月22日	読売新聞	震災5年 あの時	中林
2016年3月30日	産経新聞	水平垂直＝首都直下地震 法整備に課題	市川
第4年度【2016年度】			
日付	新聞名	見出し	対象者
2016年4月18日	茨城新聞	熊本地震 避難生活にストレス 広域支援に課題	中林
2016年4月21日	産経新聞	熊本地震1週間 見えぬ未来 覆う不安	市川

2016年4月22日	朝日新聞	家の耐震性、高めるには	中林
2016年4月25日	産経新聞	熊本地震 体育館や庁舎 耐震化でも損壊	市川
2016年5月3日	西日本新聞	読み解く＝耐震係数 地域差に疑問	中林
2016年5月7日	朝日新聞 夕刊	被災地の行政、教訓伝える	中林
2016年5月13日	毎日新聞	「記者の目 防災計画に『車中泊』を」	中林
2016年5月16日	読売新聞	[連鎖地震] 課題（下）罹災証明遅れ 再建足かせ（連載）	牛山
2016年5月23日	神奈川新聞	連鎖地震 熊本の教訓 災害時拠点 神奈川県内の庁舎 5市町耐震化未了	中林
2016年5月25日	大阪日日新聞	全国の自治体 災害時拠点なのに 庁舎耐震化「後回し」	中林
2016年5月30日	河北新報	型建築物の構造計算に活用 地震地域係数見直し求める声	中林
2016年6月6日	日本経済新聞	「連鎖地震 浮かぶ課題(3)」	中林
2016年6月14日	神戸新聞	熊本地震2カ月 建物被害判定運用に格差	中林
2016年6月16日	読売新聞	首都の顔 降板 舛添都政 保育や福祉「成果なし」＝東京	中林
2016年6月17日	西日本新聞	「防災 『事前復興』 取り組み」	中林
2016年6月23日	日本経済新聞	「ニュース複眼 『首都の顔』 都知事の資質」 「都市世界一へ 改革貫け」	市川
2016年6月27日	日経産業新聞	耐震に地域差 見直し機運 工場・社屋など改修の可能性	中林
2016年7月18日	西日本新聞	公費解体 実施17棟のみ 申請1万件超 業者不足響く	中林
2016年8月19日	山陽新聞	広島土砂災害あす2年 自宅再建遠く	中林
2016年9月11日	朝日新聞	被災3県完了18% 元の場所で宅地造成	中林
2016年12月19日	朝日新聞	災害大国 被害に学ぶ ひしめく木造 燃えない街へ	中林

第5年度【2017年度】			
2017年3月28日	新潟日報	糸魚川大火3カ月 復興計画酒田大火に学ぶ 防災・集客両視座で	中林
2017年4月27日	東京新聞	震災6年 避難なお12万人 復興 問われる姿勢	中林
2017年5月31日	長崎新聞	震災避難10万人下回る 住宅無償提供打ち切り影響	中林
2017年6月22日	毎日新聞	17都議選 課題・識者はこう見る(下)	中林
2017年8月2日	河北新報	知事県外宿泊知らず 災害時連絡メールのみ 秋田県の危機管理「手薄」	市川
2017年10月4日	日刊建設産業新聞	日本自治体危機管理学会 次の時代の防災対策 都市における課題考える	中林
2017年10月5日	日刊建設産業新聞	日本自治体危機管理学会 次代の都市防災テーマにシンポ	中林
2017年10月12日	日刊建設産業新聞	日本自治体危機管理学会がシンポ 次代の防災対策 多面的に考える	中林

(2) 雑誌

初年度【2013年度】			
日付	雑誌名	タイトル	対象者
2013年10月28日	週刊 AERA	災害に「強い街」15カ所 独自調査で分かった。人気とは必ずしもリンクしない	中林
2013年11月11日	週刊 AERA	五輪「中止」はないのか？ 地震、火山、そして原発 2020年、変わる日本と私	中林
第2年度【2014年度】			
日付	雑誌名	タイトル	対象者
2014年5月23日	NAVIS	今後目指すべき公共インフラの姿とは	市川
2014年10月1日	明治大学広報	中林一樹特任教授が平成26年「防災功労者内閣府総理大臣表彰」を受賞	中林
2015年1月15日	明治 Vol.65	News & Opision 災害に強いまちづくりのために-「事前復興」からのアプローチ	中林
2015年1月23日	週刊朝日	100円ショップで備える、命を守る20品 列島壊滅に備えよ	中林
2015年3月1日	明治大学広報	首都直下地震に備えを	中林

(3) インターネット

初年度【2013年度】		
掲載サイト	見出し/URL	対象者
内閣府 HP 平成25年度広報ぼう さい夏号(第71号)	"過去の災害に学ぶ 37 1948年6月 福井地震 その1" http://www.bousai.go.jp/kohou/kouhoubousai/h25/71/past.html	中林
内閣府 HP 平成25年度広報ぼう さい秋号(72号)	"過去の災害に学ぶ 38 1948年6月 福井地震 その2" http://www.bousai.go.jp/kohou/kouhoubousai/h25/72/past.html	中林
第2年度【2014年度】		
掲載サイト	見出し/URL	対象者
内閣府 HP 平成26年度広報ぼ うさい冬号(第77号)	平成26年防災功労者を表彰 http://www.bousai.go.jp/kohou/kouhoubousai/h26/77/news_02.html	中林
第3年度【2015年度】		
掲載サイト	見出し/URL	対象者
タウンニュースさが みはら南区版 2015年7月10日	学長就任インタビュー「市民からまちづくりを」 http://www.townnews.co.jp/0302/2015/04/30/281597.html	中邨